

人と社会を支える
「ずっと。」

溪仁会グループCSRレポート

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

2015

ik 溪仁会グループ
医療法人 溪仁会 社会福祉法人 溪仁会

株式会社ソーシャル 株式会社ハーティワークス 医療法人 稲生会



【シンボルマークについて】

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」をひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

溪仁会グループ
CSRレポート
2015
CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT



編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

2015年版では、発行10年目を迎え、これまでのCSR活動を踏まえながら、さらに発展させていくため、社会的責任の国際規格であるISO26000の考え方を取り入れています。その中で「人」にクローズアップし、活動を支える職員の声を通して、組織の現在やその社会的使命を表現しています。ステークホルダーの方々にもご協力いただき、客観性が高まるように努めています。

第三者意見は、CSR分野に詳しい駿河台大学経済経営学部・同大学院総合政策研究科教授 日本経営倫理学会副会長・博士(経営学)の水尾順一氏にお願いいたしました。ご協力いただいた皆さまの声は、当グループの今後の事業のあり方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2014年度(2014年4月～2015年3月)の活動やデータを中心に、2013年度以前や2015年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーおよび各病院・施設・事業の実績データを収載した「年次報告書」は、当グループのWebサイト上で公開しております。 URL <http://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2016年11月を予定しています。

●発行
医療法人溪仁会 法人本部 2015年11月

●お問い合わせ先
医療法人溪仁会 法人本部 広報室
〒006-0811
札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号
溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501
E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

C O N T E N T S

溪仁会グループの組織と事業	P04
溪仁会グループの社会的使命	P06
溪仁会グループの事業理念	P07

特集 私たちがめざしてゆくものとは	P08
-------------------	-----

2014年度 活 動 報 告	P18
------------------------	-----

〈消費者課題〉みんなの笑顔のために。	P20
Progress 手稲溪仁会病院がめざす質の高い医療への取り組み	P24
数字で読み解く溪仁会グループの歩み	P28
〈コミュニティへの参画及びコミュニティの発展〉手を取り合って、元気の輪をつくろう。	P30
それは一人ひとりが輝いてこそ	P36
〈人権〉一人ひとり、みんなが大切。	P40
〈労働慣行〉支えて、支えられて、もっと強く。	P42
〈公正な事業慣行〉信頼されるビジネスパートナーへ。	P46
〈環境〉豊かな環境を、未来へ。	P48
〈組織統治〉一つの意味で、一つの目標へ。	P50

ステークホルダーとの対話	P52
「ずーっと。」の意味	P55

溪仁会グループ 施設運営概要

溪仁会グループMAP	P56
手稲溪仁会医療センター	P58
手稲溪仁会病院／手稲溪仁会クリニック	P59
手稲溪仁会医療センター・Tプロジェクト	P60
手稲家庭医療クリニック	P61
札幌西円山病院	P62
定山溪病院	P63
溪仁会円山クリニック	P64
泊村立茅沼診療所／喜茂別町立クリニック	P65
西円山敬樹園	P66
手稲つむぎの杜	P67
きもべつ喜らめきの郷／るすつ銀河の杜	P68
岩内コミュニティの丘(コミュニティホーム岩内／岩内ふれ愛の郷)	P69
月寒あさがおの郷／菊水こまちの郷	P70
コミュニティホーム(白石／八雲／美唄)	P71
カームヒル西円山／美唄市東地区生活支援センターすまいる／おおしまハーティケアセンター	P72
ハーティケアセンター(青葉／豊平／円山／新琴似)	P73
医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ	P74
株式会社ハーティワークス／株式会社ソーシャル／溪仁会健康保険組合	P75

TOP MESSAGE CSR経営による持続可能な組織の姿をめざして

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 田中 繁道	P76
--------------------------------	-----

第三者意見	P78
ISO26000対比表	P79
医療・保健・福祉サービスの用語集	P80
溪仁会グループ一覧	P82

皆さまが生涯、生き生きと自分らしく過ごせるように、地域の医療・保健・福祉を支え続けています。

私たち溪仁会グループは、創立以来札幌市を中心に、医療法人・社会福祉法人・ヘルパーサービス・福祉用具サービス会社などを運営し、「地域包括ケア」の実現に向けて、事業を続けてきました。

医療・保健・福祉が相互に連携することで切れ目なくサービスをつなぎ、皆さまが、生涯にわたり生き生きと暮らせる地域づくりをめざしています。

※各病院、施設、事業所等については、P82・83のグループ一覧に記載していますのでご参照ください。

治療とケア

乳幼児から高齢者まで、最新医療技術と機器を備え、総合医療を提供しています。



●手稲溪仁会病院(手稲区)



●手稲溪仁会クリニック(手稲区)



●手稲家庭医療クリニック(手稲区)

介護・社会復帰・生活支援 [入居支援]

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、介護・福祉のサービスを提供しています。



●特別養護老人ホーム
・西円山敬樹園(中央区)
・月寒あさがおの郷(豊平区)
・菊水こまの郷(白石区)
・岩内ふれ愛の郷(岩内町)
・きもべつ喜らめきの郷(喜茂別町)
・るすつ銀河の杜(留寿都村)
・手稲つむぎの杜(手稲区)



●介護老人保健施設
・コミュニティホーム
(白石区/八雲町/美幌市/岩内町)



●ケアハウス(軽費老人ホーム)
・カムヒル西円山(中央区)



●グループホーム
・西円山の丘(中央区)
・白石の郷(白石区)

保 健

病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。



●溪仁会円山クリニック(中央区)

地域医療支援

公立診療所の指定管理者として、地域の医療を支えています。



●泊村立茅沼診療所(泊村)



●喜茂別町立クリニック(喜茂別町)

介護予防・生活支援・ 通所介護

[在宅支援]

病気や障がい等で介護が必要な方に、専門のスタッフが日常生活をサポートいたします。



●デイサービス
(手稲区/中央区/豊平区/
厚別区/白石区/北区/留寿都村/
岩内町/美幌市/気仙沼市)



●ヘルパーステーション
(中央区/白石区/西区/
美幌市/八雲町/喜茂別町/
気仙沼市)



●訪問看護ステーション
(手稲区/厚別区/岩内町/
気仙沼市)



●福祉用具のレンタル・販売

療養とケア

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。



●札幌西円山病院(中央区)



●定山溪病院(南区)



溪仁会グループの事業理念



溪仁会グループの 社会的使命

「ずーっと。」 人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任（CSR）経営を推進します。
高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

2014年10月1日制定

安心感と満足の提供

Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立

Building the Foundations of Trust

プロフェッショナル マインドの追求

Attaining a Professional Mind

変革の精神

Developing the Spirit of Change

グループ経営の理念とその体系

私たち溪仁会グループは、「ずーっと。」を合言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。医療・保健・福祉のサービスの質（公益性）を「人」、経営の質（継続性）を「社会」という言葉で表現しています。

「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、KMS（溪仁会マネジメントシステム、P51参照）を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。



【特集】

私たちがめざしてゆくものとは

溪仁会グループの理念を支えるCSRへの取り組み

私たち溪仁会グループは「CSR経営」を掲げ、社会から信頼されるための組織づくりを推進しています。医療、保健、福祉を担う当グループの取り組みの一つ一つがCSRであり、質の高いサービスを提供し続けることが地域や社会への貢献になるという理念のもと、これからもさらなる高みを追求していきます。

CSR経営の確立によって 溪仁会グループの社会的使命を果たす

溪仁会グループは、2004年に秋野 豊明現会長が理事長に就任したことで、それまでのオーナー経営体制から、企業的な組織統治をめざすことになりました。そこで、当グループの理念を明確にし、組織全体で共有するために導入されたのが「CSR経営」という概念でした。当時の医療、保健、福祉分野においてCSR経営を取り入れている法人は全国的にも珍しく、先駆的な事例として注目を集めました。

CSR経営の宣言後は、公益性の確保や情報の開示（説明責任）、組織の持続性などをめざし、さまざまな取り組みを行ってきました。CSR経営を確立させるために、国際的なマネジメント規格（ISO）やプライバシーマークの取得、病院機能評価の受審、バランス・スコアカード（BSC）の導入など、第三者評価や自己評価システムなどを積極的に活用。同時に、コンプライアンス体制の整備や職員の教育・啓発活動にも力を注ぎました。

こうしたCSRへの取り組みをきっかけに、当グループは大きく成長しました。組織のめざす姿や社会における意義を明確に示したことで、職員一人ひとりが仕事に誇りとやりがいを持って臨めるようになったと感じています。私自身も、医療や保健、福祉を支え続けるには、公益性が高い事業であっても持続可能な経営の視点が必要であること、それによって得られた収益をサービスの向上に再投資することで、ステークホルダーの皆さまのメリットにつなげられるということ、CSR経営という裏付けによって確信しました。

2011年からは、組織の社会的責任に関する国際規格であるISO26000への対応として、溪仁会マネジメントシステム（KMS）の構築・運用を進めています。医療、保健、福祉の現場に即したマネジメント体制になることで、よりCSR経営を確かなものにできると考えています。『「ずーっと。」人と社会を支える』という社会的使命を果たすために、私たち溪仁会グループはCSR経営に取り組み続けます。

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長
田中 繁道



溪仁会グループ CSR活動の歩み

溪仁会グループにおけるCSR活動の歩みを、グループ全体での取り組みや特徴的な活動を中心にご紹介します。

- 2004年
 - CSRへの取り組みを開始
 - 「コンプライアンス・マニュアル」の全職員への配布を実施
 - ISO14001（環境マネジメントシステム）への審査登録を溪仁会グループ全体で実施
 - 溪仁会グループ全体で個人情報保護への取り組み開始
- 2005年
 - 施設単位で行っていたISO9001（品質マネジメントシステム）への審査登録を溪仁会グループ全体で実施
 - 手稲溪仁会病院において道央ドクターヘリ事業がスタート
- 2006年
 - 日本の医療、保健、福祉分野の法人では初となる「溪仁会グループCSRレポート2006」発刊
 - 社会福祉法人南静会（2009年に「社会福祉法人溪仁会」に改称）「プライバシーマーク」取得
 - バランス・スコアカード導入
- 2007年
 - 医療法人溪仁会・（株）ソーシャル・（株）ハーティワークス「プライバシーマーク」取得
 - 感染性廃棄物の産業用燃料へのリサイクル活動を開始
- 2008年
 - 溪仁会グループ職員によるおたるドリームビーチ清掃活動を開始
 - 溪仁会グループの各病院・施設においてリングブルの収集活動を開始
- 2009年
 - 溪仁会健康保険組合設立
 - 市民公開イベント「みんなの健康フェスタ」開催
- 2011年
 - 東日本大震災において手稲溪仁会病院から災害派遣医療チーム（DMAT）を岩手県に派遣。また、同病院から日本医師会災害医療チーム（JMAT）に医療スタッフ41名を派遣
 - 札幌西円山病院のリハビリテーション部が、東日本大震災被災地での復興者支援ボランティアを開始
 - ISO26000（社会的責任の国際規格）の自己宣言を視野に、独自の「溪仁会マネジメントシステム（KMS）」の構築・運用を開始
- 2012年
 - FM三角山放送局において「医学ひとくち講座」開始
 - 溪仁会グループの環境活動への取り組みをまとめた環境活動レポート「溪仁会エコびとエコもの」発刊
 - 社会福祉法人溪仁会が法人創立30周年の記念事業として植樹活動を開始
- 2013年
 - コンプライアンスDVD「思いやりの心で「ずーっと。」」制作
- 2014年
 - 「コンプライアンス・マニュアル」を改訂し「CSR[職員行動基準]ハンドブック」制作。全職員に配布
 - 溪仁会グループ内の環境保護活動を表彰する「Fun to Eco Project～エコびとエコもの表彰」開始
 - 『「ずーっと。」人と社会を支える』をコーポレートスローガンとした溪仁会グループの社会的使命を発表

回復期リハビリテーションを担う新病院開設 そして新たなまちづくり構想へ

Kプロジェクト

溪仁会グループ

急性期の治療が終わった患者さまに専門的なリハビリテーションを提供し、ご自宅に戻ることを支援する回復期リハビリテーション。札幌西門山病院では早くから病棟を開設し、高い実績を挙げてきました。そのミッションを受け継ぎ、リハビリテーション医療を中核としたまちづくりをめざす、新たなプロジェクトが始まっています。



急性期から在宅復帰までをつなぐ 回復期リハビリテーションの役割

脳血管疾患や脊椎・下肢骨折、肺炎・胸腹部手術後廃用などの急性期を経過した患者さまに、日常生活動作の向上や在宅復帰を視野に入れた専門的・集中的リハビリテーションを提供するのが回復期リハビリテーション病棟です。札幌西門山病院は、2000年に北海道でいち早く認可を受け、2006年からは365日にわたるリハビリテーションの提供を実施、専任のリハビリ医師の配置やチーム医療体制など、常に質の高いリハビリテーション医療を実践してきました。

患者さまの在宅復帰に向け、重要な役割を持つ回復期リハビリテーション病棟ですが、高齢化が進む現在の日本の医療提供体制においては十分とはいえず、溪仁会グループでは、そうした機能を持つ病院の必要性が強く認識されるようになっていました。札幌西

門山病院での実績もあり、新病院の開設に向けたプロジェクトの検討が進められていきました。



回復期を担う新病院開設に向け Kプロジェクトがスタート

新病院の計画は、溪仁会グループ全体で取り組む事業であることから「Kプロジェクト」と名付けられ、横串 算敏札幌西門山病院副院長を責任者(2015年2月より新病院開設準備室室長)に準備が進められてきました。回復期リハビリテーションを軸に、在宅支援や介護予防などさまざまな機能を持たせることや、アクセスなども考慮し、市の中心部に近い桑園地区での開設が決定しました。

新病院は回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を持ち、急性期医療と在宅復帰を含む維持期医療をつなぐ要の役割を果たします。地域包括ケア病棟では、回復期リハビリテーションの

対象から外れる患者さまを受け入れ、幅広い年代・疾患に対応する考えです。また、地域を支える役割として、在宅療養支援病院^{※1}と在宅支援リハビリセンター^{※2}の機能を担い、訪問診療や通所・訪問リハビリテーションのほか、訪問看護事業などの併設を予定しています。



札幌西門山病院 副院長
新病院開設準備室 室長
横串 算敏

^{※1} 在宅療養支援病院
患者さまがご自宅で療養生活を送れるように、24時間体制で訪問診療や訪問看護などを提供する病院のこと
^{※2} 在宅支援リハビリセンター
かかりつけ医へのリハビリ支援を行うとともに、自立生活・社会参加を支援する役割を果たす基幹的リハビリ病院・施設のこと

回復期リハビリテーションの展望から Kプロジェクトへ

2014年7月現在の 回復期リハビリテーション病棟ベッド数

全 国 69,372床(54床)
北海道 3,168床(58床)
※札幌市 1,276床(65床)
()内は人口10万人あたりのベッド数

2025年に予想される 回復期病床の 必要ベッド数

全 国 375,000床
北海道 20,000床

回復期リハを担う病院のニーズが増える



病院を核としたまちづくりへ 「溪仁会ケアタウン」構想

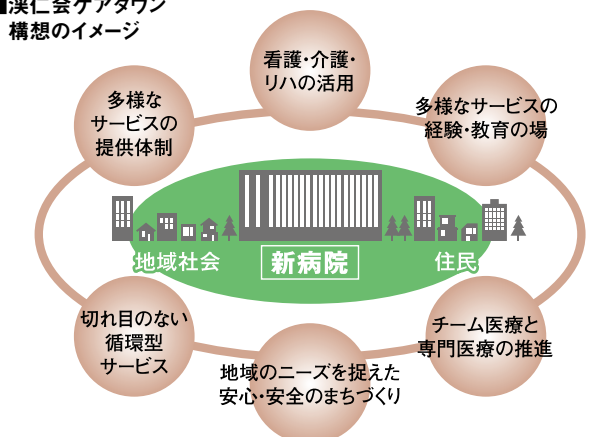
新病院ではリハビリの観点から地域に暮らす人たちを支援する仕組みを構築し、超高齢社会に対応できるまちづくりの拠点となることを目標にしています。横串室長は「病気の時以外でも、何かあったらあの病院へ行こうと頼られる存在になりたい」と言います。

これは、地域包括ケアシステムのモデルとなる取り組みでもあります。新病院の開設を機に、さまざまな医療機関や施設・事業所、行政機関やNPO法人、地域活動ともかかわりながら、いつか理想的な「ケアタウン」をつくりたい。地域の力を活かし、人々が安心して、生き生きと暮らせるようなまちづくりに貢献することも、同プロジェクトがめざす目標の一つです。

「病気や障がいのある方でも、一緒に暮らせることが当たり前の地域になるように」と横串室長。そのためにも、これまで病院の中にとどまっていたサービスを地域全体に広げていきたいとしています。

リハビリテーション医療を通じて地域と人を支える使命を果たすために、新病院の挑戦が始まります。

■溪仁会ケアタウン 構想のイメージ



生命をつなぐという 使命に挑み続けた10年の歩み

道央ドクターヘリ事業 手稲溪仁会病院

広大な北海道は、拠点病院のある都市から離れた地域も多く、特に救命救急の現場では傷病者の搬送時間の長さが課題となってきました。この解決策の一つとして導入されたのがドクターヘリです。手稲溪仁会病院は、北海道におけるドクターヘリのパイオニアとして、2005年の正式運航以来10年にわたり、航空医療の発展に貢献してきました。



北海道における ドクターヘリ事業および 航空医療の進展



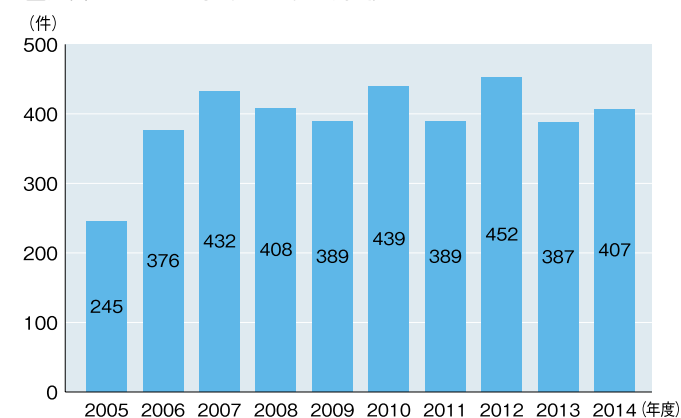
地域の生命を支えたい—— 民間病院の挑戦の始まり

手稲溪仁会病院は、2005年に道央ドクターヘリの基地病院に指定され、北海道では初、全国では9番目に、ドクターヘリの正式運航を開始しました。民間病院がドクターヘリ事業に取り組む事例は少なく、大きなチャレンジとして社会の注目を集めました。

救命救急センター長の奈良 理医師は、運航開始当時は札幌市の大学病院に在籍し、北海道ドクターヘリ運航調整研究会のメンバーとして、外部からドクターヘリ事業をサポートしました。「あのころは、民間病院が責任ある事業を請け負うことを理解してもらうために、大変な努力があったと思う」と振り返ります。

運航開始当初は現場の救急隊員にとまどいや遠慮があり、要請をためらうケースが度々ありましたが、関係機関に丁寧に説明を続けることで理解を深めてもらい、要請件数を伸ばしていきました。現在は、判断に迷うことなく要請をスムーズに行えるように、キーワード

■道央ドクターヘリ年度別出動件数推移



※グラフは離陸前キャンセルを除いた出動件数

方式を採用。119番通報の段階であらかじめ決めたキーワードに合致すれば、直ちにドクターヘリを要請するシステムによって、迅速に生命を救う取り組みが進められています。

北海道の航空医療をリード 救急医療の未来を描く

道央ドクターヘリの運航を皮切りに、北海道におけるドクターヘリ事業は各地に広がっていきました。手稲溪仁会病院のドクターヘリスタッフは、定期的な症例検討会の開催や、導入を検討する地域での説明会などを行い、ドクターヘリの啓発活動を積極的に展開。また、新たにドクターヘリを運航する病院での講演会の実施や、その病院のスタッフを受け入れてトレーニングを行うなど、北海道全体の航空医療のレベルアップにも取り組んでいます。

正式運航から10年。今や北海道の救急医療を支える重要な存在として浸透したドクターヘリですが、「まだやれることはたくさんある」と奈良医師は言います。「例えば、救助や災害現場での

他機関ヘリとの連携をいかにスムーズに行うかというのも一つの課題です。ドクターヘリの機能を最大限発揮できるように、その活用方法を突き詰めていくのが目標です」

これからは、人材育成にさらに力を入れ、若いフライトドクターやフライトナースを育てることもめざしていきます。また、北海道におけるパイオニアとして、10年間蓄積してきたデータを検証し、ドクターヘリの有効性の証明にも取り組んでいきます。



救命救急センター長
奈良 理

北海道のフライトナースの看護の質を高めていきたい

救命救急センター フライトナース 山本 環

2003年の試験運航の時からドクターヘリに乗っています。現場で心がけているのは、いかに早くその方の苦痛を和らげるか、ということ。フライトドクターと役割を分担して、できるだけ早く処置を行っています。そして安心していただくために「痛み止めを打ちますね」と言葉添えることも大切にしています。

この12年間で多くの命の瀬戸際を見てきました。救急医療における看護について学びたいという思いから、2010年に救急看護認定看護師を取得。現在はさらに急性・重症患者看護専門看護師の認定を

めざしています。北海道で4機のドクターヘリが運航されるようになり、フライトナースも増えてきました。フライトナース認定指導者として人材の育成や技術の向上に取り組み、救急医療における看護の質を高めるために貢献していきたいと考えています。



地域の生命を守るという責任を果たすために

広域な医療圏を支える取り組み 手稲溪仁会医療センター

手稲溪仁会病院は1987年の開院以来、地域の健康や生命を守る取り組みを続けてきました。その活動は少しずつ広がっていき、現在は「手稲溪仁会医療センター」として、複合的な機能を持つ基幹病院へと成長しています。同センターの社会的な使命を果たすための歩みと、これからの展望をご紹介します。



救命救急センター開設を機に地域の基幹となる医療組織へと成長

手稲溪仁会医療センターは、札幌市の北西部から後志・石狩地域にわたる、広域圏の急性期医療を担っています。その中心となる手稲溪仁会病院は、ここ10年ほどで大きく発展・成長を遂げました。

転機となったのが、同病院が2005年に救命救急センターの指定を受けたことでした。これによって手稲区だけでなく、100km圏内の1次から3次救急を受け持つことになり、より大きな社会的責任を負う医療機関へと進化。以来、北海道初となる手術支援ロボットの導入など、次々と革新的な取り組みを行ってきました。

成田 吉明院長は「当院には、新しいことに挑戦しようという時に、それを後押ししてくれる組織風土がある」と言います。2009年に開院した「手稲家庭医療クリニック」もその一例でした。「かかりつけ医」として地域に根ざした医療を提供する同クリニックは、プライマリ・ケアの先駆けでもありました。

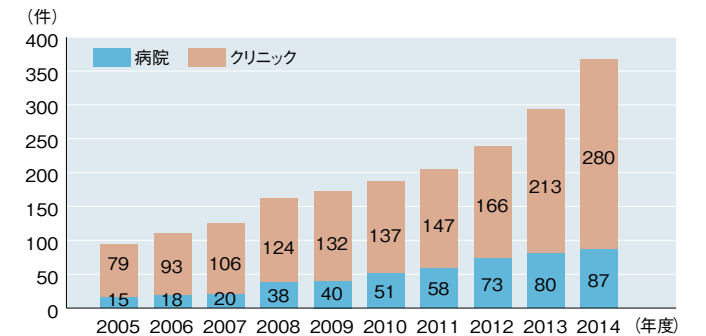
成長する中で積極的に取り組んだのが、地域の医療機関との連携でした。機能分化を図ることで最適な医療サービスを提供する体制を推進。2012年に「地域医療支援病院」に承認されました。

「地域のクリニックや診療所からは高度な医療を必要とする患者さまをご紹介いただき、治療終了後にお戻りいただく仕組みは、だいぶ浸透してきました。これからより理解を深めていただくために、丁寧に説明を続けていきたい」。成田院長は、そうした努力も大切な役割だと言います。

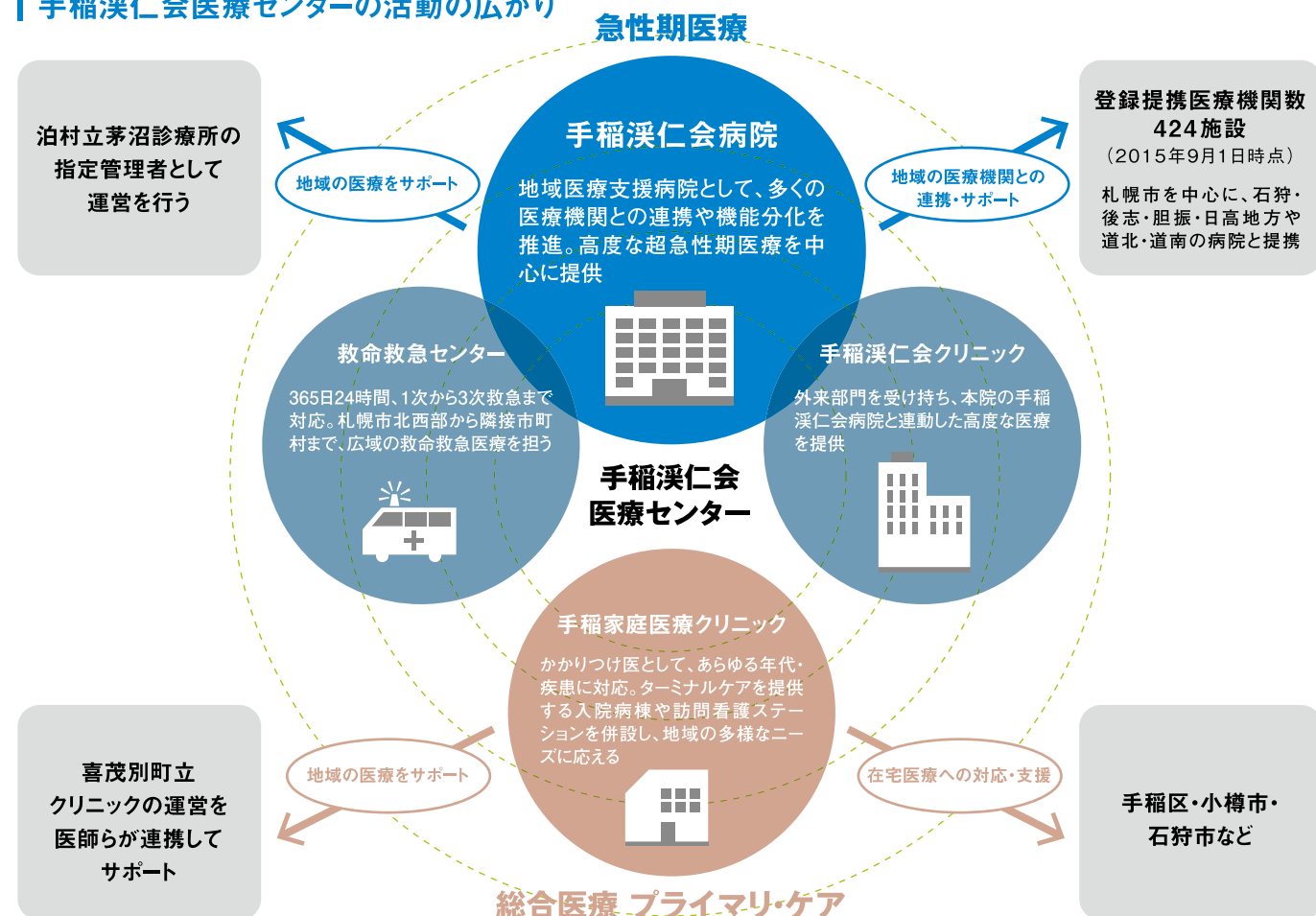


手稲溪仁会病院 院長
成田 吉明

登録提携医療機関数の年度別推移



手稲溪仁会医療センターの活動の広がり



手稲溪仁会病院が取り組む高度先端医療

経カテーテル的大動脈弁留置術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)



開胸手術をせずに、カテーテルを使って左心室と大動脈の間にある大動脈弁を人工の生体弁に置き換えるTAVIを、2014年6月に北海道第1例として成功

手術支援ロボットda Vinci Sの導入



2011年に北海道で初めて手術支援ロボット「da Vinci S」を導入。前立腺全摘除術は道内随一の実施数を誇る(P25参照)。現在は、ほかの症例への活用も進めている

最小侵襲脊椎安定術 (Minimally Invasive Spine Stabilization: MIST)



低侵襲に脊椎手術を行うMISTを、2013年より導入。手術時にX線透視を組み合わせることで、切開部分を少なくし、術後の痛みや感染症リスクなどを低減させた

新たなビジョンを見据え全国に通用する医療機関に

手稲溪仁会医療センターは、中期計画として「Tプロジェクト」を立ち上げ、先進医療への対応と療養環境の整備を推進するために、新設備の導入や既存施設の改修・改修を継続的に行ってきました(P60参照)。今年の12月から稼働する手稲溪仁会病院の新病棟(F棟)は、プロジェクトの中心となる最大の事業です。新棟完成に伴い、患者さまの療養環境は大きく改善されます。

また、ICT(情報通信技術)の活用による医療体制の向上も図っています。堀江 篤経営管理部部長は「電子カルテを更新し、専任の情報解析室が稼働しました。膨大な医療情報を分析し、それを臨床現場にフィードバックすることで、これまで以上に質の高い医療

サービスを実現できるはず」と、その活用に見込みを見せます。

これからの展望について、成田院長と堀江部長が同様に口にするのが「組織のさらなる成長」と「人材(材)の確保・育成」です。「医療を取り巻く環境が大きく変化することであっても、新たな機能の強化や専門医療の深化に取り組み、全国から優秀なスタッフが集まる存在になりたい」。医療の質を向上させることが、やがて地域のためになることをめざして、手稲溪仁会医療センターは歩み続けていきます。



手稲溪仁会病院 経営管理部 部長
堀江 篤

誰もが安心して暮らし続けられる 地域の未来を描いて

地域包括ケアシステム構築への対応 溪仁会グループ

75歳以上の人口が急増すると予想される2025年に向け、構築が急がれているのが「地域包括ケアシステム」です。介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、医療や介護、住まい、生活支援などを一体的に提供し、高齢社会を支えようとする地域包括ケアシステムへの対応は、溪仁会グループにおいても大きなミッションの一つになっています。



グループ内の連携をより高め 2025年に向けたモデルを創る

溪仁会グループは、地域の医療、保健、福祉を担う組織として、地域社会を支えるための活動が続けてきました。特に、近年は2025年問題といわれる超高齢社会への対策を重視すべき課題の一つに掲げています。地域包括ケアシステムについても、病院や施設、事業所単位で検討を進め、対応を図っているところです。

地域包括ケアシステムでは、医療や保健、介護などを含めた複合的なサービスを、居住する地域において速やかに提供できる体制づくりが求められています。当グループは、そうした地域包括ケアシステムのモデルとなるために、グループ内連携の強化に取り組んでいます。これまでは、各病院や施設などがそれぞれの持ち味を発

揮し、特色ある活動を展開してきましたが、これからはそれらを機能的につなぎあわせることで、より柔軟で多様なサービスを提供したいと考えています。それと同時に、地域の医療機関や福祉施設、行政機関などとの連携もこれまで以上に推進し、ニーズを的確に捉えた地域包括ケアシステムの構築に向けて努力していきます。

地域包括ケアシステムの指針では、日常生活圏を一つの単位としています。当グループの描くモデルは、それより広域なものになりますが、複合的な医療、保健、福祉サービスを提供する組織としての強みを最大限に活かし、超高齢社会を支える新たな体制づくりをめざしています。

予想される地域包括 ケアシステムの姿



地域包括ケアシステムへの取り組み事例

溪仁会グループの法人・病院・施設では、地域包括ケアシステムを実現するために、さまざまな取り組みを行っています。地域の方々と手を取り合い、共に考えながら未来をめざす活動をご紹介します。

■ 札幌西円山病院の取り組み 職員の意識啓発を図り、地域を支える存在に

札幌西円山病院
地域連携推進室副室長 兼 MSW担当課長 大植 友樹

地域包括ケアシステムの枠組みでは、札幌西円山病院は回復期・慢性期の医療機能に位置づけられています。しかし、そうした役割にとどまらず、近年は市民公開講座（P32参照）や認知症カフェ（同）の開催、認知症サポーター養成研修やボランティア活動の推進、町内会との協働など、地域での活動も積極的に展開しています。

在宅支援にも力を入れ、患者さまの退院調整など、ご自宅で安心して暮らしていただけるようにサポートしています。その一方で、入院を必要とされる方は、今後増えていくと予想しています。当院の医療やケアの強みを発信し、社会に認知されることが大切だと思います。

地域包括ケアシステムの構築はまだ始まったばかりです。地域の方と協働していくと同時に、院内では職員の意識改革に取り組む必要があることから、そのための研修会も増やしています。地域が一体となった連携体制の実現には、多くの課題があると予想されますが、高齢になっても生き生きと生活できる地域をつくるのが私たちの使命だと考えています。



■ 定山溪病院の取り組み 地域との連携を深め、新たな貢献をめざします

定山溪病院
地域連携室 室長 菊地 攻

定山溪病院では、2013年より地域活動を重視してきました（P30・31参照）。訪問診療や訪問歯科診療、訪問リハビリテーションの提供のほか、介護老人福祉施設への後方支援病院として、医師の配置や医療ケアが必要な利用者さまの受け入れ、退院支援なども行っています。

慢性期医療を受け持つ病院として、これまでは急性期病院から医療を引き継ぐ役割が中心でした。しかし、入院患者さまにおける介護老人福祉施設からの入院者の割合が、2012年度で3%だったのが2014年度では11%に、在宅からの割合は同じく10%から23%に、大きく増えています。これからは、さらにこうした傾向が強まると予

想され、新たな視点での地域支援が必要になると考えています。

地域包括ケアシステムについては、勉強会や専門職による啓発活動などを実施したいと考えています。また、溪仁会グループ内部での連携も推進する予定です。皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域を支えるためのネットワークづくりをめざしていきます。



■ 社会福祉法人溪仁会の取り組み 地域に合わせた多様なサービスを模索

社会福祉法人溪仁会 法人本部
事業推進部次長 兼 事業推進部調査企画室室長 神内 秀之介

社会福祉法人溪仁会は、創立35周年に向けた中期事業計画の中で、地域において事業化できる活動をボランティアも含めて検討しています。既に始動したものもあり、新琴似溪仁会デイサービスの「六中二はつつサロン」（P35参照）や、岩内町での「介護予防サロン」は（P23参照）など、地域ニーズに合わせた活動を行っています。

現在はまだ地域包括ケアシステムという言葉が一人歩きしている段階で、地域の方々にはもっとご理解いただく必要があると考えています。ただし、誰かが主導で押し付けるのではなく、地域の希望をいかに取り入れ、生き方や住まい方にどうマッチングさせていくかが重要です。人

づくりやまちづくりにもつながるものであり、地域の機関やNPO法人との連携なども含め、柔軟な発想で取り組んでいます。

これからは住民参加型の地域づくりが求められます。当法人の事業所がそれぞれの強みを活かして地域と密着した活動に取り組み、未来への意識付けを高めることで、社会貢献を果たしたいと考えています。



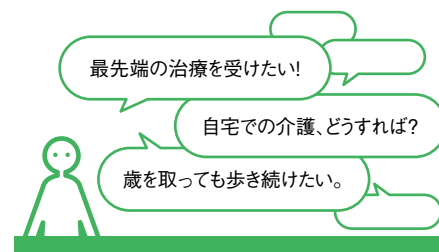
2014年度活動報告

医療、保健、福祉サービスの担い手として、
また、4,000人を超える職員を擁する、大きな事業体として。
溪仁会グループには、内外からさまざまな“声”が寄せられています。
身近な疑問、責務を果たすことへの期待、将来への希望。
私たちのCSR活動の原点、原動力は、それらの声に応えることです。
その一つひとつを行動として積み重ねた先に、
地域社会に対して実現したいこと
組織としてめざすべきあり方が見えてきます。
それが、私たちのCSRのめざす“答え”です。

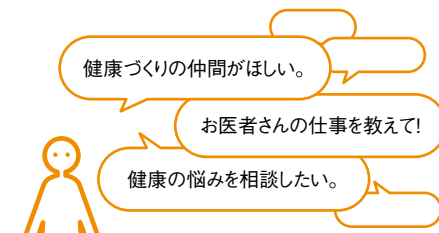
2014年度活動報告は、 ISO26000をもとに編集しています。

ISO26000 Guidance on social responsibilityは、2010年11月に発行された社会的責任の国際規格です。これは認証を目的としたマネジメント規格ではなく、組織が社会的責任を果たすための手引きとなっています。ISO26000には、社会的責任を実践していくための具体的内容として「7つの中核主題」が設定されています。本誌「2014年度活動報告」は、7つの中核主題に沿って各章を編集しています。

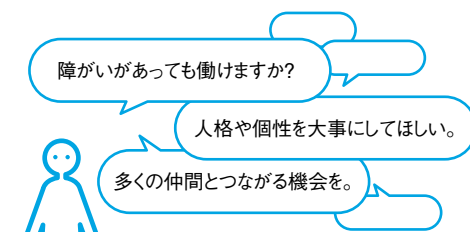
- **組織統治** 7つの原則（説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重）に配慮しながら、社会的責任を実践するための意思決定の仕組み
- **人権** 事業活動にかかわるすべての人々の人権を尊重すること
- **労働慣行** 労働者として働く上で保障されるべき諸権利について配慮すること
- **環境** 事業活動がもたらす環境への影響に配慮すること
- **公正な事業慣行** 事業活動を行う上で、社会に対して非倫理的な行動をとらないこと
- **消費者課題** サービスを提供する際、患者さま・利用者さまへ不利益・悪影響を及ぼさないこと
- **コミュニティへの参画及びコミュニティの発展** 地域の一員としてコミュニケーションを図り、コミュニティの発展・活性化に積極的にかかわりともに発展していくこと



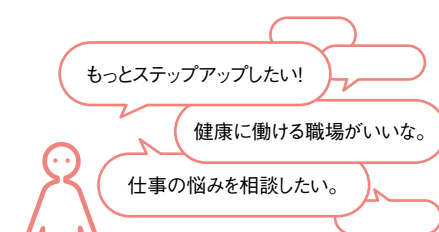
消費者課題 みんなの笑顔のために。……P20



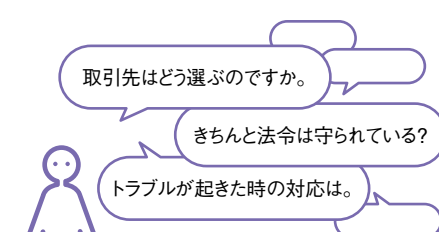
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 手を取り合って、元気の輪をつくろう。……P30



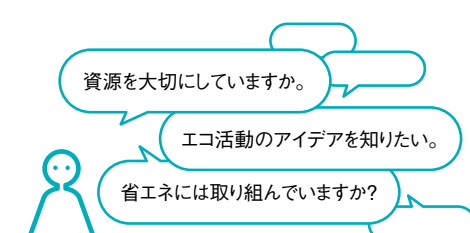
人権 一人ひとり、みんなが大切。……P40



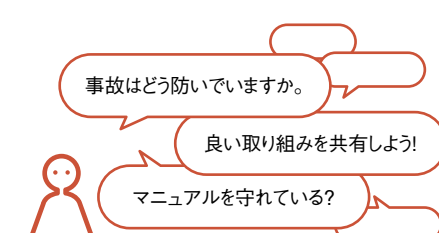
労働慣行 支えて、支えられて、もっと強く。……P42



公正な事業慣行 信頼されるビジネスパートナーへ。……P46



環境 豊かな環境を、未来へ。……P48



組織統治 一つの意思で、一つの目標へ。……P50



「Nプロジェクト」によるアメニティ向上

【札幌西円山病院】

Challenge

高齢化により重症度の高い入院患者さまが増加し、対応する設備・サービスの強化が必要に

Action

医療・介護スタッフの視点を取り入れ、療養環境を向上する施設改修を実施

札幌西円山病院では、信頼される医療、介護、福祉サービスの提供と、職員が誇りを持てる医療・福祉環境の実現をめざし、2012年から「Nプロジェクト」を開始しました。同病院の入院患者さまの重症化に伴い、一部施設の改修が望まれたことから計画はスタート。看護師やセラピストなど患者さまに直接かかわるスタッフを加えたワーキンググループで内容を検討し、サービスの質向上、患者さま・ご家族のアメニティ改善、職場環境改善をめざし、2018年までを計画期間としてプロジェクトを進めています。

2014年度は、北・中央棟6階回復期リハビリテーション病棟の病室リモデルを進めました。在宅復帰支援のため、より在宅生活に近い環境を考え、個人用ワードローブと、一般家庭で使用する仕様の洗

面台を設置。生活に合わせたリハビリテーションを実施できるようにしました。

また、南棟7～10階トイレを車いす対応とする改修も開始し、こちらは2014年12月に完了しています。患者さまの動線や介助の動作も考慮し、患者さまに左右どちらの麻痺があっても対応できる構造としました。内装は居室と統一感を持たせ、ぬくもりある仕上がりとしています。

2015年度には西棟の改修に着手するほか、ソフト面の機能強化を連動させ、患者さまにとってより良い療養環境の実現をめざしていきます。



手すりを充実させた南棟トイレ



北・中央棟6階病室に設けられた個人用ワードローブと洗面台

消費者課題

みんなの笑顔のために。

希望がかなった時、安心した時、満足できた時、皆さんがその時に浮かべる笑顔のために。より良い医療、保健、福祉のサービスで笑顔を増やせるよう、各施設が、一人ひとりの職員が、努力を重ねています。



一人ひとりに合った検査を実施するために

【溪仁会円山クリニック】

Challenge

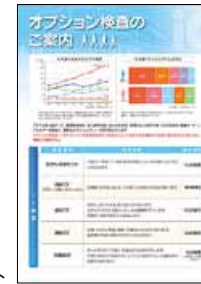
疾患の早期発見のため、オプション検査の受診率向上をめざす

Action

関連する検査をまとめて受けられるようオプション検査のメニューを見直し

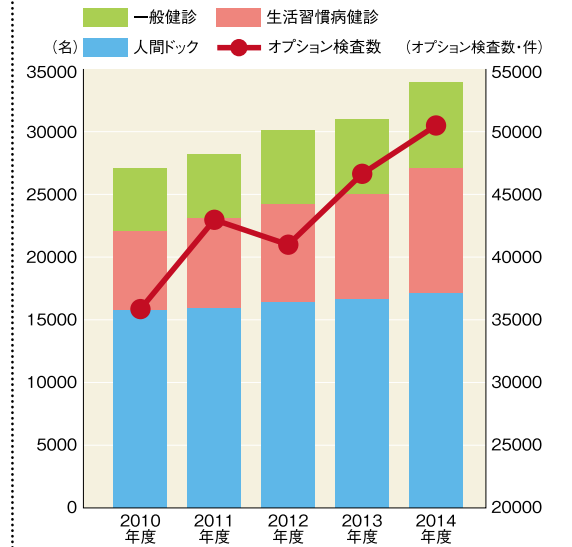
疾病の早期発見が重要になる中、健診施設の役割の重要度は増えています。しかし、一般の健診は主に生活習慣病の発見をめざすものであり、がん検診など重大な疾病の早期発見をめざす検査は含まれていません。一人ひとりの受診者に、その方のリスクに応じて効果的な検査を受けていただくため、同クリニックでは幅広いオプション検査を用意しています。

2015年4月からは、よりわかりやすさを心がけた新メニューに変更しました。組み合わせると精度が上がる検査はセットにし、料金も割安に設定しています。



オプション検査のパンフレット

■健診・オプション検査の受診数推移



■新たに設定されたセットの検査メニュー

肺がん検査セット	=	胸部CT検査	+	喀痰細胞診検査		
心臓検査セット	=	心臓エコー検査	+	心機能マーカー検査		
動脈硬化検査セット	=	頸動脈エコー検査	+	血圧脈波検査	+	内臓脂肪検査
甲状腺検査セット	=	甲状腺エコー検査	+	甲状腺機能検査		

在宅医療の質向上に挑む手稲家庭医療クリニックの取り組み

【手稲家庭医療クリニック】

Challenge

在宅医療を推進していくにあたり、医療・福祉の連携や看取りなど地域にさまざまな課題が浮上

Action

在宅医療連携拠点事業所として体制を整えるほか、関係機関と連携し研修や啓発活動を実施

手稲家庭医療クリニック(愛称:かりんば)は2009年の開院以来、地域に根付いたかかりつけ医として診療活動を行ってきました。また、通院が困難な患者さまのために訪問診療を提供しており、併設する訪問看護ステーションと連携して24時間対応の在宅医療体制を築いています。

さらに同クリニックは在宅医療連携拠点事業所



在宅看取りを伴う在宅医療推進のための研修会

(チームかりんば)として、行政や他医療機関、福祉施設と連携し、手稲区の在宅医療体制構築にも取り組んでいます。その活動は教育研修から啓発活動まで多岐にわたります。2014年11月8日には、手稲区民ホールで「在宅看取りを伴う在宅医療推進のための研修会」を開催しました。札幌市の看取りの現状報告や、静明館診療所の矢崎 一雄院長による講演の後、手稲家庭医療クリニックの中島 徳志医師を座長にシンポジウムを行いました。医師や訪問看護師、ケアマネジャー、ご遺族、高齢者住宅の職員がそれぞれの立場から、在宅看取りに必要な多職種連携について事例を交えて報告し、活発な意見交換が行われました。

閉会後に、同様の研修開催を希望する声が多数寄せられました。今後も在宅診療を進め、地域に必要な情報を発信していきたいと思っています。

溪仁会グループ広報誌「サラネット」が BHIデザイン最優秀賞を受賞

[溪仁会グループ]

Challenge

医療、保健、福祉について必要とされる情報を伝えることも組織の責務

Action

広報誌「サラネット」の発行を続け、さらに見やすく改良へ

溪仁会グループでは、医療、保健、福祉の情報と、溪仁会グループの取り組みを伝える広報誌「サラネット」の発行を続けています。

このサラネットが、NPO法人日本HIS研究センターが主催する病院広報誌の全国コンクール「BHIデザイン賞2014」で、グランプリにあたる「BHIデザイン最優秀賞」を受賞。2014年10月17日に福岡県飯塚市で行われたHISフォーラム2014の会場で表彰されました。この賞の審査には学識経験者のほか市民審査員も加わっているため、デザインの質だけでなく、読者志向の内容やわかりやすい表現が評価されたと考えられます。2008年に続いて2度目の栄誉となりました。

その後もより多くの読者から親しまれる誌面とは何かを考え、2015年5-6月号からは、本文の文字にUD（ユニバーサルデザイン）フォントを採用しました。ユニバーサルデザインとは、高齢者や障がいを持つ方を含め、どんな方でも能力の程度を問わず利用で

きるよう配慮された施設・製品・情報・サービスの設計（デザイン）のこと。UDフォントは、多くの方に読みやすく、誤読を防ぐよう文字の形が工夫されています。

今後も読者の興味・関心に応え、溪仁会グループと地域医療や保健・福祉サービスへの信頼を築く誌面づくりを進めていきたいと思います。



BHIデザイン賞トロフィーと賞状

従来のフォント

UDフォント

ブ

ブ

濁点部分のギャップを十分確保して、視野を高める

OCG OCG

独立したシルエットで判別しやすく

福祉用具を知っていただく取り組み

[株式会社ハートィワークス]

Challenge

要介護者増加の中、福祉用具についての情報が求められる

Action

広報誌サラネットの記事や各種イベントで啓発活動を実施

高齢や病気などにより障がいのある方がご自宅で暮らす場合、または介護が必要な方が在宅に戻れる場合、安全に暮らすために住環境を整える必要があります。株式会社ハートィワークスは、住宅改修や福祉用具の販売・レンタルを通じて、住み慣れたご自宅での暮らしを支えています。

同社には福祉用具専門相談員が在籍し、さまざまなご相談に対応しながらレンタルや販売を行っています。さらに、どのような福祉用具があるのか広く知っていただくために、新製品やおすすめの商品について溪仁会グループ広報誌「サラネット」で毎号お知らせしています。担当の職員からその商品のおすすめポイントや使用方法などについてのコメントを伝えるほか、お求めやすい特別価格での提供も行っています。また、住宅改修の参考となる展示場の情報などもお伝えしています。

それ以外にも、福祉用具を実際に体験していただく機会となるイベントや展示会も積極的に参加・開催しています。2014年8月24日には、釧路市で「福祉用具フェスタin道東」を共催で開催。福祉用具の体験展示を交えながら、最新情報をお伝えしました。



サラネットでの福祉用具紹介

岩内町に「介護予防サロンりはる」オープン

[社会福祉法人溪仁会]

Challenge

高齢化により要介護者が増加し、地域によっては介護のリソースが不足し始める

Action

介護保険適用外の方への介護予防により健康を管理・増進し、要介護者を減らす

社会福祉法人溪仁会は、岩内町に「岩内コミュニティの丘」を設け、入居から在宅支援までさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。2014年11月4日、介護老人保健施設「コミュニティホーム岩内」を母体に「介護予防サロンりはる」を開設しました。

介護予防サロンは、高齢者が介護が必要な状態にならないよう、運動と交流の場を提供します。岩内町と周辺町村の高齢者を利用対象とし、要介護認定を受けていない方も利用できます。

地域包括ケアの広がりを受け、要介護者のほかにも、介護保険適用外の方の健康管理の重要性が注目されるようになりました。岩内町ではこれまで地域包括支援センターが不定期に介護予防事業を実施していましたが、継続的な開催要望が寄せられていました。

開設から約3カ月が経過した時点で、約30名の利用者登録がありました。今後は老人クラブや地域包括支援センターとの連携の下、一人暮らしや、あまり出かけない高齢の方の参加を呼びかけ、地域の

介護予防サロンのモデルとなるサービスをつくり上げていきたいと思います。



駅前通商店街の中へのアクセスの良い場所に開設



専任の理学療法士が運動メニューを指導

利用料	1回500円
時間	9:00～12:00、13:00～17:00
対象者	岩内町・近隣町村在住のおおむね65歳以上の方
利用登録者数	120名(2015年7月1日現在)

Human Story 1

● 経験を積み重ねたホームヘルパー

利用者さまの感謝の言葉と 職場のサポートに支えられています



株式会社ソーシャル
ソーシャルヘルパーサービス中央
ホームヘルパー 介護福祉士
藤内 貴美子

ホームヘルパー2級の資格を活かそうと、自宅の近くにあったソーシャルヘルパーサービスで働き始めたのが12年前のことでした。当時は子育ての真っ最中。パート勤務ということもあり、短時間でも働けるのが魅力でした。

「気づけば12年」という思いですが、これほど長く続いたのは職場のサポート体制がしっかりしていたから。利用者さまの体調の変化やコミュニケーションなど、わずかなことで不安になる場合がありますが、当社は小さな気付きでも相談できる職場環境のため、安心して働き続けられたのだと思います。

仕事では、利用者さまの安全を何よりも重視しています。その方の体調に配慮しながら、ニーズに合わせたサービスを提供するように気をつけています。「あなたが来てくれて良かった」という言葉がうれしく、また頑張ろうという気持ちになります。

8年ほど前に、介護福祉士の国家資格を取得しました。仕事

のキャリアアップを図りたいという思いから勉強を重ねて挑戦。仕事への自信につながりました。

今春からは正職員になり、責任のある立場になりましたが、ホームヘルパーとしてはまだまだ力不足なことも多く、これからも学び続ける姿勢が大切だと感じています。将来は「藤内さんなら、何を任せても大丈夫」と言われるようになるのが目標です。



手稲溪仁会病院がめざす 質の高い医療への取り組み

手稲溪仁会病院は高度急性期病院として皆さまの生命と健康を守るため、体制づくりや最先端の技術に取り組んでいます。

消化器病センター

日本最多を誇る内視鏡による胆・膵治療

内視鏡的逆行性胆管膵管造影法 (ERCP)

年間1,000例を超えるERCPを実施

手稲溪仁会病院では、1997年に消化器病センターを開設し、消化管、胆・膵、肝臓の3グループに分かれて専門性の高い医療を行ってきました。中でも胆・膵グループは、精度の高い画像診断と内視鏡による治療において日本のトップレベルとされ、全国はもとより海外からも研修を希望する医師が集まります。

最も実績を上げているのが、内視鏡的逆行性胆管膵管造影法 (ERCP=Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography) です。ERCPとは、内視鏡を十二指腸まで挿入し、そこからカテーテルを十二指腸乳頭に挿入して造影剤を注入することで、胆管や膵管の鮮明なX線画像を撮影する技術。従来は検査に多く用いられていましたが、近年は技術が進歩したことで、治療への応用が進められています。

同センターでは、開設時からERCPに積極的に取り組んできました。2014年度の実績は1,049件(治療ERCP1,019件、診断ERCP30件)にも上り、日本で最も実施数が多い施設となっています。真口 宏介消化器病センター長は「現在、胆・膵グループの医師は13名おり、夜間や臨時の診療にも対応できる体制を整えています。看護師も含めたスタッフの熱意と技術力に支えられてこそその実績」と胸を張ります。

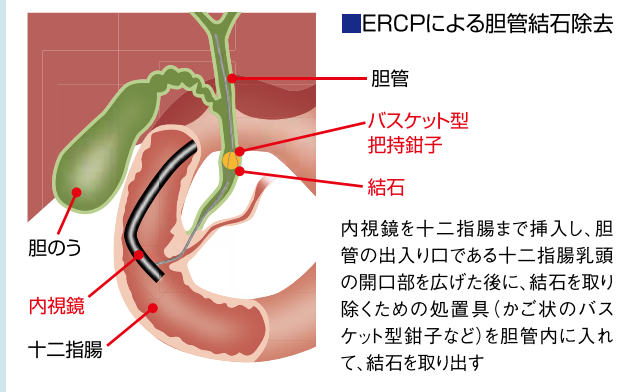
技術の標準化を実現し、世界レベルへ

ERCPは、胆管結石の治療や胆管狭窄へのステント留置術、慢性膵炎の治療などに多く用いられています。例えば、胆管や膵管に石ができた場合でも、開腹手術をせず除去することが可能です。また、がんなどによって胆管や膵管が狭くなっているような場合、ERCPでステントを管に留置することで胆汁や膵液の流れを保ち、全身状態を改善する治療も行われています。

患者さまの体への負担が少なく、欧米では日帰りでの治療も行われているERCPですが、日本では実施する医療機関が減っていると真口センター長は言います。「ERCPは難易度が高く、5%程度ですが、治療後に膵炎を発症するリスクがあります。当センターでは、必ず1〜2泊入院していただき、患者さまの状態を確認するようにしています」



2014年から専用のX線室が2室になり、ERCPの実施体制がより強化されました



今後は、胆・膵治療を牽引する施設として、難しいとされるERCPの技術の標準化にも取り組む考えです。一病院だけの技術にとどめず、世界的なスタンダードにすることをめざします。

「患者さまにとって“最後の砦”でありたい」と真口センター長。常に革新を図り、困難な治療にもチーム一丸で挑み、世界トップレベルの医療を追求し続けています。



手稲溪仁会病院
消化器病センター長
真口 宏介

泌尿器科
チームダヴィンチ

300例を超えるロボット支援前立腺全摘除術の実績

手術支援ロボット「da Vinci S」による前立腺全摘除術

北海道をリードするチームダヴィンチの実力

患者さまの体への負担が少ないことから、近年は腹腔鏡下手術が多く用いられるようになってきました。特に難易度が高いとされていた前立腺がんの腹腔鏡下全摘除術では手術支援ロボットの導入により、ここ3年ほどで急速に鏡視下手術の普及が進んできました。

手稲溪仁会病院は、2011年に手術支援ロボット「da Vinci S」を道内で初めて導入し、同年11月から泌尿器科においてロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始しました。当時は日本での実績がまだ少なかったことから、同科では安全性を確保するために、柏木 明泌尿器科部長を中心とした「チームダヴィンチ」を結成。泌尿器科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士に加え、眼科医、皮膚・排泄ケア認定看護師、事務スタッフが連携しながら手術に臨んできました。

2012年4月に手術支援ロボットによる前立腺全摘除術が保険適用となったことで、手術数は順調に増え、今年2月には実施例数が300を超えました(2015年8月時点で342例)。現在、同科ではすべての前立腺全摘除術にda Vinci Sを用いていますが、チームダヴィンチが機能し、手術に携わる医師やスタッフの技術も向上したことで、高い安全性を実現。柏木部長は「出血が少なく、尿禁制や性機能の温存に優れ、合併症も少ない。がんの治療率も非常に高い上に、開腹手術に比べて低侵襲なため、入院期間も従来の半分程度に短縮することが可能になりました」とそのメリットを説明します。

人材の育成を図り、技術の底上げをめざす

ロボット支援による腹腔鏡下手術において、道内では他の病院の先駆けとなってきた同科では、操作を行う医師の育成にも注力してきました。現在は4名の泌尿器科医が、da Vinci S手術の認定ライセンスを取得し、さらに研鑽を重ねています。また、柏木部長は手術支援ロボットを導入した施設での指導やフォローも積極的に実施。今年の5月には、本年度から発足した日本泌尿器内視鏡



da Vinci Sによる前立腺全摘除術は、患者さまの頭が低い位置にくるため、眼圧モニタリングや皮膚圧測定、褥瘡保護など、さまざまなリスクを検証して安全性を確保しました

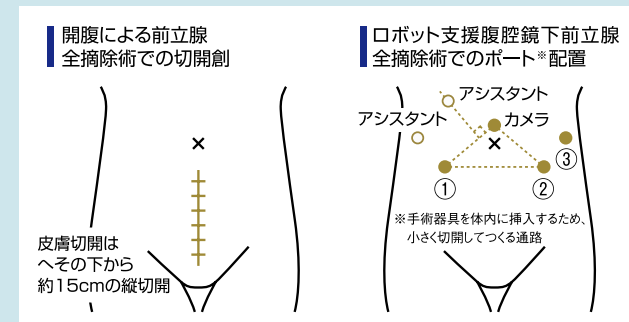
学会による「ロボット手術指導医(プロクター)」の資格認定を受けたことで、これまで以上に執刀医やコメディカルスタッフの育成に取り組み、北海道全体のボトムアップを図りたいとしています。

手術支援ロボットの有効性が証明されてきたことで、今後はほかの疾患への適応が増える予想されています。前立腺がん以外にも、腎がんの部分切除術や膀胱がんの膀胱全摘除術において優位性が発揮されることから、同科では症状に応じてda Vinci Sによる手術を行い、将来的な保険適用を視野に準備を進めています。

「患者さまにとって、手術をして治るのは当然のこと。年間100例以上をこなすのはプレッシャーもあるが、地道な努力を積み重ね、より精度を高めていきたい」と柏木部長。11月に完成予定の新棟には、da Vinci S用の手術室も設置され、手術支援ロボットのますますの活用が期待されています。



手稲溪仁会病院
泌尿器科 部長
柏木 明



da Vinci Sは、高精細な3Dハイビジョンカメラの映像を見ながら操作できるのが特長。視野の広さや明るさ、拡大能力に優れ、精緻な動きをするアームによってきめ細かな作業が可能

臨床研修部

独自の研修体制で世界に通用する医師を育成

初期臨床研修プログラム

3年研修と英語教育による実践プログラム

現在、医師になるには、医学部を卒業後に最低2年間の研修が義務付けられています。手稲溪仁会病院は1997年に臨床研修病院の指定を受け、研修医の育成に取り組んできました。毎年100人もの医学生が見学を訪れ、厳しい選抜の後に19名が研修医として歩み始めます。

同病院の研修プログラムが人気を集め、高い評価を受けている理由。それは、独自の教育システムにあります。初期研修といわれる必修の臨床研修期間は多くの病院が2年間なのに対し、同病院では3年間を設定しています。より多くの実践経験を積むことを重視したため、医学教育提携を結んでいる米国ピッツバーグ大学医療センター（UPMC）に倣った形式でもあります。一時は2年コースを併設したこともありましたが、選択者の半数以上が3年目の延長を希望したため、3年コースに一本化しました。

星 哲哉臨床研修部部長は、「1、2年目は各科を回るローテーション方式で研修を行い、3年目になると、内科系・外科系・小児科系の選択コースに分かれ、医師としての責任を負うことになります。2年目と3年目では、臨床での実力に大きな差が出る」と3年研修のメリットを説明します。



研修医は指導医からアドバイスやバックアップを受けながら、多様な臨床で経験を積み重ねていきます

もう一つの特徴が英語教育への取り組みです。UPMCとの提携を機に米国人の常勤医師を採用し、英語による医学教育を導入。研修終了時には英語での診療や論文執筆などが可能なレベルになるのが目標です。「グローバル化の時代にあって、英語スキルを磨く必要性は誰もが認識しているはず。ただし、当院に入る段階で英語力は問いません。大切なのは、英語が苦手でもチャレンジして、3年間で克服すること。その“心”を重視したい」と星部長は語ります。

世界を視野に、医師としてのマインドを育てる

医師は病気を治療するだけでなく、時には患者さまを理解し、寄り添うことも求められます。そのため臨床研修部では、人間性に重点を置いて研修医を選抜しています。「患者さまに合わせて視点を変えることができないと、いい医療はできない」と星部長。その素質を持っている人に来てほしいと考えています。

同病院には全国の医学部から人が集まってきます。先輩が後輩を指導する「屋根瓦方式」など、モチベーションを高め合う仕組みや風通しの良さも魅力となっています。研修終了後は7、8割ほどがほかの医療機関へ巣立っていきます。外に出ていろいろな現場を経験し、キャリアを積んで戻ってくることに期待しています。

臨床研修部では「世界に通用する医師を育てる」というスローガンを掲げています。その一方で、星部長は「普通の感覚を持った臨床医を育てることが大切」とも言います。それは、卓越した専門知識や技術だけでなく、倫理観や責任感、正義感なども持ち合わせてほしいという思いがあるからです。世界を視野に入れながら、常にまなざしは患者さまに向けられている、そんな医師像をこれからも追求していきます。



手稲溪仁会病院
臨床研修部 部長
星 哲哉



外国人患者を想定した診療シミュレーションなど、医療の場で必要な英語力を養うことも重視しています

感染対策委員会
感染制御チーム

緊密な管理体制で感染症の予防と迅速な対応を図る

院内感染管理組織の構築



週に1回、ICTメンバーによる院内ラウンドを実施。病棟や診療施設を点検し、問題の把握や改善に向けた指導などを行っています

感染対策を推進するチーム体制

近年は、病院内での感染症の発生がたびたび社会問題になっています。医療の高度化に伴い、薬剤耐性菌による感染症も増えており、患者さまの生命を守るために、医療機関では感染症を防ぐための対策が義務付けられています。

手稲溪仁会病院では2002年に感染管理を行う「感染制御チーム（ICT=Infection Control Team）」を立ち上げ、医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士など、多職種が連携しながら感染対策に取り組んできました。2010年には意思決定機関である「感染対策委員会（ICC=Infection Control Committee）」が発足。また、院内の情報の収集・共有、院内の監査・指導、感染教育などを行う「感染制御管理室」や、各部署からの代表者で構成され臨床現場での感染対策を図る「リンクスタッフ」を設置し、より体系的な感染制御活動を実行しています。

ICTのメンバーであり、感染対策室を担当する佐藤 由美子看護部師長は「2002年から感染制御の取り組みはICTが行ってき



ICTは感染制御医師や感染管理認定看護師、臨床検査技師、薬剤師など多職種により構成されています

ましたが、組織体制が整い、指示系統が明文化されたことで、感染症への対応が的確かつスピーディになりました」と言います。

従来は口頭で行っていた情報伝達も、現在はメールの一斉配信によって迅速に対応できるようになりました。また、感染対策に関するマニュアルは院内ホームページ上で閲覧でき、スタッフは適正な行動を常に確認することができます。

啓発や情報共有に向けた活動を展開

院内での教育・啓発活動にも力を入れています。セミナーはICTのメンバーが担当し、医療職から事務職まですべてのスタッフが参加。職員自身の感染予防などを含めて、基本的な考え方や具体的な対策を学べるようにしています。また、年4回『ICTニュースレター』を発行して、感染症に関する情報の発信に努めています。

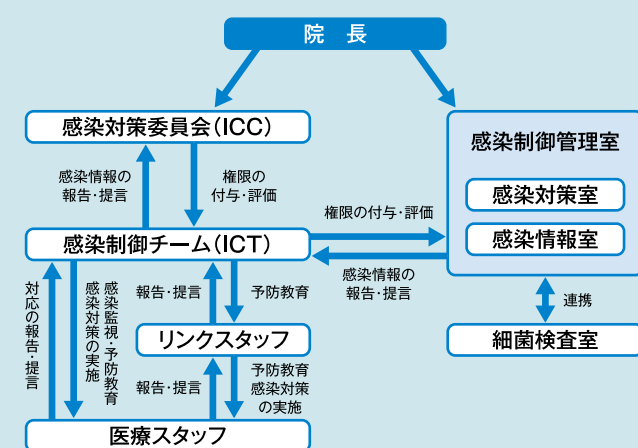
同病院は地域の基幹病院として、多くの医療機関と連携しています。患者さまの紹介や逆紹介が増える中で課題になってきたのが、施設間感染でした。この対策として「感染管理地域連携道央ネットワーク」を立ち上げ、2011年から活動しています。現在は手稲区のほか、西区や石狩市、小樽市などから22施設が参加。事例発表や意見交換などを行う会議を年4回開催し、感染の制御・対策への啓発活動や情報共有を図っています。

これからの目標について佐藤師長は「今後はそれぞれの部署での取り組みを報告できる場をつくり、病院全体で問題や情報を共有できるようにしたい」と意欲を見せます。患者さまに安心・安全な医療サービスを提供するため、一つでもリスクを減らす努力が続いています。



手稲溪仁会病院
看護部 師長
感染制御チーム
感染管理認定看護師
佐藤 由美子

■院内感染制御における組織図



数字で読み解く溪仁会グループの歩み

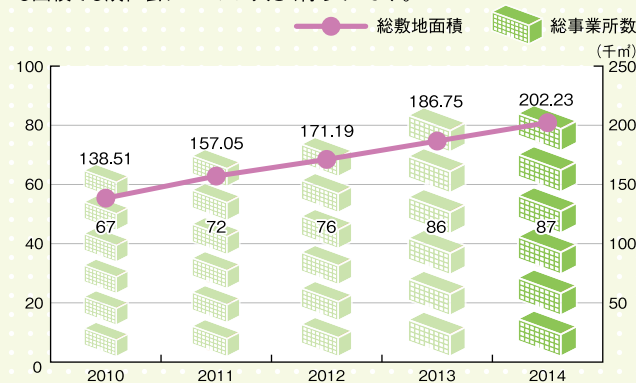
私たちがどんな数字に支えられ、どんな数字を刻んできたのか。
溪仁会グループの歩みが見える数字を集めました。



溪仁会グループの数字

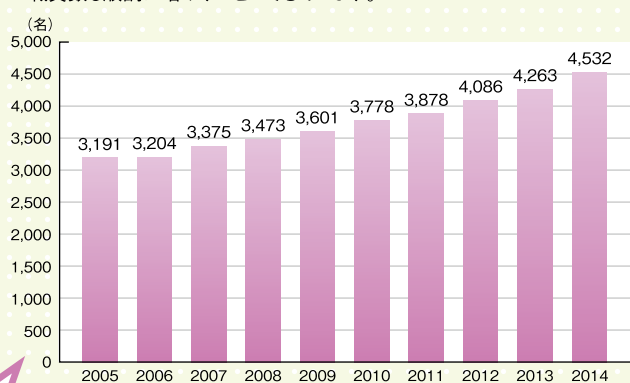
■ 総事業所数と総敷地面積

地域への展開や、医療・保健・福祉のニーズに応える拠点増加が進み、数でも面積でも溪仁会グループは大きく育っています。

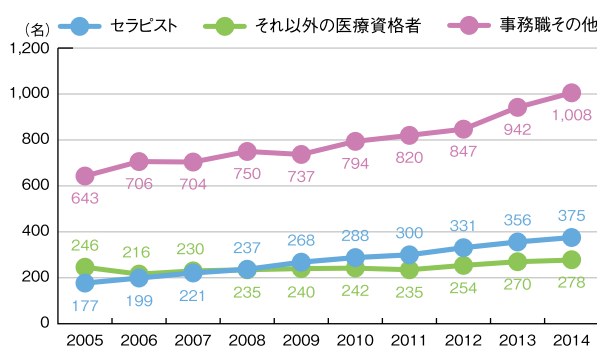
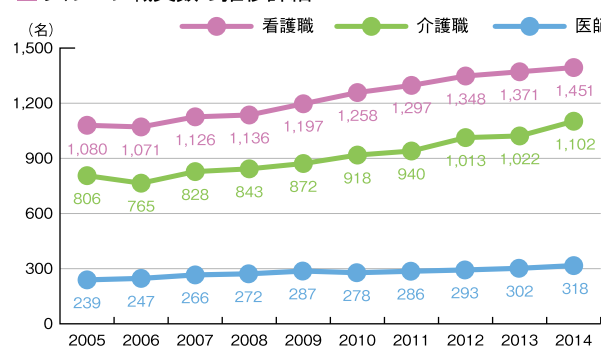


■ グループ職員総数の推移

道内で地域における医療・介護職の減少が問題になる中、事業所増加に伴い職員数も順調に増やすことができています。

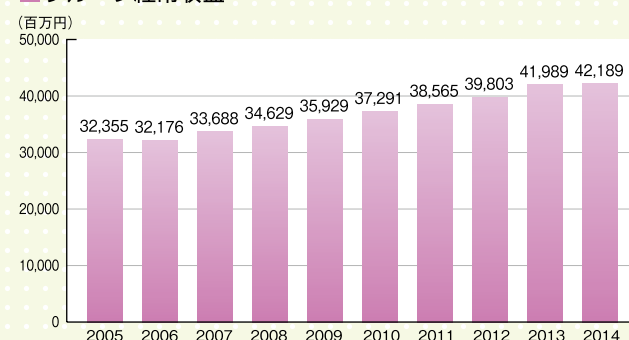


■ グループ職員数の推移詳細



財務の数字

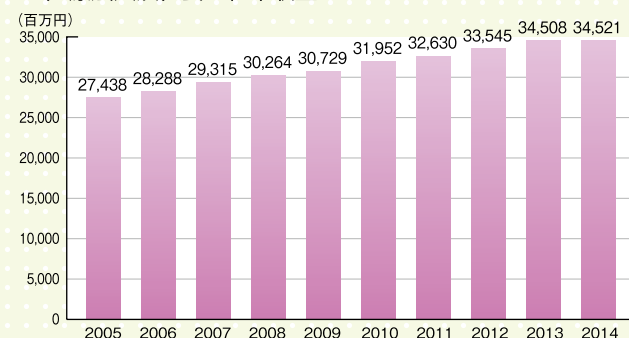
■ グループ経常収益



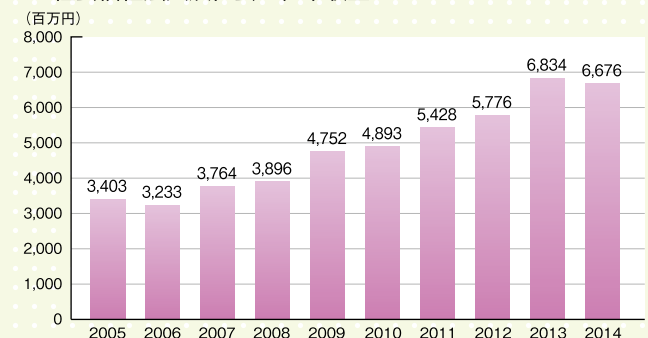
■ 2014年度の各法人の収益 (単位：百万円)

医療法人 溪仁会	経常収益	34,521	経常利益	165
社会福祉法人 溪仁会	経常収益	6,676	経常利益	65,100円
その他関連法人 (株式会社ハーティワークス、株式会社ソーシャル、医療法人稲生会)	経常収益	992		

■ 医療法人溪仁会 経常収益



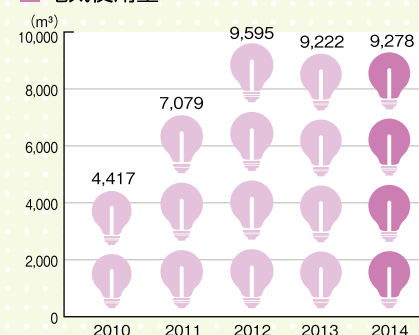
■ 社会福祉法人溪仁会 経常収益



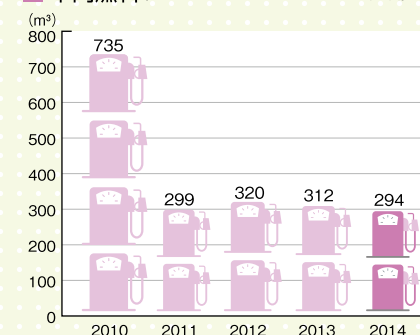
2007年：コミュニティホーム岩内開設、菊水こまの郷開設
2011年：月寒あさがの郷開設 2012年：岩内ふれ愛の郷移管
2013年：きもべつ喜らめきの郷開設

環境の数字

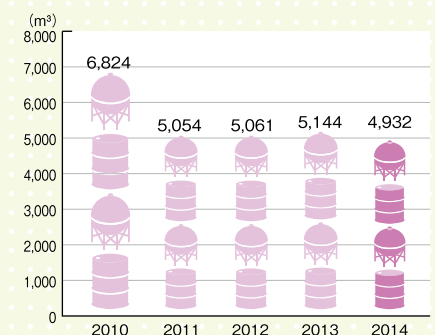
■ 電気使用量



■ 車両燃料(ハイオク・レギュラーガソリン・軽油)



■ 建物設備維持燃料(都市ガス・灯油・A重油・LPG)

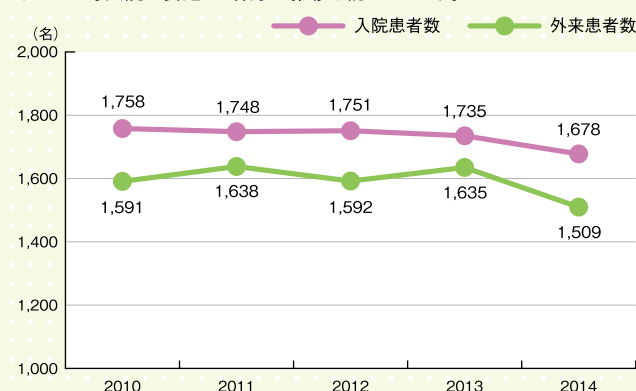


省エネルギーの推進(2014年度)……前年度比 **5%減** ※環境負荷のデータはすべて医療法人のみ

医療法人溪仁会の数字

■ 1日あたりの外来患者数・入院患者数

外来診療は、2014年4月から手稲溪仁会病院が完全予約制(一部を除く)となりました。入院は安定した数字で推移を続けています。

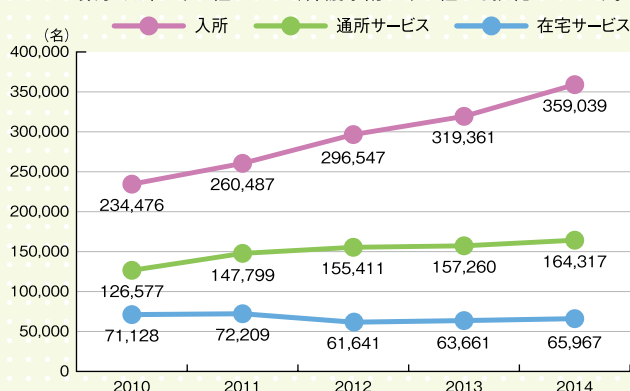


※医療法人溪仁会全体の平均の推移

社会福祉法人溪仁会の数字

■ 施設の入所者数と通所・在宅サービスの利用者数(年間)

入所・通所サービスは施設の増加に伴い利用者も右上がりに増えています。グラフの数字以外の取り組みとして、介護予防の取り組みも強化しています。



※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数統計

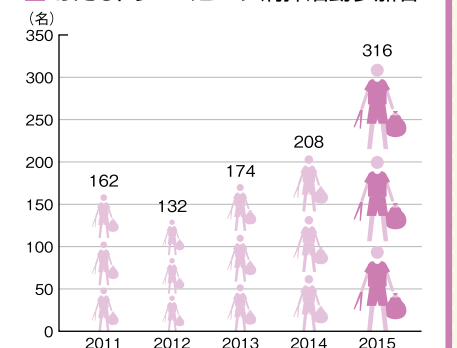
※通所サービス：通所介護・通所リハ 在宅サービス：訪問介護・訪問看護・訪問リハ

環境負荷を低減する活動

溪仁会グループでは、省エネルギーや環境活動に取り組み、環境負荷の低減をめざしています。2006年からは、各病院・施設の厨房で出た廃食油を回収。リサイクル業者によってバイオディーゼル燃料として再利用されています。また、2008年からは毎年1回以上、おたるドリームビーチの清掃を行っています。(その他環境活動はP48・49参照)



■ おたるドリームビーチ清掃活動参加者



親しみやすい活動で地域の介護予防をサポート

〔定山溪病院〕

Challenge

地域で暮らす高齢者が増える中、要介護状態を未然に防ぐことが重要になっている

Action

健康づくりなどの地域活動を通して、介護予防への意識を高め、実践してもらう

医療と連携した幅広い活動を展開

定山溪病院に併設の「札幌市南区介護予防センター定山溪」は、簾舞・藤野・定山溪地区で介護予防の普及・啓発活動を行っています。さまざまな地域活動を通して介護予防への意識を高めていただき、要介護状態になるのを予防しようというのが狙いです。

2006年の事業開始以来、地域の町内会や老人クラブといった団体を対象に、年間100件もの地域講話などを実施。さらに2013年度からは定山溪病院の医療スタッフもかかわる取り組みがスタートし、

■介護予防センター定山溪の介護予防啓発普及活動(2014年度)

認知症教室	8回
転倒予防教室	35回
すこやか倶楽部	47回
計	90回
延べ参加者数	1,647人



リハビリテーション部理学療法科の協力で制作した介護予防DVD『転ばん体操』



定山溪病院 在宅ケア部 札幌市南区 介護予防センター定山溪 主任代理 北條 拓也

歯科医師やセラピスト、管理栄養士などがそれぞれの専門性を活かしたプログラムを提供してきました。

2014年度には新しい取り組みとして、定山溪病院での健康づくりに向けた講座(年4回)を開始。同センターの北條 拓也主任代理は「医療スタッフが地域に出る場合は職種が限定されてしまいますが、病院の中での活動であれば、多くの職種がかかわりやすくなります。また、参加者の方に定山溪病院のことを知

っていただく良い機会にもなっています」と言います。

さらにリハビリテーション部の協力を受け、介護予防DVDを制作しました。これは、運動サロンなどで体操やトレーニング方法を習っても、自分たちだけではなかなか継続できない、という声に応えるためのアイデアで、地域活動で運動指導を担当している理学療法士が内容を考案。解説付きの実演を見ながら、実践できるように工夫しています。このDVDは、理学療法士が指導を行った老人クラブや運動サロンで無料配布し、介護予防に役立ててもらっています。

より地域に根ざした活動を推進

こうした活動によって、地域の介護予防に対する意識はかなり高まってきたと北條主任代理は感じています。参加者からの評価も高く、アンケート調査では多くの方に「満足」とお答えいただきました。今年の7月からは同病院での運動教室も始まり、地域住

民の方々にご参加いただいています。また同センターでは、小中学校で「認知症サポーター養成講座」を実施するなど、幅広い方々に介護予防や認知症を知ってもらう活動を推進しています。

北條主任代理は「これからは、町内会の役員の方など地域の核になって動いていただく役割を、どのように次につないでいくかが課題」と話します。介護予防は決して高齢者だけの問題ではなく、若い世代も関心を持ち、地域が一体となって取り組みに参加することが大切です。今後はほかの機関と連携しながら地域ケア会議を開催し、住民の皆さまと共に、地域が持つ課題への対策を考えていくことになっています。

「病院に併設された介護予防センターならではの強みを活かして、これからも地域の方々のニーズに応えていきたい」と北條主任代理。医療と福祉が連携しながら、地域に貢献する取り組みを続けていきます。



医師や看護師、リハビリスタッフなどが、地域での介護予防活動に参加。専門性の高い内容をわかりやすく伝えています

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

手を取り合って、元気の輪をつくらう。

溪仁会グループのすべての活動は、地域の方々の健康で安心な暮らしを支えるためにあります。地域社会の一員としてさまざまな方と連携し、皆さんのニーズに応えるためのコミュニケーションを重視しています。



町と連携して地域医療のモデルづくりを担う

〔喜茂別町立クリニック〕

Challenge

医療資源の少ない農村地域で、住民の健康をどのように守っていくか

Action

町と協力し、医療、保健、福祉の連携による新たな地域医療モデルを創造

喜茂別町立クリニックは2013年に開院し、医療法人溪仁会が指定管理者として運営を行っています。かかりつけ医として、あらゆる年代の住民へプライマリ・ケアを提供し、身近な健康相談なども行っています。また特別養護老人ホーム「きもべつ喜らめきの郷」と連携し、溪仁会グループが医療、保健、福祉のサービスを一体となって提供しています。

さらに喜茂別町との連携のもと、乳幼児健診、保育園、学校健診などの健診活動や、健康セミナーの開催、町の講演会での講話などといった保健予防活動を実施しています。2014年度には、住民のより積極的な健康づくりを支援するために、プチ健診と運動を組み合わせた町の健康づくりプロジェクト「80(ハチマル)ウォーク」を事業の一環として実施しました。その他さまざまな形で、住民の健康づくりを支援しています。

また、同クリニックでは、手稲家庭医療クリニックと

連携して家庭医療後期研修医の地域研修を実施し、地域医療の担い手の育成にもかかわっています。

2015年度からは、常勤医師2名体制となり、診療機能がさらに強化されました。今後は町との協働による総合住民健診、小中学校に医師が出向いての健康教育、病児保育への対応など、医療、保健、福祉の関係者間のネットワークを築きながら、さまざまな取り組みを実施していく予定です。



健康づくり講演会(2015年2月19日)

高齢者医療の知識を還元する「医療公開講座」を開催

【札幌西円山病院】

Challenge

35年間培ってきた老年医療のノウハウを地域に還元したい

Action

誰もが参加しやすい公開講座の形で、高齢者の医療、保健、福祉について伝える

札幌西円山病院は2014年で開院35周年を迎えたことを記念し、2015年4月からかでの2・7にて「地域で暮らす高齢者のための医療公開講座」を開始しました。毎回一つのテーマについて、複数の職種の職員が講師となり、それぞれの専門から座学に実技・実践を加えたわかりやすい内容で講義を実施します。多くの方に気軽にご参加いただけるよう、参加費無料・申し込みも不要としました。

第1回は2015年4月4日、「高血圧と糖尿病～認知症にも関係があるの?～」をテーマに開催されました。浦 信行院長が高血圧や糖尿病と認知症の関係についてお話し、柴原 知子管理栄養士・三谷 有司理学療法士がそれらを予防するための栄養・運動について実践を交えて伝えました。

第2回は2015年5月30日、「知って得る薬の基礎知識」をテーマにしました。阿部 孝行薬剤師が薬の作用や飲み時の注意事項、「飲み合わせ・食べ合わせ」について具体例を挙げて解説しました。次に竹下 知言語聴覚士が飲み込む動作の確認や、服薬用ゼリーを使用し錠剤やカプセルなどが飲み込みやすい方法などを体験を交えながら伝えました。

毎回、講演会の後半には職種ごとの相談コーナ

ーを設け、健康や食事、運動について個別にお話を聞かしています。

この講座は2016年3月まで毎月1回、全12回を開催します。同病院がこれまでに培った高齢者医療のノウハウを地域の方に役立てていただくことを目的に、わかりやすい講演を続けていきたいと思っています。



第2回開催の様子



さまざまな服薬用ゼリーを使用し体験

認知症患者さまとご家族の交流を図る「スマイルカフェ」

認知症の方やご家族がお茶を飲みながら交流し、専門家に相談したり、レクチャーを受けたりできる「スマイルカフェ」を2014年12月20日に開始しました。認知症の方やご家族を支援するため、札幌市、札幌医科大学との共同研究モデル事業として、札幌市認知症支援事業推進委員会と共催で始めました。カフェには毎回医師、作業療法士、社会福祉士などの医療専門職が参加します。それぞれの専門を活かし、認知症についてのミニ講座や、認知症予防のための体操、介護教室や社会資源のレクチャーなどのプログラムを実施。イベントの最後には、職員を交えた相談会を行います。

2015年度からは法人の自主事業として月1回開催し、7月には札幌市から第1号の札幌市認知症カフェとして認証を受けました。今後も認知症への理解を深めていただき、地域の方々が気軽に交流できるよう開催を続けていきたいと思っています。



「コグニサイズ」という認知症予防に向けた体操を体験



カフェのように気やかな雰囲気でお茶を飲みながら交流を深めます

子どもたちが夢に近づく「ブラックジャック セミナー」

【手稲溪仁会病院】

Challenge

医療従事者育成のため、早い段階から医療職に興味を持てる情報発信が必要

Action

医師の仕事を体験できるセミナーを通じて、子どもたちの医療職への興味を育てる

手稲溪仁会病院では、中学生に向けた外科手術体験「ブラックジャックセミナー」を2013年から開催しています。体験を通じて、医師の仕事や医療への関心を高め、将来の進路選択に役立ててもらうことを目的としたセミナーです。実際に医師が使用しているのと同じ医療機器を用いた体験を行っています。

2015年は7月4日に開催され、中学生24名が参加しました。まずは同病院の成田 吉明院長から内視鏡外科手術についてレクチャーを受け、その後鉗子の操作と縫合糸の結紮^{けっさつ}の練習を経て手術室へ移動。グループに分かれて超音波検査装置による



da Vinci Sの模擬体験

模擬検査、縫合糸による結紮体験、手術支援ロボット「da Vinci S」の模擬操作、超音波凝固切開装置や内視鏡外科手術シミュレーターによる模擬手術を体験しました。

参加者からは「想像以上に本格的で楽しかった」「今まで以上に外科医になりたいと思った」などの感想があり、中学生の興味に応える内容を提供できました。今後もセミナーを継続し、多くの子どもたちに医療の仕事伝えていきたいと思っています。

※結紮…手術の際血管などを糸を縛って結ぶこと。



超音波凝固切開装置で鶏肉を切開

コミュニティラジオで健康と医療・福祉の情報を発信

【溪仁会グループ】

Challenge

病院や施設を利用している方以外にも、広く地域の方々とコミュニケーションを深めたい

Action

コミュニティラジオの番組をつくり、地域の医療機関と協力して内容を充実

溪仁会グループはWebや広報誌などで最新情報の発信を続けてきましたが、より地域に密着し、多くの方へ情報を届ける手段を考えてきました。そこで2012年から、コミュニティラジオ・三角山放送局で、医療・介護のプロフェッショナルが最新情報をお伝えする「医学ひとくち講座」を月2回放送しています。

放送では身近な病気の情報から専門的な治療までわかりやすく解説するほか、「ウォーキング」「バリアフリー住宅改修」といった病気以外の幅広い情報を取り上げています。

また、溪仁会グループ職員だけでなく、地域の病院・クリニックや歯科医院からもゲストを招いてお話しいただいています。リスナーからの、地域の病院について取り上げてほしいというリクエストに応えることもできました。ゲストの先生からは「なかなか話す場のない治療法について話せる良い機会となった」

「地域に愛される息の長い番組を作ってください」といったコメントをいただきました。

番組を通じてリスナーの方々とコミュニケーションが生まれています。また、医師が病気に対する思いを発信することで、地域と病院をつなぎ、地域医療を円滑に進めることにもつながります。今後も有意義な情報発信をめざし、愛される番組として続けていきたいと思っています。



収録の様子

働く人たちと二人三脚で進める「健康増進プログラム」

〔溪仁会円山クリニック〕

Challenge

職場の健康づくりに向けて、健診受診者の生活習慣改善が望まれる

Action

契約団体と協力し、職員個別にアドバイスをを行うプログラムを開始

溪仁会円山クリニックは、健診活動に加え、契約団体に対し働きかけ、健康で活力のある職場をつくる活動も進めてきました。産業医による健康管理や指導のほか、保健師、管理栄養士や健康運動指導士による各種セミナーメニューも用意しています。

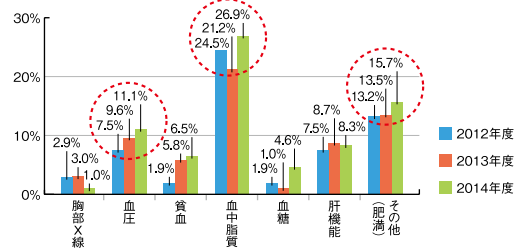
さらに健康情報を提供し、職場の健康アップにつなげるため、2015年度からは健康増進プログラムを開始しました。健診データを活用して契約団体の問題点を見つけ、全体と個人の目標体重を設定し、日常に取り入れやすい運動の紹介や食事・栄養面に関する情報を提供します。その後1カ月ごとに目標達成状況を確認しながら、状況に合わせてさらなる改善のための情報を提供するPDCAサイクルで目標達成をめざします。減量だけでなく、運動や禁煙など、個人の志向に合わせた目標も設定が可能です。

契約団体にとっては、プログラム実践効果を次回

の健診結果で確認することができ、従業員の健康増進の取り組みを数値化できるメリットがあります。また、従業員の方々は、保健師・管理栄養士・健康運動指導士により、個々に合ったアドバイスがなされ、“孤独な挑戦”とならず健康づくりに挑めます。今後は契約団体を増やし、健康増進の取り組みを広げていきたいと考えています。

■契約団体健診統計・現状把握例

〔溪仁会円山クリニック健診統計データ・3年間の推移〕



3年間の推移を見ますと、3年間を通して血中脂質、その他（肥満）、血圧の項目が高い有所見率となっています。中でも血中脂質の有所見率は再び増加傾向です。

地域と連携を深めるコミュニティ活動

〔社会福祉法人溪仁会〕

Challenge

地域の方々から施設見学の機会や福祉制度・施設の知識を求められている

Action

見学やセミナーを通じて、地域に開かれた施設として信頼を深める

社会福祉法人溪仁会の各施設では、地域との連携を深める活動に取り組んでいます。

2014年8月27日、札幌市社会福祉協議会主催の市民啓発研修「社会福祉施設見学セミナー」を月寒あさがおの郷で実施しました。これはボランティア支援活動の一環として、社会福祉施設への理解向上を目的に行われました。月寒あさがおの郷の一例 規雄施設長が講師を務める「介護老人福祉施設について理解しよう」と題したセミナーの後、施設見学が行われました。

西円山敬樹園では、円山西町町内会との共催で2014年10月29日に「なるほど身になる福祉講座」を開催しました。社会福祉法人溪仁会の南部 広司介護支援専門員から「知って得する介護保険制度」として介護保険制度を町内会の方々からの視点で説明。続いて作業療法士により「自宅で出来る転倒予防体操」として転倒対策と体操の実技を行いました。44名の参加者はその後4班に分かれ、

同園のほかケアハウス カームヒル西円山の見学を行いました。

西円山敬樹園ではまた、2014年から初めての取り組みとして、介護職をめざす学生・経験者を対象に「職場見学&就職説明会」を開催しました。研修制度などを説明し、進路選択につなげてもらう狙いです。

こうした活動を通して、より地域に開かれ信頼される施設をめざしたいと思います。



「なるほど身になる福祉講座」の様子

コミュニティへのアプローチⅢ：みんなが集える場をつくる取り組み

共に学び、よりよき社会をつくる「みらいづくり学校」

〔医療法人稲生会〕

Challenge

障がいのある患者さまとご家族の社会参加に向けたサポートが必要

Action

情報交換や学びの場を設けることで、社会とかかわる機会を増やしていく

医療法人稲生会は、障がいのある人やそのご家族がともに学び、交流する場として2013年11月に「手稲みらいづくり学校」を開設しました。さまざまな方にご参加いただき、情報交換や特技を活かした講習会、身近なテーマでの学習会などを行っています。

2014年8月には、JR手稲駅のフリースペースにおいて、地域の方々とともに「みらいづくりマーケット」を開催。子どもたちによる楽しい催し物や車いす体験など、より多くの人に障がいへの理解や関心を高めてもらうための活動を行いました。

こうした手稲みらいづくり学校の活動の輪をさらに広げるために、2015年4月からは中央区の市民活動プラザ星園で「星園みらいづくり学校」がスタートしました。札幌市の中心部にも拠点を設けることで、これまで以上に多様な活動の展開が期待されてい



「星園みらいづくり学校」では、月1回さまざまなテーマで語り合う「茶話会」を開催

昨年行われた「みらいづくりマーケット」でのチェアフラの様子

ます。「手稲みらいづくり学校は医療施設の中にあるという性格から、外部との交流にはどうしても限界がありました。星園みらいづくり学校が入る市民活動プラザ星園ではさまざまな団体との交流もあり、より広く社会とかかわることができると考えています」と伊西 夏恵チーフコーディネーターは言います。

現在は火～金曜日に「ふらっとサロン星園」を開設し、患者さまやご家族が気軽に立ち寄れるようになっています。自身も生まれつき腰から下の感覚がないという障がいのある武部 未来コーディネーターは「こうした場を活用することで、いろいろな人との出会いが生まれ、世界が広がります。少しずつでも新しい一歩を踏み出すきっかけになれば」と言います。障がいや病気などの垣根を越えて、誰もが生き生きと社会の中で暮らすことできる“みらい”をめざし、みらいづくり学校の活動は続きます。



生涯医療クリニックさっぽろみらいづくり学校コーディネーター 武部 未来

■星園みらいづくり学校

所在地	札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園403号室
電話	011-685-2799(稲生会代表)
時間	「ふらっとサロン星園」 火曜～金曜日 11:00～15:00

町の交流の拠点「六中二はつらつサロン」

〔社会福祉法人溪仁会〕

Challenge

身近な住民が集える「地域サロン活動」が広がり、その場が求められている

Action

町内会、NPOと協働で開催する地域サロンに会場を提供

身近な住民が集って仲間をつくり、定期的な交流を通して生きがいある暮らしを送るための地域サロン活動が、各地で行われています。新琴似溪仁会デイサービスでは、NPO法人ワーカーズコープと共催で「六中二はつらつサロン」を月1回開催し、地域の方々の交流の場として施設の一室を開放しています。

同デイサービスは新琴似六番通中央第二町内会の中心に位置し、地域の交流拠点を求めていた

同町内会と、各地でサロン活動を展開するワーカーズコープ、施設を地域の方々に知っていただきたい同デイサービスの思いが重なり実現しました。レクリエーションや懇談を通して地域の方々が交流を深めています。



サロンで談笑する地域の方々



それは
一人ひとりが
輝いてこそ

目標に向かって新しい挑戦をする人、
特技を仕事に活かしている人、
趣味を糧に生き生きと働く人。
溪仁会グループの活動を支える、
「きらりと光る」人をご紹介します。

音楽が個性や
心の動きを引き出すきっかけに。
利用者さまの笑顔に喜びを
いただいています。



社会福祉法人溪仁会
円山溪仁会デイサービス
所長
荒瀬 崇光

私がギターを始めたのは中学生のとき。兄の影響を受け、ロックを中心に演奏するようになりました。高校ではバンドを組み、リードギターを担当。音楽関係の専門学校に進学し、卒業後は楽器の販売の仕事やバンド活動などをしていました。

その後、祖父母が高齢者施設に入ったことで「人の役に立つ仕事したい」という思いが強くなり、福祉の世界に飛び込みました。まったく異なる業種からの転職でしたが、「この仕事しなかった」と思えるほど、仕事にやりがいを感じました。

しばらくはギターから遠ざかっていましたが、同じ溪仁会グループのあおばデイサービスセンターにいたときに、当時の所長から「一緒に演奏しないか」と声をかけられ、敬老会やお祝いの席などで、童謡や昭和の歌謡曲などを弾くように。それまで演奏したことのない曲ばかりでしたが、利用者さまと一緒に歌わ

れたり、笑顔になられたりすることに喜びを感じ、ギターを弾く楽しさがよみがえってきました。

当施設では、昨年の11月にレクリエーション活動の一環として、ギターで職員の歌の伴奏をしました。利用者さまにとっては生のギターの音が新鮮だったようで、「またやってほしい」という

声をいただいています。音楽に反応を示される利用者さまも多く、私がギターを弾くことによって、その方のパーソナリティを引き出し、何か心に働きかけることができればと考えています。

私は昨年、当施設の所長を務めています。目標は、職員一人ひとりが幸せに働けるように、施設全体を盛り上げていくこと。それが実現できてこそ、利用者さまに充実したサービスが提供できるのだと思います。私のギター演奏も、職員や利用者さまと円滑なコミュニケーションを図るためのもの。皆さんが笑顔で楽しく過ごす時間を演出するために、演奏の機会を増やしていきたいと考えています。



施設の行事やレクリエーションで、ギターの腕前を披露する荒瀬所長。「利用者さまに喜ばれるような曲を選んでいます。一方的に演奏するのではなく、“一緒に”という気持ちで、皆さんに参加していただける雰囲気づくりを心がけています」



所長として、職員の心身面のサポートも重視。さりげない声かけや気配りで、モチベーションを上げるように配慮しています



より専門性の高い
ケアをめざして大学院へ。
がん看護の知識を
活かしていくのが目標です。

それは
一人ひとりが
輝いてこそ



手稲溪仁会病院
看護部 師長
石井 奈奈

手稲溪仁会病院は、「地域がん診療連携拠点病院」として、質の高いがん治療を提供しています。そのため看護にも専門的なケアが求められることがあります。私は現在、がん患者さまとご家族へのサポートを行う「がん看護専門看護師」をめざしており、認定審査に備えて準備を進めています*。

1997年に当院に入職してから、さまざまな研修を受ける中でがん看護専門看護師の方の話を聞く機会があり、がんに特化した専門職に関心を持ちました。しかし、当時は実践の場でもっと学びたいという思いがあり、また専門看護師の受験資格を得るには大学院に通わなければならないことから、「いつかは」と思いながら、時間が過ぎていきました。

転機になったのは、2009年に当院が地域がん診療連携拠点病院に指定された際、国立がん研究センターで指導者養成研修を受けたことでした。

心の中にしまっていた専門看護師への思いが再び強くなり、看護部の上司に打ち明けたところ、「チャレンジしてみたら」と背中を押されました。そのときに、溪仁会グループの奨学金制度を利用することも勧められました。

大学院には2012年に



がん患者さまのケアを担当するうちに、「もっとやれることがあるのでは」という思いが強くなったという石井師長。若手看護師の育成にも熱心に取り組んでいます

進学し、3年間、勤務を続けながらがん看護の専門課程を学びました。この間は、勤務シフトの調整など、職場にさまざまな面でサポートしてもらいました。周囲の協力があつたおかげで仕事と勉強の両立ができ、とても感謝しています。

大学院で学んだことで、患者さまやご家族に対する視野が広がり、これまでになかった発想ができるようになりました。しかし、知識を周りに押し付けるのではなく、その人の考えに耳を傾け、尊重することを心がけています。がん看護では、患者さまやご家族、スタッフなど、かかわる人たちの力が重要になります。自分の強みを活かしながら、みんなの力を引き出せるように支援していきたいと考えています。

*取材は2015年7月に行いました

看護部の研修会では、患者さまやご家族へのケアに関する講師を務めることも





ケアをする人にも、
支えとなるケアを。
アロマセラピーを通し、
ご家族の支援を考えています。

それは
一人ひとりが
輝いてこそ



医療法人稲生会
生涯医療クリニックさっぽろ
目黒 祐美子

在宅人工呼吸医療の必要な患者さまへのケアをする中で、医療法人稲生会 生涯医療クリニック さっぽろは、患者さまの介護を続けるご家族をどう支えるかということも考えてきました。私はケアをする人のためのケア (Care for Carers) を担当するスタッフとして、2014年4月に入職しました。

以前はイギリスで、障がいのある子どもたちや、知的・身体・精神障がいの人、虐待を受けた人などを支援するボランティアを行っていました。活動の中でさまざまなかわりを持つうちに、ケアをする側の人にもサポートが必要なことを実感しました。その手段としてアロマセラピーを学び、滞在中にITEC (国際セラピー試験評議会) のアロマセラピスト資格を取得しました。イギリスをはじめとした欧州では、アロマセラピーは西洋医学を補うものとして、植物の薬理

学や人体の解剖学などを学んだ上でさまざまなケアに活用されています。私は小さいころから、野菜や食べられる野草、薬草など、植物の力に強い興味を持っていたことも、アロマセラピーに心引かれた理由かもしれません。

そして私は今、訪問診療コーディネーターとして医師のサポー



精油を使ったトリートメントをする
と、終わった後にいろいろな話を
しはじめる方も。利用された方の
「心も柔らかくなるの」という言
葉が、目黒さんの胸に残っています

トをするかたわら、ご家族や患者さまで希望された方に訪問アロマセラピーを実施しています。お子さんの介護にかかりきりなお母さんは、しばしば「私はいいの、子どもが優先だから」と話されることも。セラピーを行う5分、10分でも自分の時間としていただき、ケアをするお母さんのことを考えている人もいるのだと知っていただくことが大切だと感じます。

患者さまのご家族と社会をつなぐ活動として、手稲・星園の各「みらいつくり学校」でさまざまなイベントも実施しています。しかし、それでもかかわれるのは一部の方のみであり、介護者を支援する仕組みづくりから取り組んでいかなければいけないと痛感します。道半ばですが、心ほぐれたお母さんたちの笑顔を見るたび、やらなければという気持ちが湧いてきます。



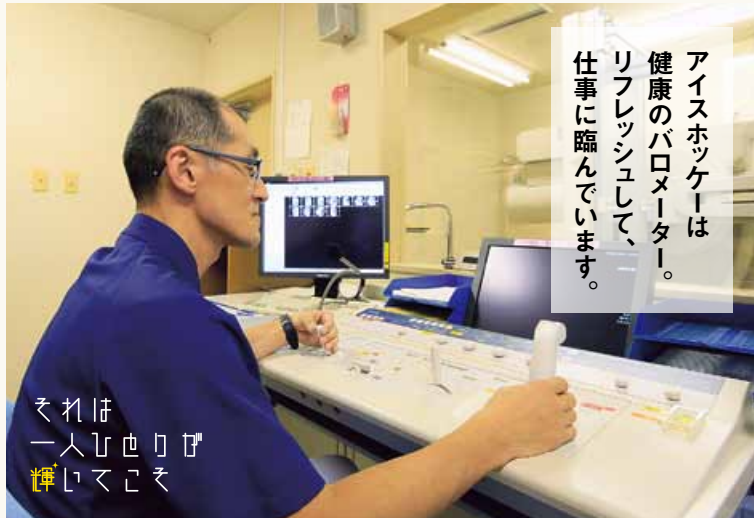
「手稲みらいつくり学校」でのイベント。ほかにもご家族の方が講師を担当される講座など、さまざまな活動を行っています



溪仁会円山クリニック
健診部 放射線科
放射線技師
齋藤 公洋

私とアイスホッケーの出会いが中学校の授業でした。その後、しばらく遠ざかっていたのですが、20代で勤務した病院にアイスホッケー部があり、半ば強制的に入部させられました。ブランクはあったものの、始めてみると体を動かすことが楽しく、以来20年以上続けています。

アイスホッケーの魅力はゲームの後の爽快感。体はくたくたになりますが、ひたすら没頭することでリフレッシュされるのだと思います。現在はクラブチー



アイスホッケーは
健康のバロメーター。
リフレッシュして、
仕事に臨んでいます。

それは
一人ひとりが
輝いてこそ



定山溪病院
看護部 師長
佐藤 裕子

子育てをしているときに、医師から病気がちな子どもの体質改善を勧められました。漢方や食事療法などについて調べるうちに知ったのが東洋医学でした。人間の力を引き出すという考え方は、西洋医学のエビデンス (病気に対する効果) とはまた違ったアプローチで、興味深く感じました。

それ以来、鍼灸の勉強をしたいと思っていたのですが、一度は仕事との両立などから断念。しかしどうしてもあきらめきれず、2012年に思い切って養成



東洋医学への興味から
資格を取得。
基礎を見直す機会にも
なりました。

それは
一人ひとりが
輝いてこそ



ポジションは主にライトディフェンスを担当。ベテランプレイヤーとして、守りの要になっています

ムに所属していますが、勝ち負けよりも、楽しむことを大切にプレイしています。

私は胃のバリウム検査や胸部のX線検査、CT検査などを担当しています。また検診車で巡回健診に出ることもあります。アイスホッケーをしていて良かった、と思うのは、業務が忙しくても体が持ちこたえられること。特に巡回健診は一人でいろいろな検査を行うため、かなりハードなのですが、普段から体力づくりを心がけているせいか、乗り切ることができています。

私のチームには、60代半ばの選手がいます。私もその人と同じ年齢くらいまでは、仕事もアイスホッケーも続けたいと考えています。そのためには体力を維持できるよう努力しながら検査業務に取り組んでいきたいと思っています。

学校の夜間部に入学しました。

通学中の3年間は職場からの理解もあり、さまざまなバックアップを受けました。テスト前には集中して勉強できるように勤務シフトを変更してもらうなど、周囲の助けがあったから続けられたのだと思います。

今春、はり師・きゅう師の国家試験に合格し、念願をかなえることができました。また、学校に通ったことで、解剖学や生理学など、医学の基礎を学び直せたこともメリットでした。現在、医療の現場に鍼灸を取り入れている事例は少ないのですが、これからは活動が広がると言われています。私も患者さまのケアに活かせるときに備えたいと考えています。



鍼灸の勉強が、医学の基礎を見直す機会になったという佐藤師長。学んだ知識は患者さまへのケアに活かされています

一人ひとり、みんなが大切。

子どもも、大人も、高齢の方も。
障がいのある人も、病気やけがを抱える人も。
私たちはそれぞれの個性や人格が大事にされて、
みんなが生き生きと過ごせる社会の実現をめざします。

誰もが働ける社会をめざす障がい者雇用の取り組み

〔溪仁会グループ〕

Challenge

医療、保健、福祉に取り組む組織として、多様な人が働く環境が求められる

Action

障がいのある人を積極的に雇用することで、社会参加を増やす一助となる

溪仁会グループでは、障がいのある人が能力や適性に応じて働くことができるように、積極的な雇用を行っています。社会参加の機会を設け、自立した生活に向けた支援をしたいと考えています。

社会福祉法人溪仁会では、法人全体で20名を雇用(2015年6月現在)。さまざまな施設において介護・清掃・事務などの幅広い業務を担当しています。

同法人ではサポート体制を重視し、2015年2月に『障がい者雇用ガイドブック』を発行。職場の意識啓発も図っています。また、外部の支援団体などと連携しながら、職員の自立支援にも取り組んでいます。今後も雇用数を増やすなど、社会福祉法人としての社会的責任を果たしていく考えです。

働くことによって社会で役立っていることを実感できます

2014年に入職し、施設や車両などの清掃業務を担当しています。事前に研修期間が設けられていたため環境に慣れることができ、安心して働き始めることができました。

当施設に入職したのは、清掃をすることで、社会の役に立ちたいと思ったからです。利用者さま



や職員の方に「ありがとうございます」と言っていたけるとうれしく思いますし、皆さんに喜んでもらうためにもっときれいにしよう、という気持ちになります。

周りの方のサポートもあり、仕事も計画的にこなせるようになりました。目標は、しっかりと仕事を覚えてもっといろいろな業務を任されるようになること。将来的には、親元から自立して生活したいとも考えています。



社会福祉法人溪仁会
円山溪仁会デイサービス
施設管理担当
本間 耕也

困難を抱える人々と共により良き社会をめざして

〔医療法人稲生会〕

Challenge

人工呼吸器などの高度な医療が必要な患者さまや障がいのある方への在宅医療の実現をめざす

Action

医療面のサポートだけでなく、医療、福祉の枠組みを超えた障がい者支援へ

2013年11月に開設した医療法人稲生会は、「生涯医療クリニックさっぽろ」を中核に、在宅で人工呼吸器などの高度な医療を必要とされる患者さまや、障がいのある方とご家族を支援する複合的なサービスを提供しています。

同クリニックでは、札幌圏を中心に、月間230件程度の訪問診療を行っています(2015年8月現在)。札幌市外でも、在宅人工呼吸器療法などに力を入れる病院や、これから体制を整備したいと考える病院へ、医師とコメディカルスタッフが訪問。情報交換や現地での勉強会の開催を通し、患者さまの療養環境を全体的に向上させることにも取り組んでいます。

また、障がいを抱える人が交流を広げる場づくりにも力を入れています。2014年10月4日に北翔大学北方圏学術情報センター「PORTO」で開催されたイベント「いっしょにね!文化祭」では、障がいのある人もない人も、みんな一緒に楽しむ会として、土島 智幸院長が実行委員長を務めました。2015年度も継続

して参加します。

2015年5月からは、医療法人稲生会のホームページ上で「稲生会図鑑」の企画がスタート。患者さまや職員など、稲生会にかかわる人々のインタビュー動画を公開し、その方の魅力や人柄を患者さま・ご家族に知っていただく取り組みです。今後も障がいや病気にかかわらず、誰でもその方らしく暮らせる社会をめざし、さまざまな活動を進めていきます。



「いっしょにね!文化祭」の様子



自立生活をしながらさまざまな活動にチャレンジする患者さまをホームページの「稲生会図鑑」で紹介

患者さまの尊厳を大切に抑制廃止の取り組み

〔定山溪病院〕

Challenge

高齢患者さまや認知症患者さまの、人格や尊厳を大切に療養を考える

Action

患者さまの尊厳を奪う身体抑制を行わずに、事故の少ない安全・安心なケアを実現

療養が長期となる患者さまのなかには、院内を徘徊して転倒したり、ベッドから転落したり、点滴などの管を抜いてしまったりと、安全面に問題が起こる方もいます。かつての医療現場では、そうした危険を事前に防ごうと、患者さまの手や体をベッド・車椅子などにしばったり、ミトン型の手袋で指を動かせなくしたり、高い柵でベッドを囲うなどさまざまな行動の制限が行われていました。

こうした「抑制」は、患者さまの誇りや尊厳を奪う行為です。定山溪病院では、1999年7月に抑制行為を全面廃止する「抑制廃止宣言」を行い、病院全体でケアの見直しに取り組みしました。宣言から18カ月で院内の抑制をゼロにした取り組みは、当時先駆的な事例として全国から注目を集めました。2013年6月には、当時の厚労副大臣の視察を受けています。

現在では、抑制廃止への取り組みは「一人ひとりの尊厳を守るケア」へと発展し、身体拘束に留まる

ことなく患者さまの療養環境向上へと向けて日々進化を続けています。抑制廃止の取り組みを広げていくために、「北海道抑制廃止研究会」の事務局として、抑制に関する相談窓口を担当。また、さまざまなスタッフが全国の関連学会・研究会への参加・協力を進めています。

今後も患者さまの人生と権利を大切に考え、先駆的な慢性期医療を進めながら、患者さま中心の医療を提供し続けたいと思います。



グループ職員とご家族の健康を守るために

〔溪仁会健康保険組合〕

Challenge

医療、保健、福祉に携わる事業体として、職員とその家族の健康を維持する責任がある

Action

独自の健康保険組合を設立し、健診データを活かしてきめ細かい健康管理を提供する

データから独自の保健活動を導く「データヘルス計画」が開始

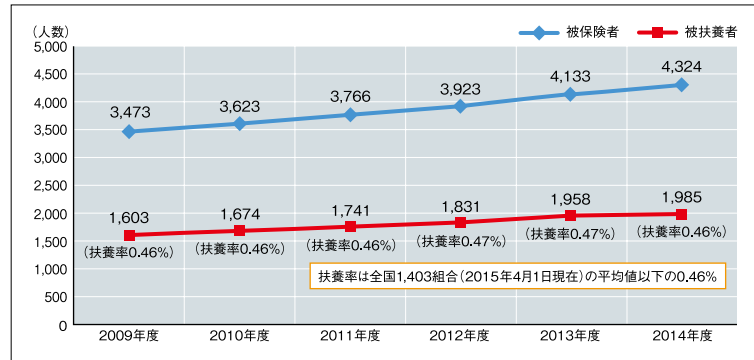
溪仁会グループは、職員の福利厚生充実を図るため、2009年10月に「溪仁会健康保険組合」を設立しました。医療、保健、福祉に携わる者として、職員とその家族の健康を維持するために、独自の組合によりきめ細かく適切なサービスの提供を可能としました。現在、関連会社も含め、グループ全職員とその扶養家族6,349名が加入しています(2015年7月末現在)。

「健康づくり」は国の重要施策の一つに位置づけられており、2015年度からは「データヘルス計画」が始まりました。これはすべての健康保険組合に、健診データと医療費給付のレセプトを電子化し

て整理・分析し、抽出した課題に基づいた計画的な「健康づくり」の実施を義務付けたものです。事業主は従業員の健康増進に努めることが労働安全法に規定されており、健保組合は事業主と一体となって、幅広い保健事業に取り組むことになります。つまり、事業主と健保組合が「コラボヘルス」し、複数年度にわたる計画的な取り組みによって、従業員・ご家族の健康維持・増進を進める計画がスタートしたのです。

溪仁会健康保険組合でも、個人情報の遵守に留意しながら、健診データと医療機関における受療の実態をレセプトから分析し、健康維持に対する問題点を整理します。それらをもとに、当組合独自の活動を展開し、「健康社会」をめざすことになります。

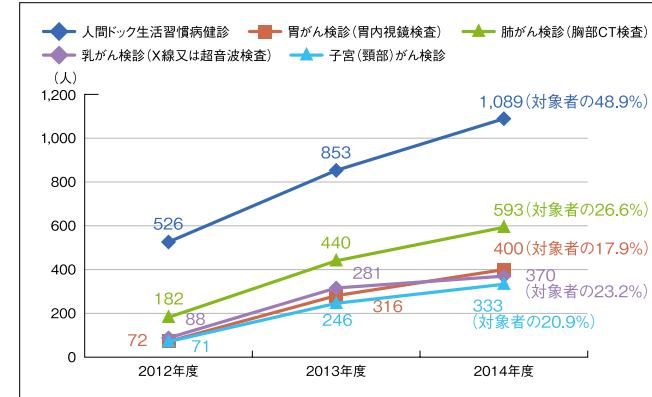
■年度別 被保険者・被扶養者の推移



職員の健康づくり

当組合では、各事業所の定期健康診断時期に合わせ、35歳以上75歳未満の職員(被保険者)に、人間ドック・生活習慣病予防健診、各種がん検診の補助事業を実施しています。グラフに示した検診のほか「腎臓・肝臓・前立腺がん」検診も増加しています。

■人間ドック・がん検診の受診者数推移
(健保組合補助対象の35歳～75歳未満の職員)



これからの健康づくりの意識と背景 “健康投資、そして健康経営”

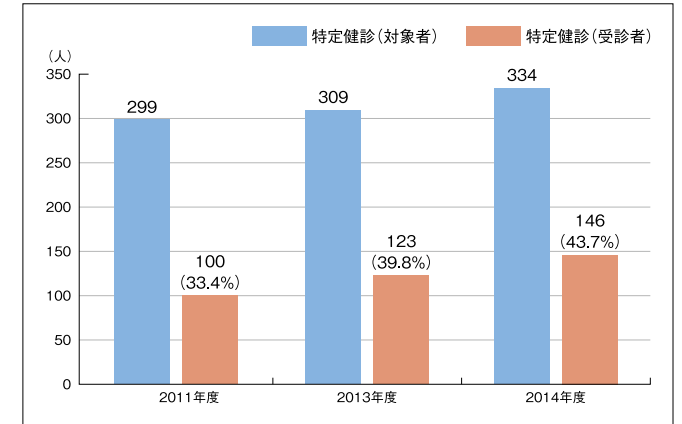
溪仁会グループの各事業所と健康保険組合が協働して「データヘルス計画」を推進することで、病休や退職を減らすことにつなげます。健康で元気な職場づくりのため、PDCAサイクルで職員とご家族の健康度を上げることに取り組んでいます。

*健康経営はNPO法人健康経営研究所の登録商標です。

ご家族の健康づくり

40歳以上75歳未満のご家族(健康保険被扶養者)に、「自己負担無料」で生活習慣病予防のための特定健診や乳がん検診・子宮(頸部)がん検診を実施しています。2014年度は対象者の43.7%まで受診率が伸びました。

■ご家族(40歳～75歳未満)の生活習慣病予防検診受診者数



■2017年度までにめざす方向性

- ①職員のドックや生活習慣病予防健診、がん検診の受診率を90%以上
- ②ご家族の健診、がん検診の受診率を45%以上
- ③健診受診後の再検査などのフォローアップを実施し、異常値放置者へ受診勧奨

■健保組合(保険者)の報告義務

- 40歳以上75歳未満の加入者の健診実施率を毎年度、国に報告しなければなりません。
- ①特定健診(内臓型肥満に着目した生活習慣病予防のための健診)の受診率
- ②特定保健指導(生活習慣病予備群の該当者に対する保健指導)の実施率

2017年度までの達成目標＝特定健診90.0% 特定保健指導60.0%

労働慣行

支えて、支えられて、 もっと強く。

溪仁会グループに集まった職員たちは、それぞれ学ぶ意欲を持ち、サービス向上に努める意識を持っています。その意欲を活かし、大きく育て、誇りを持って働けるように、職員に向けてもさまざまな取り組みを行っています。

健康社会をめざす取り組み ～予防医学と先制医療の推進

「未来のために、いま医学・医療は何をなすべきか」を主題に掲げ、4年ごとに日本医学会総会が開催されています。今年の開催では、史上例を見ない少子高齢社会において「治療から予防への転換」を図ること、ゲノム研究など最新医学の成果を生かした個の予防医学―先制医療―を推進し、「医学と医療の革新」をめざすことが強調されました。

最近、米国の女優さんが、家族性乳がんの遺伝子検査を受けて予防的に乳房切除を行ったことが話題になりました。遺伝子検査により多くの病気の可能性が予測され、健康診断に遺伝子検査が導入されるのは遠いことではないでしょう。

認知症を発症するアルツハイマー病は、脳に異常たんぱく質が蓄積し神経線維を傷害して発症し、神経細胞が破壊されると重症化します。10年以上かけて徐々にこのたんぱく質は脳へ蓄

積しますが、初期の段階でこの蓄積を食い止めれば、アルツハイマー病の発症を予防できるので、異常たんぱく質の早期発見や抗体による先制医療など予防医療の成果が期待されています。また、わが国の循環器疾患の疫学分野における予防医学の研究成果は国際的に高い評価を受けています。

これらの遺伝子レベル、たんぱく質レベル、疫学レベルにおける先端的な予防医学・予防医療の研究成果が、「健康づくり」の保健活動に応用され、「健康社会」実現のために寄与することを期待したいと思います。



溪仁会健康保険組合
理事長
(溪仁会グループ 会長)
秋野 豊明

職員と家族の相談窓口「まめやか相談室」開設

〔溪仁会健康保険組合〕

Challenge

医療、保健、福祉の法人として、職員の心身のケアは責務

Action

相談窓口を設けることで職員をサポートし、サービスの質の維持にもつなげる

溪仁会グループの職員とその家族のこころの相談窓口として、溪仁会健康保険組合の産業保健支援室が「まめやか相談室」を2014年10月に開設しました。仕事や家庭、健康などの悩みに、専任のスタッフが面接や電話、メールで対応。気軽に相談できる窓口をグループ内部に設けることで、心身の変調を早い段階でフォローできるようにしています。木村 礼子産業カウンセラーは「第三者に相談することで、心が楽になる場合も多い」と言います。

同相談室には、ほかに産業医2名と臨床心理士1名が在籍しています。木村産業カウンセラーが窓口となってすべての相談に応じ、月に1度、全メンバーでカンファレンスを実施。必要があれば、さらに産業医や臨床心理士が対応します。

「医療や福祉の仕事に携わる人は、真面目でストレスをためやすい傾向があります。本人だけでなく、上司や同僚、ご家族などからも相談してもらい、予防につなげることが最大の目的」と木村産業カウンセラー。これからは同相談室の周知を進め、利用の促進を図りたいとしています。溪仁会グループの質の高いサービスを維持するためにも、「こころ」のサポート体制を整備していきます。



左から、
羽岡 健史産業医、
園田 博産業医、
木村 礼子産業カウンセラー、
常田 深雪臨床心理士

Another Challenge

誠実な組織活動を推進するコンプライアンス相談報告体制

〔溪仁会グループ〕

溪仁会グループは、コンプライアンスへの取り組みを推進するために、「コンプライアンス相談報告窓口」を2004年に設置。倫理・法令遵守に対する違反の報告や相談などを広く受け付け、解決を図ってきました。窓口を内部と外部に設けることで、公

正さや秘匿性を保持し、改善に向けた取り組みを進めやすくしています。近年社会問題化しているハラスメントの防止なども含め、今後もコンプライアンス体制を堅持していきます。

「溪仁会グループ職員・ご家族35周年ありがとうフェスタ」開催

〔溪仁会グループ〕

Challenge

グループ創立35周年を迎え、さらなる発展を期す

Action

35年を支えてきた職員とご家族をおもてなしするイベントで感謝を伝える

溪仁会グループは1979年の札幌西円山病院開院から、2014年で創立35周年を迎えました。そこで同年11月8日に、記念イベントとして「溪仁会グループ職員・ご家族 35周年ありがとうフェスタ」を、札幌市南区の真駒内セキスイハイムアイスアリーナで開催しました。グループが続いてきたのはそれを支える職員とご家族のおかげと考え、楽しいイベントで“おもてなし”する企画としました。

会場にはステージや縁日、子ども向けの遊具広場などが設けられ、軽食コーナーでは秋野 豊明会長や田中 繁道理事長、各病院の院長たちが溪仁会グループの青いはっぴ姿で焼きそばなどを振る舞いました。ステージでは「夢想漣えさし」によるYOSAKOI演舞やキャラクターショーのほか、職員有志によるバンド演奏やマジックなどのパフォーマンスが披露されました。

田中理事長は「溪仁会が職員数4,500人を超える組織へと成長したのは、職員の皆さまとご家族のご尽力のおかげ。35周年を迎え、なおい層努力し、発展し、社会的責任を果たしていきましょう」と感謝と激励の言葉を述べました。来場者数は2,152人と予想を上回る大盛況の1日となりました。



サンパチチーム「ウルソ・ダ・フロレスタ」が会場を華やかに進行

ピエロによるジャグリングなどパフォーマーも来場



学びの文化を育てる「溪仁会グループ研究発表会」

〔溪仁会グループ〕

Challenge

職員のモチベーションや学習心を高めるため、成果を発表する場が必要

Action

グループ内で研究発表会を開催し、成果の共有や施設間コミュニケーションを図る

溪仁会グループ研究発表会は、グループ開設から10年目の1989年にスタートしました。私たち溪仁会の「学ぶ風土、文化」を象徴する企画で、病院・施設、職種・職域の枠を超えた交流と情報交換の場となっています。

第26回の溪仁会グループ研究発表会は、2014年11月1日に札幌市白石区の札幌コンベンションセンターで開催されました。グループ内の15の施設・病院と提携病院から、医療、保健、福祉の17職種により、計101演題が発表されました。

今回は発表終了後に、手稲家庭医療クリニックの小嶋 一院長が「手稲家庭医療クリニックでの地域医療実践と医師養成について」のタイトルで講演を行いました。地域の在宅療養や健康増進を含めた

幅広い診療活動と、研修医が優れたロールモデルの下、総合診療を学べる育成制度を解説しました。

これらの発表をそれぞれの専門分野の学会発表へと進め、より深い研究や学びに発展させる発表者もいます。職員の向上心をさらなるサービスの質向上へとつなげていきたいと思っています。



本部主催研修会で年代・キャリアに応じ最適な研修を実施

医療法人溪仁会 法人本部主催により、入職後から年齢やキャリアに応じ、系統立てて研修を実施しています。「階層別研修」は新人や役職者など各階層に合わせてテーマを設定。「年代別研修」は20～40歳代の職

員を対象に、年代ごとのキャリア形成支援を行っています。全職員対象の職員合同研修会や、KMS内部監査員を養成する講座などテーマ別の研修も合わせ、職員一人ひとりが成長を続けられる環境をつくっています。

Human Story 2

● 研究発表会の発展に尽くした立場から

学びたいという意欲を持ち続け、研究発表会を成長の糧にしてほしい



定山溪病院
院長 中川 翼

当グループの第1回研究発表会が行われたのは1989年のことでした。当時の加藤 隆正理事長（故人）が、その目的を「業務に関するテーマを研究し、医療サービスの質的向上を図るため」と述べられたことを覚えています。

私は第2回からプログラム委員として会の運営に携わりになり、第13回から第21回までは委員長を務めました。その間、20年にわたり、会の継続と内容の向上をめざしてきました。最初は「何を始めたのだろう」と思う職員も多かったようですが、回を重ねるごとに演題数、参加者数ともに増加。第1回では12題だった演題数が、2013年の第25回では115題に上り、今では当グループを代表するイベントに成長しました。

医療や福祉に携わる人は、研究してその成果を発表したいというモチベーションを持っているものです。職務との両立は苦労もありますが、それによって自分自身が成長し、また他の職員の

発表を聞くことが刺激になるのだと思います。

高度急性期医療から慢性期医療、高齢者福祉、在宅支援までが網羅されているのも当グループならではの特徴です。これほど規模の大きい研究発表会を行う医療・福祉グループは、全国的にも数少ないと自負しています。今後もこの取り組みを続け、職員の成長と連携に役立ててもらいたいと考えています。



信頼される ビジネスパートナーへ。

私たちの事業は、多くのビジネスパートナーに支えられています。
患者さま・ご利用者さま・地域の皆さんに信頼されるには、
パートナーである企業や団体からの信頼にも応える、
公正な取引が基礎になると考えています。

公正な事業活動に向けた外部パートナーとの取り組み [溪仁会グループ]

溪仁会グループの活動を監事という立場からサポートしていただいている方に、
当グループの事業活動に対する評価や公正な取引体制の推進に向けた提言などをうかがいました。

透明性の高さを維持しつつ、今後はリスク管理への取り組みも

近年はアカウンタビリティ（説明責任）という言葉がよく使われます。私は、職員の皆さんの日々の仕事の中にも説明責任があり、その積み重ねが組織全体の価値をつくると考えています。溪仁会グループでは、事務部門を含め、数多くの研修を実施して意識啓発を図っています。また、職員による相互的な内部監査や外部理事の登用など、透明性の高さを確保しようとする姿勢を強く感じます。

この10年間で溪仁会グループの財務会計レベルは、非常に向上しました。適正かつ迅速で、一部上場企業と比べても遜色がないといえるほど。これは、職員一人ひとりの意識の高さの現れだと思います。

現代は、予期せぬトラブルが起きることが多く、高度なリスク管理の必要性が高まっています。例えば、これまで会計や購買

は適正さと効率性が重視されてきましたが、今後はリスク管理重視にシフトすると予想されます。溪仁会グループは、コンプライアンスの推進にも熱心に取り組まれています。組織としてトラブルを未然に防ぐ、何かが起きても最小限にとどめて改善を図る、というリスク管理体制の整備にも取り組んでいただきたいと思っています。

何より大切なのは「守るべきもの」を見失わないこと。溪仁会グループの理念を意識し続けることが、公正な事業活動の実現につながると考えています。



板垣洋公認会計士
事務所代表
公認会計士
溪仁会グループ監事
板垣 洋氏

公正な事業取引に向けた管理・評価システム

[医療法人溪仁会]

Challenge

公益性の高い医療に携わる組織として、公正な取引の推進が必要

Action

取引先の評価と購買管理システムで、取引の透明化と適正化を図る

適正な取引先の評価で 透明性を確保

医療の現場では、薬剤や医療材料、文具や雑貨、印刷物など、日々の業務に使用する物品の補充が常に行われています。組織の規模が大きくなるに従い、取引の量や金額も増大し、管理も煩雑になります。医療法人溪仁会の各病院では、取引先を適正に評価する仕組みづくりや取引の集約化で、公正な取引の実現を図っています。

手稲溪仁会病院、札幌西円山病院、定山溪病院、溪仁会円山クリニックでは、購買管理責任者会議を立ち上げ、情報の共有や適正な購買活動の推進を図っています。2カ月ごとに会議を開催するほか、「購買・委託取引先評価」を2010年度から年に1回実施。納品や連絡体制など、統一したフォーマット

で共通する取引先の評価を行い、結果を精査・検討しています。

同会議の事務局を担当する手稲溪仁会病院経営管理部物流管理課の野々村 整主任は「当然、同じ取引先でも病院によって評価は異なってきます。その違いはどうして生じるのかを検討することで、問題点などを明らかにし、必要があれば取引先に改善をお願いしています」と、この評価システムの目的を話します。各病院の結果をオープンにすることで、偏りのない評価につながり、公正さの担保にもなっています。



手稲溪仁会病院
経営管理部
物流管理課 主任
野々村 整

公正な取引をサポートする 購買管理システム

病院での購買にかかわるすべての取引は管理システムによってデータ化され、必要に応じて情報を確認することが可能です。医療法人溪仁会法人本部経営管理部の進藤 公一氏は「この購買システムが導入されたことで、一つ一つの物品にコードが付けられ、仕入れ値も一目で分かるようになっていました。それまでは病院ごとにばらばらだった単価も、取引先に働きかけて統一できるようになりました」とメリットを説明します。

また、以前は物品の補充をする際、各病棟から手書きで出される注文書を購買の担当者が受け取って確認し、発注業務を行っていましたが、時間がかかる上に入力ミスなどを招く可能性がありました。こうし

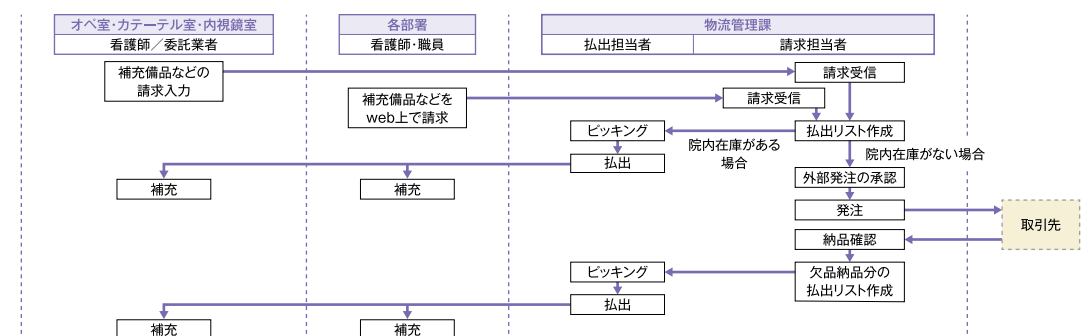
た問題も、このシステムによって各現場からスピーディに発注できるようになったことで解決され、職員の負担も軽減。誤発注や過剰発注、不透明な取引などの防止にもつながっています。

これからの目標は、患者さま1人あたりの診療収入や必要な費用などを、職員の誰もが1日単位からすぐに確認できるシステムを構築すること。これによって、職員のコスト意識が高まると同時に、取引価格を交渉する際の根拠にもしたいと考えています。



医療法人溪仁会法人本部
経営管理部 次長
施設管理担当
進藤 公一

■物流管理システムの流れ(手稲溪仁会病院の例)



豊かな環境を、未来へ。

環境を考えることは、事業の効率化を考えること。
それはさらに、サービス向上を考える余裕にもつながります。
溪仁会グループは、組織を挙げた環境保護活動とともに、
一人ひとりができることを積み重ねることも大切にしています。

一人ひとりが環境意識を高めるために 「Fun to ECO project～エコびとエコもの表彰～」

〔溪仁会グループ〕

Challenge

職員一人ひとりの環境意識を高めるため、エコ活動を推進してきた

Action

優秀な取り組みを表彰することで、さらなる環境意識の向上をめざす

溪仁会グループでは、事業理念の体現に向けた多様な取り組みの一つとして、環境マネジメントシステム(ISO14001)を導入し、推進してきました。現在は、環境マネジメントシステムの考え方を引用し、医療機関の特性を考慮した目標値の設定、活動の評価を行って数値目標の達成をめざす一方、職員一人ひとりの環境意識を高めるとともに、気づきを実行に移す姿勢を大切にしています。その結果、各施設では職員のアイデアを元にしたユニークな草の根的環境保護活動が積極的に行われるようになりました。中には周辺地域との連携に発展するなど、副次的な効果を生み出す活動も出てきています。

2012年11月、溪仁会グループがこれまで行ってきた環境保護活動をまとめた『「溪仁会エコびと エコもの」(溪仁会グループ環境活動レポート)』を発行。レポートでグループ全体の環境保護活動を可視化したことにより、職員の環境意識がさらに高まりました。また、第5回さっぽろ環境賞「環境保全・創造

部門」の優秀賞、北海道グリーン・ビズ「創意あふれる取組部門 地球を守る心分野」の認定を受け、第三者からも高い評価を得ています。

2014年からは、グループの模範となる環境保護活動を表彰して職員の環境意識を引き出し向上させ、環境保護活動のさらなる普及、促進につなげていくことを目的に、環境保護活動表彰企画「Fun to ECO project ～エコびとエコもの表彰～」がスタート。記念すべき第1回目の表彰には、資源の節約や使えるものの再利用、啓発活動など、合計31件の応募がありました。その中から表彰された環境保護活動5件を紹介いたします。



●第1回グループ最高責任者賞受賞

カミネッコン植樹活動 in 当別町カムイシリ地区〔社会福祉法人溪仁会 法人本部〕

環境活動が交流を育む機会にもなっています



社会福祉法人溪仁会
法人本部
業務管理室 室長
宮村 善英

2012年に社会福祉法人溪仁会が創立30周年を迎える記念事業として、ホームック株式会社の協力をいただき、「カミネッコン植樹活動」を企画しました。利用者さまが比較的気軽に参加できることや、土いじりによる癒やし効果など、当法人の活動とリンクできる点も重視しました。

植樹活動は今年で4年目になり、組織全体にすっかり定着しました。各施設では、カミネッコン用の段ボールの組み立てや苗の育成などを利用者さまにお願いし、一緒に活動する楽しさを感じていただけるようにしています。現在は年に1回、職員とその家族による植樹会を開催していますが、将来的にはもっと多くの方にご参加いただきたいとも考えています。



各施設において組み立てた段ボールに土と苗を入れ、水をやって、植樹まで養生します

第1回グループ最高責任者賞受賞は本当にうれしいことでした。植樹活動は自然環境に興味を持ってもらうツールの一つですが、それによって利用者さまに生きがいを感じていただいたり、イベントを通して職員同士の交流が深まったり、さまざまな効果がありました。何よりも、かかわった人たちが環境保護について考え、共有し合えたことが、この活動が長続きしている理由だと思います。これからは、医療法人溪仁会やほかの社会福祉法人にも連携の輪を広げて、カミネッコン活動を継続させていきたいです。



植樹会には職員や家族が参加。「森をつくる」という共通のテーマで協働作業を行います

●優秀賞受賞

創作音楽物語を通じた環境教育 「うたごえサークル「春の森」」

「春の森」は札幌の合唱サークルで、年1回オリジナルの音楽物語を上演しています。物語は主に北海道各地の自然環境に関することをテーマとし、自然環境の現地見学や、合宿で勉強した内容を歌の劇にして披露しています。1985年から続く伝統ある取り組みに、手稲溪仁会病院の職員が17年間参加を続けてきました。



公演本番のステージ

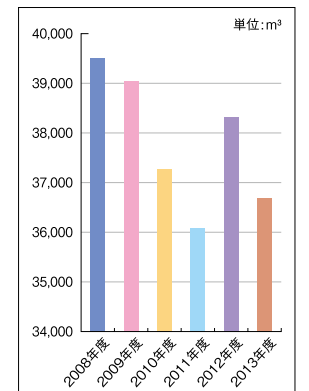


自然観察学習

節水への取り組み 「定山溪病院」

定山溪病院では入浴に温泉水を利用しており、60℃の源泉に加水し温度調整をしていました。しかし、浴槽の共栓の劣化で足し湯が増加したため、共栓をゴム製に変更したほか、浴室清掃後に翌日の貯湯を半分ほど行い、入浴前に温泉水を足すよう工程を見直しました。これにより、水道水とボイラーの重油の使用量が削減できました。

■水道使用量



会議での紙の使用量を減らそう 「溪仁会円山クリニック保健事業部」

会議での資料が多いため、パソコン画面をプロジェクターで投影することで、印刷して配布する資料の枚数を最小限にすることに取り組みました。紙使用量が減ったほかに、委員が画面を見ながら会議に集中できるメリットもありました。



廃材を活用した福祉用具 「西円山敬樹園 施設ケア部 生活リハビリ課」

座った姿勢の保持が難しい利用者さまには、車椅子や椅子の調整(シーティング)が必要です。西円山敬樹園では、加工しやすい段ボールやバスマットなどの廃材を再利用し、リハビリ専門職が利用者さまの体型や障がいに合わせて福祉用具を作成しています。利用者さまに費用負担が発生しないメリットもあります。



オートマン
車いすのヘッドサポート
物入れ

ヒューマン・リソース・マネジメントへの取り組み

〔溪仁会グループ〕

Challenge

従来の労務管理から、戦略的な人的資源管理へとマネジメントの考え方が変化

Action

人事諸制度の見直しや教育研修の体系化・高度化などによって職員と組織の成長を図る

組織において働く人を大切な資源と捉え、その育成や管理などを戦略的に行うことで、組織のビジョンを達成しようとする考え方が、人的資源管理＝ヒューマン・リソース・マネジメント(HRM)です。

医療、保健、福祉は労働集約型事業であり、質の高いサービスの実現には職員の力が不可欠です。溪仁会グループでは人事諸制度を有機的に運用することで職員の意欲や能力を引き出し、職員の成長を組織の成長につなげることをめざしています。

これからの活動目標の一つは、個々の職員の職務歴や資格などのデータを集約し、パーソナルデータの可視化を図ることです。このデータは人事政策の際の基礎データになります。また、従来の研修に加え、管理・監督層へのマネジメント研修の実施や、職員が自ら目標を設定し、その達成を評価する制度の導入も検討しています。

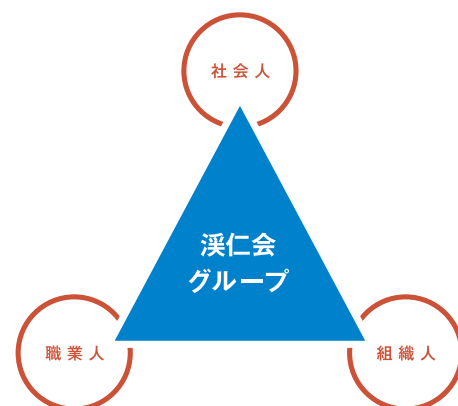
HRMの取り組みについて、医療法人溪仁会法人本部の藤井 裕康総務部部長は「当グループは多職種・多施設にわたることから、じっくりと着実に取り組むことが大切。職員のモチベーションの向上や成長する喜びを、質の高いサービスの提供につな

げていきたい」と話します。医療、保健、福祉の総合グループとしてHRMに取り組み、職員が能力を発揮できる組織づくりを推進していきます。



医療法人溪仁会法人本部
総務部 部長
藤井 裕康

■溪仁会グループが取り組む
ヒューマン・リソース・マネジメント



より良き社会人として、職業人として、組織の一員として、職員一人ひとりが能力を発揮し、質の高いサービスを実現できる環境をめざす

組織統治

一つの意味で、 一つの目標へ。

さまざまな事業活動やCSR活動を行う上で最も大切なのは、
同じゴールに向かって、みんなの思いが一つになること。
さまざまなルールやシステム、学びを通して、
グループ全員が意思統一をして前進しています。



CSR経営を強化する溪仁会マネジメントシステムの運用

〔溪仁会グループ〕

Challenge

グループの経営を管理し、サービスの質向上や業務効率化を図るにはマネジメントシステムが必要

Action

医療、保健、福祉に即した独自のマネジメントシステムを立ち上げ、職員への普及を図る

溪仁会グループでは、品質・環境に関する国際マネジメント規格や個人情報保護に関するプライバシーマークなど、さまざまな第三者評価をいち早く取り入れ、適正な組織運営に活かしてきました。

国際マネジメント規格の一つ、ISO9001の導入から約10年が経過した2010年度より、組織運営を医療、保健、福祉の組織に即した仕組みで行い、各種サービスの質向上や業務の効率化を図るために各種マネジメント規格の一元管理体制構築に向けた検討を開始。ISO9001を中核にグループが導入してきた各種マネジメント規格を溪仁会流に統合、再編した「溪仁会マネジメントシステム(KMS)」の確立をめざしました。2011年度からはKMS会議を発足させ、KMSを有効性と効率性の高い自律的なシステムにするための検討を継続して行っています。

そのKMS活動の一つに、職種や部署の枠を超えて互いの業務適正性を確認する「内部監査」があります。内部監査は500名を超える「内部監査員(内部資格)」によって行われます。本来の目的である業

務適正性の確認以外にも、有用な取り組みが監査員を通じて他部署へと共有され、組織に横のつながりを生み出す効果が期待されています。さらにスキルアップ研修などで、プロセスの有効性確認ができる監査員の教育にも努めています。

その他、KMSが根付き、期待される効果を発揮するためには、全職員に対する「啓発」も不可欠と考え、グループ内広報誌を活用して一般職員にもわかりやすい内容でKMSの継続的な情報発信なども行っています。

今後は、KMS活動が溪仁会グループのCSR経営に寄与していることが誰でもわかるように、組織の社会的責任の国際規格であるISO26000との対比(関連付け)をホームページに掲載する予定です。



KMS会議

Human Story 3

●KMSの活用を現場で進める品質管理責任者

KMSを組織に行き渡らせることで 医療の質の向上につなげたい



手稲溪仁会病院
副院長
品質管理責任者
大野 和則

手稲溪仁会病院は規模が大きく、1,500名を超える職員が働いています。巨大な組織を束ね、目的を一つにしていくためにもKMSは有用だと思います。そのKMSの運用に重要な役割を果たすのが内部監査です。年に1回の監査で業務を見直し、改善を図ることで、医療の質がおのずと向上していくのが理想といえます。

2011年の本格導入以来、KMSの浸透と活用をめざしてきましたが、部署によっては取り組みに濃淡があるのも事実でした。そのため、今年度からは診療部・看護部・技術部・経営管理部の4部署が足並みを揃えてKMSに取り組み、PDCAサイクルの定着を図ることになりました。これによって、病院全体でスパイラルアップを図る体制を強化していく考えです。

また、当病院独自の『TQMニュース』を今年から復刊させることにしました。職員が日々の業務の中で、常にサービスの質を意識する手助けにしていきたいと思います。

私は昨年から当病院の品質管理責任者として、KMSに携わっていますが、成果が形や数字になって表れるものではないだけに、伝え方の難しさを感じています。誰もが理解しやすいような形式にできれば、職員の満足や意識が向上し、さらに質の改善にもつながるはず。今後は、そうした取り組みも進めて、地域の信頼に応える病院であり続けたいと考えています。



ステークホルダーとの対話

溪仁会グループと深くかわりのあるステークホルダーの方々と、組織がより発展していくための3つのテーマについて対話し、これまでの取り組みと、これからの課題を見つめ直しました。

001

社会から信頼されるCSR経営と組織のあり方

東京交通短期大学 名誉教授
一般社団法人経営倫理実践研究センター
理事・首席研究員 田中 宏司氏

より信頼される
情報公開を進め、
組織として持続的発展を



溪仁会グループと接してきて、「「ずーっと。」人と社会を支える」をスローガンとして掲げ、全員でCSR経営に取り組んでいることに、感動しています。

この理念実現のため、グループが「医療・保健・福祉の複合事業体である」と認識して、本業を通じて一人ひとりがそれぞれの立場で職業的使命を果たしています。その成果はグループ研究発表会での発表などで情報の共有化が促進されているため、各人が専門職として高い志を持ちながら、グループとしてコミュニティへの持続的貢献となっています。すべての組織は、トップメッセージと経営理念に基づき、CSR経営を推進し、本業を通じて社会課題の解決に注力することが求められています。「CSR経営は、経営そのものである」との共通認識のもと、経営の基盤となるコンプライアンスの教育・研修とコーポレート・ガバナンスの推進に常に配慮することが重要です。グループ以外の医療機関や福祉機関等との連携を一層深め、ネットワ

田中 宏司先生はコンプライアンスや企業倫理、企業の社会的責任を専門とされています。CSR経営の専門家として、溪仁会グループCSRレポート2009～2012の第三

ークを構築し運営していることは、地域の人々からの信頼と安心感の醸成につながっています。

東日本大震災での経験を踏まえて、人々は災害医療活動が緊急で重要であることに注目しています。今後、さまざまな災害の発生が予想されているだけに、溪仁会グループがリーダーとして総合力を発揮し、地域の人々の生活を守れるよう、災害医療をスムーズに行う体制をあらかじめ準備することが望まれます。

溪仁会グループは、2006年以来CSRレポートを公開していますが、時代は統合報告書の発行が求められるようになっていきます。将来は、財務・非財務情報(CSR活動等)をバランスよくまとめ、ステークホルダーに信頼される新たなレポートを公開することを期待します。最近では、CSR活動報告がISO26000の7つの中核主題を意識した構成になりレベルアップしています。今後の持続的発展のために、外部委員も参加する「CSR委員会」を設置して、さまざまな問題を討議することを提案します。

者意見をお寄せいただいたほか、職員研修の一環としてCSR経営についての講演をいただきました。

002

地域との連携や協力体制を育むために

NPO法人シーズネット
理事長 奥田 龍人氏

高齢者の在宅支援や、
地域をつなぐ活動で、
新しいモデルを示してほしい



溪仁会グループは、西円山病院(現在の札幌西円山病院)からスタートしたこともあり、当初は高齢者に対する医療や福祉サービスが中心でした。社会貢献への取り組みも活発で、札幌市で最初に病院ボランティアを取り入れ、現在は行っていませんが高齢者への配食サービスをいち早く手掛けるなど、先進的な試みをされてきたと思います。

日本が高齢社会を迎える中で、将来、病院のベッド数を減らすことが国の方針で決まっています。退院後も受け入れ先がなく、自宅にも戻れない高齢者の増大が予想され、そうした人々を支えるためのシステムづくりが急がれています。地域での住まいの問題や在宅医療との連携など、病院や施設を出た後をどうデザインしていくのか。ぜひ溪仁会グループには、豊富なネットワーク力や組織力を活かし、そのモデルづくりに取り組んでいただきたいと思います。

地域や在宅という観点では、手稲家庭医療クリニックは、理想的な存在だと感じています。

NPO法人シーズネットは、高齢者が老後も安心して人生を送るためのさまざまな支援を行う団体です。同法人と溪仁会グループは、当グループからのソーシャルワーカーの派遣

欲を言うなら、もっとそうした機能を持つ施設を増やしてほしい。2017年、桑園地区に開設予定の新病院は、回復期リハビリテーションを中心に、在宅支援のための複合的なサービスを提供する予定と聞いていますので、新たな展開を期待しています。

当NPO法人では、溪仁会グループから派遣されたソーシャルワーカーが活動していますが、そうした事例が増えると、地域で活躍するCSW*の育成がもっと進むのでは、と考えています。また、社会貢献の一策として、例えば地域をつなぐための部門を設けて、新しいサービスや事業の創出をさせてみるのもおもしろいと思います。

これからは、低所得の高齢者や障がい者への支援も大きな課題になっていきます。外部の機関や団体とも連携しながら、地域と一体になって活動できる人材の育成や、支援を必要とする人の受け皿づくりにも取り組んでいただくことを希望します。

など、さまざまな場面で協働を行っています。

信頼される
組織の使命として、
CSR経営に
取り組み続けます



当グループは、昨年10月に基本理念となる新スローガンを策定しました(P6参照)。今後もCSR経営を当グループの使命として取り組み続けていくことを、組織全体で再共有しています。

当グループで働く多くの職員が、仕事への誠実な取り組みによって、社会貢献を果たすことをめざしています。そうした思いを実践できる環境づくりが重要だと考えています。その一例がグループ研究発表会などの研鑽の場の提供です。成果は積極的に外部にも公開し、社会のモデルとなるべく努力しています。

超高齢社会では、医療や介護を取り巻く環境がより複雑になっており、一機関では解決できない事例も増えています。行政機関やNPOなどを含めて地域全体で連携できるように、ネット

ワークを広げていく必要があると考えています。

災害医療については、広域な支援を行うDMATの整備を進めてきました。現在は、当グループの各施設・事業所において、災害時に備えるBCP(事業継続計画)の構築に取り組んでいます。リスクを最小限に抑え、事業を継続させることも社会的責任と捉えています。

今回のCSRレポートより、ISO26000の7つの中核主題に沿って活動を整理いたしました。個々の活動の目的や役割を明確にすることで、今後の指針として活用したいと考えています。ご指摘いただいた統合報告書に準じるような財務情報との連動や、外部ステークホルダーとのさらなる連携も図りながら、CSR経営を推進していきたいと思っています。

地域との連携を
積極的に進め、
社会からの信頼に
応えていきます



奥田理事長がご指摘されるように、2025年を見据え、地域で誰もが安心して暮らしていくためのシステムづくりが急務だと考えています。それは、当グループが単独で行うものではなく、地域にある法人や行政、組織などと連携してつくり上げていくものだろうと思います。

例えば札幌圏では、病院や施設など必要な資源はある程度充足しており、それらをどう結び付けて活用していくかが重要になります。これを実現できるのがまさにCSW*だと思います。CSWは言い換えれば総合医や家庭医のような、全体を見渡しながら幅広い視点で活動できる存在。当グループでも、これからは職員が地域に出ることを支援し、CSWの育成にも取り組んでいきたいと考えています。

医療や福祉の事業は公益性が高く、特に福祉分野は非営利性が強く求められるため、これまでは施設経営がメインになりがちでした。しかしこれからの時代は、地域に根ざした活動も積極的に展開していく必要があります。それは単に当グループがサービスの量を増やして不足部分を補うということではなく、いかに地域全体を機能的につなぎ、連携を図るために貢献できるかということだと思います。

当グループの各病院・施設では、地域に向けた活動に取り組み始めています。患者さまや利用者さまの目線で考え、行動することで地域のニーズがおのずと見えてくるはず。誠実な組織活動を続けながら、当グループに対する社会の信頼に応えていきたいと考えています。

*CSW(コミュニティソーシャルワーカー)…援助を必要とする人と福祉サービスや支援機関などをつなぐ、地域に根ざした活動を行うソーシャルワーカー

株式会社サボルテ
代表取締役 塚田 康祐氏

組織や職種の垣根を越え、
自立して働ける人づくりを
期待します



溪仁会グループは早期から人づくりを重視したスタッフ教育に取り組まれてきましたが、近年はその姿勢が組織全体に定着してきたことを感じます。教育や研修に対する職員や職場の理解も進み、組織の取り組みの中でも優先順位が高くなっているのではないのでしょうか。

溪仁会グループで働く人たちの魅力は、明確な目標を持っていることです。やらされているのではなく、自立的にキャリアを描けていることが伝わってきます。逆に、少し物足りなく感じるのは、職種や職場にかかわらず、互いにもっと言いたいことを言っても良いのでは、ということです。溪仁会グループとしてどこに向かっていくかというベクトルは同じですから、今後は組織や職種の垣根を越えるような一体感をもっと強化していくことが求められます。

理想とする職員の姿は、自分で考え、自ら動き、結果を出すという「自立型」です。それに加えて、医療や福祉に携わる人たちには、ホスピタリティや人間力も持ち合わせてほしいと思い

株式会社サボルテはビジネスコーチングの研修や経営コンサルティングを行っています。塚田 康祐代表取締役には、医療法人溪仁会本部主催の研修会の講師をご担当

ます。また、組織におけるリーダーは単に上から指示するのではなく、メンバー（部下）の背中を押してサポートできるような人物であることが理想です。これからの医療や福祉には、部門や役職に関係なく、ボーダーレスな感覚を持つ人がますます求められるようになります。将来的には、管理・監督層など上層部を対象にした研修にも取り組む予定と聞いていますので、ここにも大きく期待しています。

これからは研修会で培った人間関係やヒューマンスキルを、いかに実務に活かしていくかという段階になると思います。そのために、研修を実務に結びつけられるような仕組み作りが急務だと考えています。また、「手稲溪仁会病院」のイメージが突出している分、グループ全体としての社会への訴求力は少し弱いように感じます。グループとしてのブランディングをより明確に確立できれば、より多くの職員のモチベーションが向上し、一層仕事の誇りにもつながっていくのではないかと思います。

いただき、当グループの職員の育成にご尽力いただいています。

溪仁会グループ
会長 秋野 豊明

大切な人財を育てるために、
教育や研修を
重視しています



医療や福祉は人の作業が価値を生み出す労働集約型の産業です。職員は組織のコマではなく組織を支える財産であることから、当グループでは「人づくり」の基本姿勢を「人財」育成と表現しています。「職員は組織を支える宝」という理念は組織全体に定着してきたと思います。

明確な目標を定めてPDCAサイクルを回す「しごとの進め方」の基本も根付いてきました。医療や福祉の仕事に従事する人の、強く専門を追究する心と連動し、自立的なキャリア形成の意識が育まれているのだと思います。「自分の頭で考え、自分で決断し、自ら進んで行動する」職員が意欲的に取り組んだからこそ、数々の事業が成功したのです。

これから得た教訓は「職員が伸び伸びと意欲的に行動できる環境」をつくることです。職員が自立的に能力を発揮できる環境を整備し、指導・支援する、質の高いリーダーの養成は溪仁会の未来を築く礎です。指導層の実践的な研修は極めて重要になるでしょう。ご提言のように貴重な研修内容を限られた職員に終わらせず、職場へ伝え実践の糧とする場をつくることは重要です。

当グループのような大規模で多様な組織に最も重要なことは、同じベクトルに向かった「一体感」の醸成です。相互の交流を深め、もっと言いたいことを言える自由な雰囲気をつくり一体感を生み出すことが、溪仁会全体のブランディング形成につながると思います。

「ずーっと。」の意味



溪仁会グループは、地域の医療、保健、福祉を支えることを使命に、皆さまの人生に寄り添い続けてきました。
“「ずーっと。」人と社会を支える”を社会的使命として掲げ、社会のニーズに応えるためのサービスを追求しています。

この「ずーっと。」には、たくさんの思いや決意が込められています。
誕生から人生の終末期まで、皆さまの一生を見守り続けること、
切れ目のない医療、保健、福祉サービスを提供すること、
広い地域をつなぎ合わせる医療、保健、福祉のネットワークを築くこと、
信頼される組織の義務として、いつまでも存在し続けること。

こうした使命を果たし、地域の皆さまに安心と満足をお約束することが、
当グループの存在意義であると考えています。
住み慣れた地域で、誰もが生き生きと
暮らし続けることのできる未来を実現するために。
溪仁会グループはいつまでも、皆さまのそばに寄り添い続けます。



皆さまを生涯にわたって見守り続ける「ずーっと。」

医療・保健・福祉を途切れることなく提供する「ずーっと。」



地域の医療・保健・福祉を支えるネットワークの「ずーっと。」

いつまでも皆さまの近くに存在し続ける「ずーっと。」



溪仁会グループ施設運営概要

※各施設の診療実績等のデータは、2015年3月31日現在のものです。職員数は非常勤を含みます。





手稲溪仁会医療センター

TEINE KEIINKAI MEDICAL CENTER



沿革	
1987年 12月	手稲溪仁会病院開院
1988年 7月	救急病院指定
1990年 3月	総合病院承認
1997年 4月	厚生省臨床研修病院指定 救急部開設
1998年 4月	メディカル手稲開設
1999年 7月	開放型病床承認
2000年 5月	手稲溪仁会クリニック開院
2001年 2月	ISO9001審査登録
4月	北米方式臨床研修システム導入
2005年 3月	救命救急センター指定
4月	ドクターヘリ正式運航開始
9月	日本医療機能評価機構認定
2006年 4月	DPC対象病院指定
2007年 5月	救命救急センター開設
11月	地域連携福祉センター開設 脳卒中ケアユニット開設
12月	外来化学療法室開設
2008年 4月	小児NIVセンター開設(2012年4月小児 在宅医療・人工呼吸器センターに改称) がん治療管理センター開設
2009年 4月	地域がん診療連携拠点病院指定
10月	手稲家庭医療クリニック開院
2010年 7月	NICU開設
2011年 11月	地域災害拠点病院指定
2012年 10月	地域医療支援病院承認 溪仁会ビル開設
2013年 2月	HCU開設
2014年 10月	E5病棟開設

手稲溪仁会医療センター

治療と
ケア

手稲溪仁会病院

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 TEL 011-681-8111 <http://www.keiinkai.com/teine/>

最先端医療を含む、質の高い高度急性期医療を実現

手稲溪仁会病院は、質の高い急性期総合医療の提供を使命としています。2012年10月には「地域医療支援病院」の承認を受け、2014年4月からは外来診療を予約制に移行(一部を除く)しました。地域の基幹病院として救急医療・専門医療に注力しつつ、提携医療機関との連携を進めることで慢性期から在宅医療までを見渡し、切れ目のない医療の提供を進めています。

また、Tプロジェクト(P60参照)によって施設面・サービス面の増強を計画的に進めています。より先進的な医療の提供を実現するほか、患者さまが利用しやすい病院をめざし、さまざまなサポート体制も整えます。さらに医療人の育成やスタッフのキャリアアップを支援し、職員一丸となって医療の質の向上を実現させていきます。

2014年度 診療概要	
●1日平均外来患者数 …… 717名	●平均在院日数 …… 10.1日
●地域別外来患者数 札幌市7,517名(手稲区4,879名、西区1,184名、北区658名、その他796名)／ 石狩市924名／小樽市850名／その他道内1,090名／道外89名(合計10,470名)	●病床稼働率 …… 90.8%
●1日平均入院患者数 …… 510名	●紹介率 …… 71.9%
●地域別入院患者数 札幌市9,590名(手稲区5,802名、西区1,538名、北区1,009名、その他1,241名)／ 石狩市1,195名／小樽市1,393名／その他道内2,985名／道外125名(合計15,288名)	●逆紹介率 …… 59.8%
●月平均新入院患者数 …… 1,396名	●救急患者数 …… 20,604名 (内救急車／ヘリ搬送患者数 …… 4,268名)
	●ドクターヘリ要請件数 …… 665件
	●ドクターヘリ出動件数 …… 407件
	●年間手術件数 …… 8,034件
	●年間消化器内視鏡検査数 …… 19,494件
	●年間分娩件数 …… 490件
	●NICU稼働率 …… 98.6%
	●クリニカルバス施行数 …… 7,909件
	●クリニカルバス施行率 …… 46%
	●クリニカルバス種類 …… 190種類

手稲溪仁会医療センター

治療と
ケア

手稲溪仁会クリニック

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 TEL 011-685-3888



手稲溪仁会医療センターの外来部門を受け持ち、13の診療科において本院の手稲溪仁会病院と連動した質の高い医療を提供しています。外来診療に特化することで、患者さまによりスムーズに受診していただける体制を築いています。これからも地域の皆さまに支持される医療サービスを見据え、信頼される医療の提供を行っていきます。

DATA ●病床数 …… 無床	●主な特徴 ISO9001認証(審査登録)	33名、薬剤師2名、診療放射線技師1名、他医療技術職1名、経営管理部門職57名
●診療科目 内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・リウマチ科・小児科・ 外科・形成外科・皮膚科・眼科・血液内科・腎臓内科・放射線診断科	●職員状況 職員数：97名 医師3名、看護師・准看護師	

DATA

●病床数 …… 595床 内 救命救急センター …… 19床 ICU(集中治療室) …… 12床 HCU(ハイケアユニット) …… 12床 SCU(脳卒中ケアユニット) …… 9床 NICU(新生児特定集中治療室) …… 3床 小児入院医療管理料算定病床 …… 25床	●診療科目 内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・乳腺外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神保健科・リウマチ科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・麻酔科・歯科・口腔外科・小児歯科・血液内科・腎臓内科・消化器外科・頭頸部外科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・救急科・腫瘍内科
●主な特徴 厚生労働省指定 臨床研修病院 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院 北海道指定 地域災害拠点病院(地域災害医療センター) 北海道指定 地域医療支援病院 ISO9001認証(審査登録)	●職員状況 職員数：1,610名 医師233名(研修医・歯科医含む)、看護師・准看護師768名、薬剤師40名、リハビリスタッフ55名、診療放射線技師34名、臨床検査技師34名、臨床工学技師18名、管理栄養士16名、他医療技術職32名、社会福祉士22名、経営管理部門職214名、看護助手85名、その他59名

2014年度 診療概要

●1日平均外来患者数 …… 554名
●地域別外来患者数 札幌市6,695名(手稲区4,726名、西区908名、北区518名、その他543名)／ 石狩市880名／小樽市873名／その他道内1,032名／道外75名(合計9,555名)

手稲溪仁会医療センター



右斜め下のピンク枠の建物が、現在建設中のF棟

新棟完成で、高度専門医療の拡充と療養環境の向上を実現 ～手稲溪仁会医療センター・Tプロジェクト報告～

質の高い急性期医療に向けて ハード・ソフト両面の改善を図る

手稲溪仁会医療センターでは、高度先進医療への対応や医療体制の充実、療養環境の整備などを推進するために、「Tプロジェクト」を立ち上げ、新設備の導入や既存施設の改修・改修などを進めています。これまで手稲溪仁会病院を中心にHCU（ハイケアユニット）の開設（2012年度）やハイブリッド手術室の開設（2013年度）、E棟の改修・電子カルテの更新（2014年度）などを行ってきました。

今年度は、2013年から続いていた、本プロジェクトの中心である「F棟」の新築工事が、2年の歳月を経て11月に完了。12月より稼働する運びとなりました。

F棟の完成に先立ち、6月より「患者支援サポートセンター」が一部のサービスを始めています。これは、外来や入院、手術などに伴う手続きや説明をワンストップで行うもので、患者さまは一貫したサービスが受けられるため、待ち時間の短縮や身体への負担の軽減につながり、安心して治療を受けていただけるようになります。現在は仮設ですが、2016年春からの本格稼働を予定しています。



Tプロジェクトとは

溪仁会グループの各法人や各病院では、組織運営や施設整備などにかかわる事業計画を5年単位で立案し、中期プロジェクトとして遂行しています。手稲溪仁会医療センターは、センター名の頭文字のTから「Tプロジェクト」と名付け、地域の皆さまから信頼される医療体制の構築と質の高い医療サービスの提供に向け、さまざまな取り組みを進めています。

高度な先進医療体制を整備し さらなる進化をめざす

F棟は地下2階地上7階建てで、延べ床面積は約14,082㎡。2階から7階に195床の病棟が設置されます。F棟の完成に伴い、既存の2人床と5人床を廃止し、個室と4人床に改修を進め、2017年秋には全体の病床数を670床にする予定です。これによって、個室率は35.5%になります。

高度急性期医療への対応もさらに充実します。ICUや救命救急センターを増床するほか、NICU（新生児特定集中治療室）の増床やGCU（継続保育室）の新設など、乳幼児や小児の救急医療にも力を入れていきます。また、手術室を3室増やし、救命救急センターの拡充や化学療法室などの増床を行うことで各機能の強化を図り、これまで以上にスムーズな診療体制を構築します。

今後は、PET（陽電子放射断層撮影）や3.0テスラMRIなどを導入し、病変の確実な早期発見にも取り組む考えです。また将来的には、高度かつ専門的ながん検診センターの開設も視野に入れています。

Tプロジェクトは2017年度で完了し、その後はまた新たなプロジェクトのもと、北海道の医療と地域社会への貢献をめざす取り組みを続けていきます。

手稲溪仁会医療センター

治療と
ケア

手稲家庭医療クリニック

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 TEL 011-685-3920 <http://www.keijinkai.com/teine-karinpa/>



地域のかかりつけ医として、ニーズに応える医療を提供

手稲家庭医療クリニックは、あらゆる年代の、さまざまな疾患の患者さまにプライマリ・ケアを提供する「かかりつけ医（家庭医）」として地域に根付いた活動を行っています。また、ターミナル期の患者さまに細やかな医療とケアを提供する入院病棟と、訪問看護ステーションを併設。地域の方に親しまれるよう、愛称を「かりんぱ」（アイヌ語で桜）と名付けました。

同クリニックは2012年より在宅医療への取り組みを推進し、手稲区のほか石狩市・小樽市で訪問診療を行っています。また、地域に向けた普及活動や連携体制の整備を進めています（P21参照）。

本院である手稲溪仁会病院（P59参照）や地域の医療機関と連携しながら、地域のさまざまな医療ニーズに応えられるよう、院内体制の充実に取り組んでいます。



DATA

- 開設
2009年10月
- 診療科目
内科、小児科、産婦人科
- 病床数……………19床
- 主な特徴
在宅療養支援診療所（機能強化型）、有床診療所緩和ケア診療加算基準施設、はまなす訪問看護ステーション併設、平成24年度厚生労働省在宅医療連携拠点事業実施機関、日本プライマリケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム実施
- 職員状況
職員数：53名
医師3名、看護師20名、看護助手4名、薬剤師1名、管理栄養士2名、技術員8名、その他15名

沿革

2009年 10月 手稲家庭医療クリニック開院
2012年 4月 在宅医療連携拠点事業指定

2014年度 診療概要

- 外来延べ患者数……………21,369名
- 訪問診療（往診含）延べ患者数
……………3,332名
- 入院延べ患者数……………5,658名
- 予防接種実施人数……………2,685名

療養と
ケア

札幌西円山病院

〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 TEL 011-642-4121 <http://www.keijinkai.com/nishimaruyama/>



より質の高い高齢者医療の提供をめざす

1979年の開院以来、札幌西円山病院は高齢者医療・リハビリテーション医療の質の向上に努めています。患者さまの病態に合わせて、障害者施設等一般病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、介護療養病棟で専門的できめ細やかな医療を提供しています。

現在、より良い療養環境を実現するための施設改修と、制度を見据え地域ニーズに合致した病院づくり「Nプロジェクト」(P20参照)を進めています。また、長年培ってきた高齢者医療の専門性を地域に還元する「医療公開講座」や「認知症カフェ」を開催し、地域とのコミュニケーションを促進しています(P32参照)。

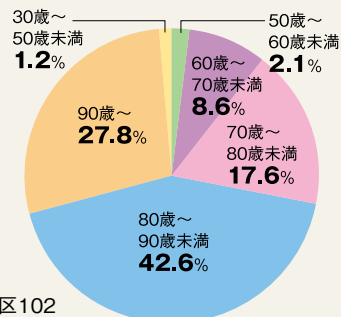
今後は、さらに患者さまのニーズに応えるため、高度な医療体制の構築や在宅との連携を強化し、地域の皆さまから選ばれ続ける病院であることをめざします。

2014年度 診療概要

■年齢別入院患者数比

- 入院延べ患者数……777.8名/日
- 外来延べ患者数……87.5名/日
- 入院患者平均年齢……82.6歳
- 患者分類別状況
- 医療療養病床入院患者 医療区分1/8.0%、医療区分2/50.4%、医療区分3/41.6%
- 介護療養病床入院患者 平均要介護度4.0

- 地域別患者数 札幌市635名(中央区234名、西区102名、その他299名)/石狩13名/後志26名/空知29名/胆振・日高17名/その他道内55名/道外3名(合計778名)



DATA

- 稼働病床数……821床
- 内 介護療養型医療施設……306床
- 医療療養病床……191床
- 医療一般病床……237床
- 回復期リハビリテーション病棟……87床

- 診療科目
- 内科・神経内科・リハビリテーション科・循環器内科・歯科

- 主な特徴
- 日本医療機能評価機構認定病院(療養)、ISO9001認証(審査登録)、通所リハビリ・居宅介護支援事業所併設 など

- 職員状況
- 職員数：903名
- 医師33名(歯科医含む)、看護師・准看護師287名、薬剤師17名、医療技術職191名、介護福祉士89名、事務職員93名、その他193名

沿革

- 1979年 6月 西円山病院開院
- 1990年 7月 医療福祉サービスセンター開設
- 12月 患者家族の会設立
- 2000年 6月 NSTチーム(nutrition support team)立ち上げ
- 2001年 1月 ISO9001審査登録
- 2007年 3月 日本医療機能評価機構認定
- 10月 院内保育所
- 「西円山ピッコロ保育園」新築
- 2009年 11月 札幌西円山病院に改称
- 2012年 10月 「リハビリテーション・ケア合同研究大会 札幌 2012」開催(参加者2,187名)
- 2014年 4月 病院長に浦 信行就任(5代目)

療養と
ケア

定山溪病院

〒061-2303 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 TEL 011-598-3323 <http://www.keijinkai.com/jyouzankei/>



地域全体を見渡し、慢性期医療のモデルを築く

定山溪病院は、急性期の治療を終えてからも、専門的な医療・看護、リハビリテーションが必要な患者さまへの慢性期医療を提供し続けてきました。その中で抑制廃止宣言(P41参照)や高齢者の終末期医療への取り組みなど、常に全国でも先駆的な活動を行ってきました。(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価で長期療養病院認定第1号であり、2013年には機能種別版評価の慢性期病院種別第1号認定を受けています。

近年は高齢者医療が多様化する中、当病院でも福祉施設・高齢者住宅への医療支援や、訪問系のサービス、介護予防など、地域活動にも力を入れています。地域全体を病床と捉え、これまで培った慢性期医療を地域に還元し新たなモデルを築きながら、皆さまから「選ばれる病院」であり続けることをめざしています。

DATA

- 稼働病床数……386床
- 内 医療療養病床……245床
- 医療一般病床(特殊疾患病棟)……141床

- 診療科目
- 内科・神経内科・リハビリテーション科・歯科

- 主な特徴
- 日本医療機能評価機構認定病院(慢性期病院)、ISO9001認証(審査登録)、慢性期医療認定病院、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、介護予防センター併設 など

- 職員状況
- 職員数：346名
- 医師14名(歯科医含む)、看護師・准看護師119名、作業療法士30名、理学療法士23名、言語聴覚士13名、放射線・臨床検査技師2名、薬剤師6名、管理栄養士3名、歯科衛生士3名、ケアワーカーほか104名、事務職員29名

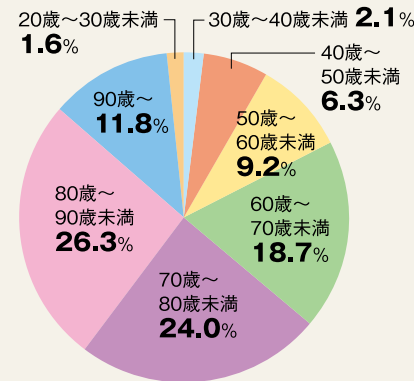
沿革

- 1981年 5月 定山溪病院開院
- 1996年 10月 新棟完成
- 1998年 11月 日本医療機能評価機構認定
- 1999年 7月 抑制廃止宣言
- 2001年 1月 ISO9001審査登録
- 2006年 10月 新々棟完成
- 2010年 5月 慢性期医療認定病院
- 2013年 9月 機能種別版評価項目「慢性期病院」認定

2014年度 診療概要

■年齢別入院患者数比

- 入院延べ患者数……374名/日
- 外来延べ患者数……41名/日
- 入院患者平均年齢……72.4歳
- 地域別患者数
- 札幌市301名(南区156名、その他145名)/後志27名/空知19名/石狩12名/胆振・日高7名/網走・宗谷6名/上川・留萌3名/渡島・松山2名/道外3名(合計380名)



保健

溪仁会円山クリニック

〒064-0820 札幌市中央区大通西26丁目3-16 TEL 011-611-7766 <http://www.keijinkai.com/maruyama/>



精度の高い検査と各専門家のフォローで地域の健康を維持

健康診断専門施設である溪仁会円山クリニックは、病気の早期発見と予防のための人間ドックや各種検査を専門的に実施しています。検査・診断の精度向上はもちろんのこと、健診結果に基づく生活習慣改善や栄養、運動の指導・アドバイスによる地域の健康維持と増進にも力を注いできました。

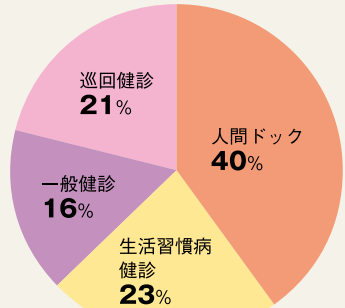
また、契約団体と提携した産業医活動や、保健師・管理栄養士・健康運動指導士を専門講師とする健康づくりセミナーを通して、労働環境の改善や健康で活力ある職場づくりを応援しています。

アメニティやサービス向上をめざした施設リニューアルを終え、システムの見直しにより、受診者一人ひとりのニーズに合わせた健診を実現する体制を整えました。今後は他の医療機関や施設との連携を強め、信頼される健診施設をめざしていきます。

2014年度 診療概要

■健診別受診者数比

- 人間ドック…………… 17,105名
- 生活習慣病健診……………9,966名
- 一般健診……………6,917名
- 巡回健診……………8,934名
- 契約団体数
保険者約350団体、団体・事業所約2,500件
- オプション検査数
婦人科(乳がん、子宮がん、卵巣がん)22,850件／CT(頭部・胸部・腹部)3,334件／その他(胃カメラ、前立腺マーカー、骨粗しょう症ほか)26,794件



DATA

- 機能
健康診断専門施設 病床数6床(宿泊ドック利用)
- 事業
人間ドック(日帰り、1泊2日)の実施、各種健診(生活習慣病健診、一般健診、特定健診)の実施、特殊検診の実施、保険診療(生活習慣病外来、禁煙外来、再検査)の実施、ヘルスサポート(保健指導、栄養指導、運動指導、体力測定)の実施、自治体が所有する保健施設の運動指導業務の受託
- 主な特徴
人間ドック健診施設機能評価認定施設、優良総合健診施設、運動型健康増進施設、委嘱人間ドック専門医制度研究施設、委嘱専門医制度研修施設、マンモグラフィ検診施設 画像認定施設、生活習慣病予防健診実施施設、ISO9001認証取得 など
- 職員状況
職員数：131名
医師6名、看護師13名、医療技術職26名、メディカルクラーク7名、保健師5名、管理栄養士3名、健康運動指導士6名、運動指導員9名、事務職員56名

沿革

- 1990年 1月 円山クリニック開設
- 2001年 2月 ISO9001審査登録
- 2002年 4月 溪仁会円山クリニックに名称変更
- 2010年 6月 生活習慣病外来・禁煙外来を設置
- 2012年 7月 メディカルフィットネス開設

地域医療

かやぬま
 村立診療所
 指定管理者

泊村立茅沼診療所

〒045-0202 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 TEL 0135-75-3651 <http://www.keijinkai.com/tomarimura/>



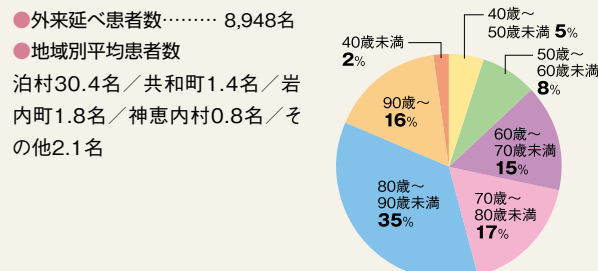
DATA

- 診療科目
内科、循環器科、呼吸器科、消化器科
- 主な特徴
指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を、企業や法人などが代行する制度)
- 職員状況
職員数：8名 医師1名、看護師4名、放射線技師1名、事務職員2名

泊村立茅沼診療所は、医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院(P59参照)が指定管理者として運営しています。CT、MRIといった医療機器を備え、村唯一の診療所として外来診療を行い、地域住民の健康を支えています。隣接する養護老人ホーム・特別養護老人ホームでの診察も行っています。また、診療所での健診やワクチン接種のほか、保育所や小中学校での健診を担い、疾病の予防や早期発見に努め、地域医療を守る拠点として活動を続けています。

2014年度 診療概要

■年齢別外来患者数比



地域医療

町立診療所
 指定管理者

喜茂別町立クリニック

〒044-0201 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3 TEL 0136-33-2225 <http://www.keijinkai.com/kimobetsuclinic/>



DATA

- 診療科目
内科、外科
- 主な特徴
指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を、企業や法人などが代行する制度)
- 職員状況
職員数：11名 医師3名、看護師3名、事務職員4名、用務員1名

医療法人溪仁会が指定管理者となり、手稲家庭医療クリニック(P61参照)が運営をサポートする喜茂別町立クリニックは、地域のかかりつけ医として初期診療や保健活動を一手に担っています。また、家庭医療専門医をめざす人材育成の実践の場ともなっています。さらに自治体や地域の保健師などと連携し、住民に向けた啓発活動やイベントなどを行い、町ぐるみでの健康づくりを推進しています。

喜茂別町立クリニックのめざすもの

- 身近な悩みに対応
- ひらかれたクリニック
- 町と一緒に
- 日本、世界のモデルとなる地域へ

2014年度 診療概要

- 保健予防活動…………… 2,491名
内 予防接種…………… 1,462名
事業所健診……………79名
バースデー健診……………66名
学校内科健診……………135名
学校心臓健診……………26名
保育園健診……………96名
乳幼児健診……………99名
高齢者生活改善事業……………528名

- 患者延べ数…………… 10,414名
内 外来……………8,948名
在宅……………35名
施設……………1,431名

介護

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 西円山敬樹園

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 TEL 011-631-1021 <http://keijinkai.com/keijuuen/>



地域の信頼に応え、質の高い介護サービスをめざす

社会福祉法人溪仁会(当時は社会福祉法人南静会)初の施設として1982年に開設した西円山敬樹園は、日常生活の介助が必要な方に、生活全般にわたるきめ細かい介護サービスを提供してきました。

長年積み重ねてきた豊富な経験と知識を活かし、ご利用者さまやご家族の希望に沿って一人ひとりに心を配ることで、質の高いサービスを実現しています。季節に応じたさまざまな行事や趣味活動を取りそろえ、安らぎと安心を感じながら心豊かに過ごしていただけるよう努力しています。また、当園は札幌西円山病院(P62参照)に隣接し、スムーズな医療サポートを受けられることも支持されています。

今後も近隣住民の方々とのさらなる交流を図り、地域社会から信頼され、頼りにされる施設づくりをめざします。

DATA

●開設	1982年4月
●定員	
施設入所	123名
短期入所生活介護	14名
通所介護	35名
●主な特徴	
ISO9001認証(審査登録)、指定居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護・介護予防センター・ホームヘルプサービス・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)など	
●協力医療機関	
札幌西円山病院	

沿革

1982年	4月	西円山敬樹園開設
1994年	10月	西円山敬樹園ホームヘルプステーション開設
1996年	4月	西円山敬樹園デイサービスセンター開設
2000年	4月	居宅介護支援事業所西円山敬樹園開設
2002年	7月	グループホーム西円山の丘開設
2007年	4月	ケアセンターこころ開設
2008年	7月	指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ開設

介護

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 手稲つむぎの杜

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 TEL 011-685-3726 <http://www.keijinkai.com/tsumugi/>



高齢者福祉の拠点として、安心の暮らしを支える

手稲地区の医療・介護連携のネットワークをつくり、高齢者福祉の拠点をめざす特別養護老人ホームです。入居のほか、短期入所生活介護、介護予防を含む通所介護・認知症対応型通所介護、居宅介護支援の機能を備え、札幌市の介護予防センターと障がい者相談支援事業所を併設します。隣接する手稲家庭医療クリニック(P61参照)に医療面の全面的なサポートを受け、手稲溪仁会病院(P59参照)とも密に連携することで、安心と手厚いサービス・ケアを実現しています。

ご利用者さまの個性・人間性・プライバシーを尊重する完全個室のユニットケアを採用しています。地域との交流を積極的に行い、地域社会とのふれあいの中で生きがいある暮らしを実現しています。また、敷地内には菜園をつくり、園芸や畑作を中心に自然とふれあう機会も多く設けています。

DATA

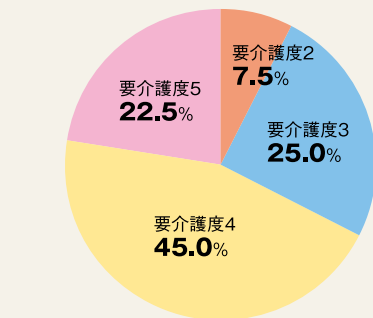
●開設	2014年6月1日
●定員	
特別養護老人ホーム	80名
●併設	
ショートステイセンターつむぎ	
種別/短期入所生活介護(介護予防含む)	
定員/10名	
手稲溪仁会デイサービスつむぎ	
種別/通所介護(介護予防含む)	
定員/65名	
手稲溪仁会デイサービス織彩	
種別/認知症対応型通所介護(介護予防含む)	
定員/12名	
溪仁会在宅ケアセンターつむぎ	
種別/居宅介護支援	
札幌市手稲区介護予防センターまえた	
種別/介護予防センター	
相談室こころ ていね	
種別/札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居支援事業所	
●主な特徴	
福祉避難場所を設置	
●協力医療機関	
手稲溪仁会病院、手稲家庭医療クリニック	

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：118名
施設長・医師・看護職員・介護職員・管理栄養士・生活相談員・理学療法士・作業療法士・介護支援専門員ほか
- 研修参加・実施状況
ユニットリーダー研修、管理者研修、褥瘡予防研修、クレーム対応研修、資質向上研修ほか
- 2014年度実績

入所：72.5名/日 短期入所生活介護：3.2名/日 通所介護：56.1名/日 認知症対応型通所介護：4.2名/日 居宅介護支援：延べ1,515件 介護予防センター延べ相談件数：85件

要介護度別入居者構成比

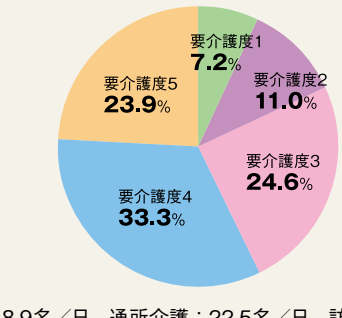


2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：170名
医師、看護職員、介護員、介護支援専門員、生活相談員、療法士ほか
- 研修参加・実施状況
外部研修参加51回延べ27名、内部研修延べ423名、その他各部署にて実施
- 2014年度実績

入所：121.0名/日 短期入所生活介護：8.9名/日 通所介護：22.5名/日 訪問介護：18.5回/日(ケアセンターこころ19.8回/日) 居宅介護支援：延べ2,723件(ケアプランセンターこころ延べ1,253件) 介護予防センター延べ相談件数：円山165件、曙・幌西170件

要介護度別入居者構成比



介護 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）きもべつ喜らめきの郷^{さと}

〒044-0221 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 TEL 0136-33-2711 <http://www.keijinkai.com/kirameki/>



DATA

- 開設 2013年6月1日
- 定員
- 施設入所 …………… 80名
- 協力医療機関
喜茂別町立クリニック、定山溪病院
- 主な特徴
地中熱利用のヒートポンプを冷暖房に導入するなど、環境配慮型の施設

喜茂別町唯一の介護保険施設として、介護が必要になった方々の「わが家」となるような介護サービスを提供しています。ご利用者さまが自分らしい生活を送れるよう、全室個室のユニットケアを導入しています。緑あふれる環境の中に位置し、さらに全ユニットのリビングや多目的ホール、ルーフバルコニーからは、羊蹄山の眺望が楽しめるように設計されています。



2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：66名
施設長・医師・看護職員・管理栄養士・介護職員・生活相談員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニットリーダー研修、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修などに参加
- 2014年度実績 入所：78.7名／日

介護 介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）るすつ銀河の杜^{もり}

〒048-1731 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 TEL 0136-46-2811 <http://www.keijinkai.com/kirameki/ginga>



DATA

- 開設 2014年4月1日
- 定員
- 施設入所 …………… 29名
- 通所介護 …………… 10名
- 協力医療機関
留寿都診療所、定山溪病院、留寿都歯科

「きもべつ喜らめきの郷」の地域密着型サテライト施設として運営している特別養護老人ホームです。小規模であることを活かし、ご利用者さまの個性に合わせながら、より家庭的な気配りのもと日常生活のサポートを行っています。

2015年4月1日には、隣接する留寿都村老人デイサービスが移管され、「るすつ銀河の杜デイサービスセンター」となりました。併せて留寿都村独自の福祉事業である「生きがいサービス事業」の業務委託も受け、介護保険対象外の高齢者を対象としたサービスも実施しています。

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：32名
施設長・医師・看護職員・管理栄養士・介護職員・生活相談員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニットリーダー研修、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修などに参加
- 2014年度実績 入所：25.8名／日

岩内コミュニティの丘

溪仁会グループは、岩内町において介護老人保健施設「コミュニティホーム岩内」と特別養護老人ホーム「岩内ふれ愛の郷」を中心に、入居から通所まで多様な高齢者福祉施設・サービスを運営・提供しています。施設が並ぶ岩内町野束の高台を「岩内コミュニティの丘」と名付け、連携強化に努めています。

施設一覧

介護老人保健施設コミュニティホーム岩内、通所リハビリテーション、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、デイサービスセンターま〜れ、ケアプランセンターさつき、訪問看護ステーション岩内、岩内町地域包括支援センター、介護予防サロンりはる、事業所内保育所ゆいまる

社会復帰 生活支援

介護老人保健施設

コミュニティホーム岩内

〒045-0024 岩内郡岩内町字野束69-26 TEL 0135-62-3800 <http://www.keijinkai.com/c-iwanai/>



岩内町と周辺町村を中心とした後志地区の介護拠点としての機能を担う施設です。病状が安定期にある方に、看護・介護・リハビリテーションを中心としたサービスを提供しています。全室個室のユニットケアにより、一人ひとりの暮らしに配慮しながら、住み慣れた地域で生活が継続できるよう各職員が取り組んでいます。

DATA

- 開設 2007年4月
- 定員
- 施設入所 …………… 100名
- 通所リハビリテーション …………… 50名
- 通所介護 …………… 10名
- 協力医療機関
岩内協会病院、済生会小樽病院

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：141名
医師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、栄養士、看護師、介護員、支援相談員、事務職員
- 研修参加・実施状況 看護・介護基礎研修、新人研修、全職員を対象としたユニットケア研修、ユニットリーダー研修（前後期1名ずつ）を実施
- 2014年度実績 入所：99.3名／日 通所リハビリテーション：38.2名／日 地域包括支援センター：相談件数延べ150件 訪問看護：13.1名／日 通所介護（ま〜れ）：8.5名／日

介護

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

岩内ふれ愛の郷^{さと}

〒045-0024 岩内郡岩内町字野束69-4 TEL 0135-62-3131 <http://www.keijinkai.com/iwanai/>



日常生活に常時介護が必要な高齢の方に、ふれあい（愛）のある温かな介護サービスを提供する入居施設です。リハビリで身体機能の維持・回復が見込まれる方には、持てる機能を発揮できるよう全職員がそれぞれの立場から取り組んでいます。レクリエーションや趣味のクラブ活動を通し、生きがいある暮らしを送れます。

DATA

- 開設 2012年4月
- 定員
- 施設入所 …………… 50名
- 短期入所生活介護 …………… 10名
- 主な特徴 介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、障害福祉サービス事業所併設
- 協力医療機関 泊村立茅沼診療所、済生会小樽病院

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：32名
医師（嘱託）、看護職員、介護員、相談員、栄養士、理学療法士ほか
- 研修参加・実施状況 キャリア支援室研修、全国老人福祉施設大会などに参加
- 2014年度実績 入所：51名／日 短期入所生活介護：7名／日

介護 介護老人福祉施設
(特別養護老人ホーム)

月寒あさがおの郷

〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 TEL 011-858-3333 <http://www.keijinkai.com/asagao/>



DATA

- 開設 2011年8月
- 定員 施設入所…………… 80名
短期入所生活介護…………… 8名
通所介護(一般型)…………… 45名
- 協力医療機関
ごとう内科クリニック、定山溪病院、札幌
歯科口腔外科クリニック

交通の便が良い閑静な住宅街に立地し、ご家族や地域社会とのつながりの中で暮らすことを大切にした特別養護老人ホームです。10名を1ユニットとしたケアにより、家族のようなふれあいの中で日常生活をお手伝いしています。また、完全個室により一人ひとりのプライバシーにも配慮をしています。個々に合わせた機能訓練や手厚い健康管理など安心のある中で、笑顔と生きがいのある毎日を送っていただけるよう、各職員が努力を重ねています。

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：90名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加は57回延べ102名、内部研修参加は看取りケア研修・感染症研修・認知症研修・キネステイクス研修などを実施し延べ561名
- 2014年度実績 入所：79.0名／日 短期入所生活介護：5.5名／日 通所介護：33.5名／日

介護 介護老人福祉施設
(地域密着型特別養護老人ホーム)

菊水こまちの郷

〒003-0814 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 TEL 011-811-8110 <http://www.keijinkai.com/kikusuikomachi/>



DATA

- 開設 2007年7月
- 定員 施設入所…………… 29名
小規模多機能型居宅介護… 29名
(登録定員、1日定員は通い18名、泊まり6名)
- 認知症対応型通所介護…………… 3名
- 協力医療機関
広川内科クリニック、白石中央病院、白石明日佳病院、札幌ひばりが丘病院、札幌歯科口腔外科クリニック

入居型の「地域密着型介護老人福祉施設」と、通い・訪問が中心の「小規模多機能型居宅介護」を併設する施設です。ご利用者さま一人ひとりの個性やご家族・地域との結びつきを大切にしながら、その方に合わせたサポートを提供しています。入居においてはアットホームな雰囲気です。わが家」のように暮らせ、通い・訪問においても同じスタッフがなじみのある人間関係を築くことで「わが家」のように過ごせるひとときを実現しています。

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：40名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修は参加53回延べ53名、内部研修は接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策など実施11回延べ217名
- 2014年度実績 入所：28.2名／日 小規模多機能型居宅介護：22.8名／日

社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム白石

〒003-0024 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 TEL 011-864-5321 <http://www.keijinkai.com/c-shiroishi/>



都市型の介護老人保健施設として白石区の中心部に位置し、在宅復帰・在宅生活支援の継続を積極的・総合的に支援しています。入所・ショートステイ・通所などさまざまな形でご利用者さまの生活支援と、生活機能の維持・向上をめざすリハビリを提供します。地域の信頼と連携を大切にサービスを継続していきます。

DATA

- 開設 1989年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)…………… 100名
通所リハビリテーション…………… 50名
- 主な特徴
ISO9001認証(審査登録)、居宅介護支援、ホームヘルパーステーション、グループホーム白石の郷(定員18名)、デイサービスセンター白石の郷(定員55名)、ショートステイセンター(定員19名)併設

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：196名 医師、看護師、介護員、支援相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加90回延べ390名、内部研修実施8回延べ395名
- 2014年度実績 入所：94.2名／日 通所リハビリテーション：40.8名／日 短期入所生活介護：15.4名／日 訪問介護：36.4回／日 居宅介護支援：延べ2,448件 地域包括支援センター：相談件数延べ1,146件 介護予防センター延べ相談件数：白石中央136件

社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム八雲

〒049-3117 二海郡八雲町栄町13-1 TEL 0137-65-2000 <http://www.keijinkai.com/c-yakumo/>



豊かな環境の中で、充実したリハビリテーションを提供し社会復帰を支援する施設です。ケアのプロフェッショナルたちが、チームワークを活かし医療とリハビリ、日常生活援助など総合的なケアサービスを提供します。介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしく過ごしていただけるよう、ケアの質向上をめざします。

DATA

- 開設 1998年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)…………… 90名
通所リハビリテーション…………… 45名
- 主な特徴
訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所、ホームヘルパーステーション併設
- 協力医療機関
八雲総合病院、ヤクモ歯科クリニック

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：87名 医師、看護師、療法士、ケアマネジャー、介護員、相談員、管理栄養士ほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加72回延べ136名、内部研修は救急救命実践、スキルアップ、抑制廃止など実施12回延べ336名
- 2014年度実績 入所：87.1名／日 通所リハビリテーション：26.2名／日 訪問リハビリテーション：5.3回／日 訪問介護：7.7回／日 居宅介護支援：延べ968件

社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム美唄

〒072-0016 美唄市東5条南7丁目5-1 TEL 0126-66-2001 <http://www.keijinkai.com/c-bibai/>



美唄市と近郊の方に、入所・通所による生活復帰とその後の生活を支援するサービスを提供しています。看護・介護・リハビリテーションを中心とする医療サービスと日常生活支援により自立をめざします。また、開設当初から雪氷冷熱エネルギーを利用する冷房システムを採用し、環境負荷を軽減した施設運営を行っています。

DATA

- 開設 2000年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)…………… 80名
通所リハビリテーション…………… 50名
- 協力医療機関
市立美唄病院、宝崎歯科分院

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：91名
医師、療法士、看護師、介護員、管理栄養士、支援相談員、事務職員ほか
- 研修参加・実施状況 内外合わせて61回延べ125名、人材育成のため積極的に各種研修を受講している
- 2014年度実績 入所：78.8名／日 通所リハビリテーション：44名／日

社会復帰
生活支援

軽費老人ホーム (ケアハウス) カームヒル西円山

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 TEL 011-640-5500 <http://www.keijinkai.com/calm-nishimaruyama>



自炊が難しい程度の身体機能低下がある方に、食事・入浴準備・緊急時対応・生活相談と助言を基本サービスとして提供し、自立維持して生活できるケアハウスです。入居中に要介護状態になってもできるだけ生活が続けられるよう、「特定施設入居者生活介護」提供施設の指定を受け、必要な介護や支援も行っています。

DATA ●開設 1996年4月
●定員 100名(特定施設含む)

●主な特徴 「特定施設入居者生活介護」の提供施設 など
●協力医療機関 札幌西円山病院

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：19名 看護師、介護員、相談員、事務職員ほか
- 資格保有職員 介護福祉士9名・正看護師2名
- 研修参加・実施状況 内部18回、外部44回
- 2014年度実績 入所：98.2名／日(うち特定入居者34.5名／日)

社会復帰
生活支援

美唄市東地区生活支援センター すまいる

〒072-0015 美唄市東4条南5丁目1-4 TEL 0126-66-2525 <http://www.keijinkai.com/smile/>



高齢者や障がいのある方が、住み慣れたご自宅や地域で生活できるよう、通所・訪問による援助や、利用できるサービスの紹介、相談、調整や手続きなどさまざまな支援を行います。また、施設の入浴機能を利用した福祉入浴事業も実施しており、地域住民の交流の場としての役割も担っています。

DATA ●開設 1999年4月

●事業内容 通所介護(一般型25名)、訪問介護、居宅介護支援、ライフサポートアドバイザー、福祉入浴

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：56名 ケアマネジャー、訪問介護員、看護師、介護員ほか
- 研修参加・実施状況 各種研修参加延べ115名、その他訪問介護、通所介護、居宅介護支援の各事業所内研修を毎月1回開催
- 2014年度実績 通所介護：23.0名／日 訪問介護：53.3名／日 居宅介護支援：延べ2,244件 福祉入浴：12.6名／日 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業：4,055件

生活支援
通所介護

おおしまハーティケアセンター

〒988-0604 宮城県気仙沼市廻館55-2 TEL 0226-26-2272 <http://www.keijinkai.com/ooshima-h/>



宮城県気仙沼市の大島にある高齢者福祉施設で、溪仁会グループが道外で唯一運営しています。ショートステイや通所により、介護が必要な高齢の方とご家族を支えています。また、離島の健康を支える訪問看護も実施しています。地域と連携し、さまざまな交流の機会や、講演会などの啓発活動にも力を入れています。

DATA ●開設 1999年8月
●デイサービス 通所介護(一般型) ……………30名

●ショートステイ……………9室
●主な特徴 指定居宅介護支援事業所・ホームヘルパーステーション・訪問看護ステーション・在宅介護支援センター併設

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：40名 看護職員、介護職員、ケアマネジャー、相談員ほか
- 2014年度実績 通所介護：23名／日 訪問介護：4名／日 居宅介護支援：107件／月 訪問看護：1名／日 短期入所：8名／日 在宅介護支援センター：相談件数延べ847件
- 地域との交流 ミニ・デイ：廻館ほか7件(計173名参加)、講演会ほか(計25名参加)、センター見学会：6件(計55名参加)

生活支援
通所介護

青葉ハーティケアセンター

〒004-0021 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 TEL 011-893-5000

<http://www.keijinkai.com/aoba/>



介護が必要になった方へ食事や入浴のサービス、健康管理やレクリエーションを提供する通所介護事業を行っています。ご家庭で療養中の方への訪問看護や、自宅での介護についての支援も実施しています。

DATA

- 開設 1999年12月
- 主な特徴 指定居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション併設
- デイサービス 通所介護(一般型) …… 65名

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：43名 生活相談員、看護職員、介護職員、ケアマネジャー、作業療法士ほか
- 研修参加・実施状況 通所介護、居宅介護、訪問看護におけるグループ内外主催の研修に多数参加
- 2014年度実績 通所介護：49.1名／日 居宅介護支援：延べ175件 訪問看護(あおば)：20名／日

生活支援
通所介護

豊平ハーティケアセンター

〒062-0009 札幌市豊平区美園9条5丁目4-21 TEL 011-831-5000

<http://www.keijinkai.com/toyohira-h/>



病気や障がいをお持ちで、ご家庭で療養している方へのデイサービスを実施しています。各種保険・福祉サービスを職員が全力で提供するほか、趣味の活動を幅広く取りそろえ、楽しく過ごしていただけます。

DATA

- 開設 2009年4月
- デイサービス 通所介護(一般型) …… 65名

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：28名 相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 内部研修10名、外部研修5名参加
- 2014年度実績 通所介護：56.5名／日

生活支援
通所介護

円山ハーティケアセンター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西19丁目1-2ファミール第2大通 TEL 011-632-5500

<http://www.keijinkai.com/maruyama-h/>



介護保険で要介護認定を受けた方への通所介護と、要支援認定の方への介護予防通所介護を行っています。また「ケアプランセンターこころ まるやま」を併設し、在宅介護へのさまざまなサポートも実施しています。

DATA

- 開設 2009年4月
- 主な特徴 指定居宅介護支援事業所併設
- デイサービス 通所介護(一般型) …… 75名

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：37名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 各種外部研修へ参加のほか、施設内勉強会を年12回実施
- 2014年度実績 通所介護：60名／日 居宅介護支援：延べ1,316件

生活支援
通所介護

新琴似ハーティケアセンター

〒001-0912 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45 TEL 011-763-5500

<http://www.keijinkai.com/shinkotoni-h/>



地域にお住まいで介護を必要とされる方にデイサービスを提供しています。機能訓練指導員により、ご利用者さま一人ひとりに合わせて運動メニューを考案し、より元気な生活を送っていただけるよう支援します。

DATA

- 開設 2009年4月
- 協力医療機関 新琴似ファミリークリニック
- デイサービス 通所介護(一般型) …… 65名

2014年度 運営概要

- 職員状況 職員数：36名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 外部研修会に19回参加、施設内勉強会は11回開催
- 2014年度実績 通所介護：52.2名／日

身体障がい者
支援

医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目357-22 TEL 011-685-2799 <http://www.toseikai.net>



困難を抱える患者さまとご家族を支援する

在宅で人工呼吸器などの医療を必要とする方々が、安心して生活できるよう支援する在宅療養支援診療所です。医師・歯科医師による訪問診療のほか、病気・障がいを持つ方への訪問看護・訪問介護によっても在宅生活を支援します。

また、小児患者さまを中心に重症心身障がいの方を一時的に預かる医療型短期入所（レスパイト）も実施しています。医療職と介護職、ソーシャルワーカーなど専門スタッフによる多職種チームにより、患者さまだけでなくご家族の負担も軽減する支援を提供しています。

さらに、患者家族交流会や「みらいづくり学校」（P35参照）により交流の場をつくり、障がい者とその家族が参加できる社会の形を地域と共に考えていきます。



2014年度 運営概要

●延べ患者数……………	249名／月	●訪問看護……………	346件／月
●訪問診療延べ患者数……………	198名／月	●訪問介護……………	196件／月
●地域別患者数		●医療型短期入所……………	91件／月
札幌市87名／月、その他14名／月			

DATA

- 開設
2013年11月1日
- 職員状況
職員数：39名 医師4名、歯科医師1名、看護師14名、准看護師1名、理学療法士2名、作業療法士3名、介護職7名、社会福祉士1名、歯科衛生士1名、事務職4名、運転手1名
- 事業内容
在宅療養支援診療所「生涯医療クリニックさっぽろ」（無床）
訪問看護ステーション「くまさんの手」
居宅介護事業所「くまさんの手」
短期入所事業所「どんぐりの森」（レスパイト、定員10名）
- その他の取り組み
小児在宅医療勉強会（年1回）
家族交流会「ぞうさんネット」（年1回）
「みらいづくり学校」（手稲、星園）で各種イベントを開催



福祉用具

株式会社ハーティワークス

〒003-0030 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F TEL 011-863-8010 <http://www.keijinkai.com/heartyworks/>



福祉用具や住宅改修で在宅での生活を支える

福祉用具のレンタル・販売、住宅改修などにより、介護が必要な方の在宅での生活を支えています。さまざまな資格を取得した福祉用具専門相談員が、暮らしに寄り添い信頼できるサービスを提供するほか、福祉用具や住宅改修についての情報提供にも努めています。

- | | | |
|--|---|--|
| DATA <ul style="list-style-type: none"> ●開設 2005年1月 ●職員状況
職員数：10名 ホームヘルパー1・2級資格者、ケアマネジャー資格者、福祉用具専門相談員ほか | <ul style="list-style-type: none"> ●業務概要
福祉用具のレンタルおよび販売／住宅改修全般の相談・施工／病院・施設内の備品、家具、福祉機器、ユニフォームの販売／車いすのオーダー製作および修理 | <ul style="list-style-type: none"> ●主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、介護保険指定居宅サービス事業者（福祉用具貸与・販売、住宅改修）、障害者総合支援法 補装具委託事業者、障害者総合支援法 日常生活用具委託事業者 |
|--|---|--|

2014年度 運営概要

福祉用具貸与利用者……………	7,756名
特定福祉用具件数……………	129件
住宅改修件数……………	115件
日常生活用具件数……………	77件
車いす製作件数……………	147件

在宅支援
生活支援

株式会社 ソーシャル

<http://www.keijinkai.com/social>

- ソーシャルヘルパーサービス白石／〒003-0808 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 TEL 011-817-7270
- ソーシャルヘルパーサービス中央／〒060-0007 札幌市中央区北7条西17丁目11 TEL 011-633-1771
- ソーシャルヘルパーサービス西／〒063-0828 札幌市西区発寒8条10丁目4-20 TEL 011-669-3530



ホームヘルパーが自宅での生活をお手伝い

介護が必要な方のご自宅を訪ね、地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿ってサービスを提供する訪問介護事業を行っています。また、介護が必要となる前に要支援認定を受けた方の家事のお手伝いをする、介護予防訪問介護も実施しています。訪問するヘルパーは、介護福祉士またはホームヘルパー2級以上の有資格者です。



2014年度 運営概要

●訪問介護利用者……………	3,402名
延べ利用回数……………	34,219回
●介護予防訪問介護利用者……………	4,443名

福利厚生

溪仁会健康保険組合

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F TEL 011-699-1180

職員とその家族の健康をさまざまな面から守る

医療・福祉サービスの提供者として、職員とその家族の健康を守ることを使命とし、溪仁会健康保険組合が設立されました。職員の福利厚生の充実と、健やかに働ける職場環境づくりをめざし、被保険者とその家族に生活習慣病予防や健康管理など、ニーズに適した柔軟かつきめ細かいサービスを提供しています。

DATA

- 設立 2009年10月
- 加入対象
医療法人溪仁会、社会福祉法人溪仁会、株式会社ハーティワークス、株式会社ソーシャル、医療法人稲生会の職員（被保険者）と家族（被扶養者）
- 加入者数 被保険者4,253名 被扶養者2,028名 計6,281名

CSR経営による 持続可能な組織の姿をめざして

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

田中繁道

第二期中期5ヶ年計画を振り返って

溪仁会グループは、戦略的な経営を展開するために、5年単位の中期計画を策定し、それに基づいた組織運営を行っています。2015年度は「第二期中期5ヶ年計画」の最終年度に当たり、これまでの取り組みの集大成と評価を行うとともに、次期に向けた中期計画の検討を進めています。

第二期中期5ヶ年計画では、1)信頼される医療・介護・福祉サービスの提供 2)誇りが持てる医療・福祉の環境 3)CSR経営の実行 の3つの柱を掲げてきました。社会保障制度改革など、医療や福祉を取り巻く環境が厳しさを増す中において、一定の成果を上げることができたのではないかと自負しています。

1)については、職員の誠実な努力もあり、予定されたプロジェクトはほぼ計画通りに実行することができました。今年度だけでも、手稲溪仁会病院の新棟の竣工・稼働(Tプロジェクト)や、桑園地区における新病院開設計画の始動(Kプロジェクト)など、大型のプロジェクトが進行しています。

2)については、職員へのサポート体制の整備や、教育・研修制度の充実などを実施してきました。新たにヒューマン・リソース・マネジメントの視点を取り入れながら、職員がより能力を発揮できる環境づくりに取り組んでいます。

3)は、溪仁会グループの根幹となる重要なビジョンです。今期は、CSR経営をより確実なものにする取り組みの一つとして、独自の溪仁会マネジメントシステム(KMS)の構築と運用を行いました。内部監査体制の強化やPDCAサイクルの定着によって、業務の継続的な改善を図ることを目標にしています。

人と社会を支えるCSR経営

CSR経営は、溪仁会グループの組織活動を支える理念として、2004年から取り組んできました。昨年の10月には、溪仁会グルー

プの社会的使命として、『「ずーっと。」人と社会を支える』というコーポレートスローガンを再定義いたしました。この言葉に、私たちが果たすべきCSRのすべてが表現されています。地域の皆さまの暮らしに寄り添い、常に質の高いサービスを提供し続けることこそが、医療・保健・福祉の担い手としての使命です。その実現のためにも、CSR経営によって、組織基盤をより強固なものにすることをめざしています。

溪仁会グループのCSR活動を広く知ってもらうための有効なツールが、「溪仁会グループCSRレポート」です。10回目の発行となる2015年版は、社会的責任の国際規格であるISO26000の7つの中核主題に沿って構成されています。ISO26000をご存じない方でも分かりやすい内容になっていますので、本レポートをきっかけに関心を持っていただきたいと思います。

2015年版は全職員に配布いたします。職員の皆さんはぜひ自宅に持ち帰り、ご家族にも見せてほしいと思います。溪仁会グループが取り組む社会的使命の意味をご家族にも理解してもらうことが、仕事のやりがいや支えにつながると期待しています。

2025年に向けたモデル形成を

社会の少子高齢化が進む中、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、構築が急がれているのが地域包括ケアシステムです。超高齢社会を支えるシステムとして、高度急性期医療から在宅医療、介護までの一連のサービスを地域において一体的に提供する体制づくりが求められています。

溪仁会グループにおいても、地域包括ケアシステムへの対応を重点課題と捉え、取り組みを強化しています。在宅医療に力を注いできた手稲家庭医療クリニックに加え、2017年に桑園地区に開設される新病院では複合的な在宅ケアや回復期リハビリテーションを提供する予定です。また、慢性期医療を受け持つ札幌西門山病院や定山溪病院も地域での活動を展開するなど、グループ

全体で地域包括ケアシステムへの対応を推進しています。

今後は、医療、保健、福祉のサービスを幅広く担う組織として、その機能を十分に発揮するために、グループ内の連携をさらに進めることを目標にしています。病院や施設、事業所の連携をより実効性の高い中身にする事で、地域包括ケアシステムの一つのモデルを示したいと考えています。

2025年までの展望は、制度改革や社会情勢の変動など、まだ未知数といえます。「地域医療連携推進法人制度」への対応を含め、動向を見極めながら、着実に地域の未来を描いてまいります。

信頼される組織であるために

私たち溪仁会グループは、地域の医療、保健、福祉サービスを担う組織として、公益性と持続可能性を担保する必要があります。そのためには、経営を維持、発展させていかなければなりません。私は、医療や福祉の分野にもマーケティングの視点が大切だと考えています。地域と密接なコミュニケーションを図りながらニーズを的確につかみ、イノベーション(革新)によって新しい価値や満足を生み出すこと。それが健全な経営の持続を実現し、サービスの継続的な提供につながるのです。

特性を活かした独創的なサービスの創出やグループ全体としての一体感の醸成、客観的な評価に応えられるサービスの追求など、社会的使命を果たすための取り組みはこれからも続きます。溪仁会グループが存在する意義と有用性を地域社会に認めていただき、ご理解いただくことによって、私たちのCSR経営はより確かなものになると考えています。

溪仁会グループは、創業者である加藤 隆正先生の「創業期」、秋野 豊明会長が築かれてきた「第二の創業期」を経て、「発展期」の段階を迎えています。これまで培ってきた溪仁会ブランドの価値をさらに高めながら、社会から信頼され、必要とされる組織づくりに全力で臨んでまいります。





駿河台大学経済経営学部
同大学院総合政策研究科教授
日本経営倫理学会副会長・博士（経営学）

水尾 順一

【プロフィール】
(株)資生堂を経て1999年駿河台大学に奉職、現在に至る。(株)アデランス社外取締役、(社)経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員ほか。著書:『マーケティング倫理が企業を救う』生産性出版、『人に好かれる会社』サンライズ出版・共編著、『CSRで経営力を高める』東洋経済新報社、『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房など

企業でCSRを実践し、大学と学会でその理論構築をしながら、“CSRの理論と実践の融合”を社会に促進してきた立場から、今年度の報告書に沿って以下に第三者意見を述べます。

高く評価できる点

1.特集記事を通して、「地域包括ケアに向けた過去・現在・未来」への取り組みを知ることができます。

溪仁会グループ(以下、同グループ)は、2004年にCSR経営への取り組みを宣言し、医療・保健・福祉分野では日本初のCSRレポートを2006年に発行、今年で記念すべき10年の節目を迎えています。毎年特集記事をはじめとしてレポート全体から医療の先進的な取り組みや職員の真摯な活動を知り、同グループの社会的責任を果たす姿を見てきました。

2015年版では、「地域包括ケア」の実現に向けて、①「Kプロジェクト」への取り組みによる新病院の開設や新たなまちづくり構想、②2005年に北海道で最初の民間病院として取り組んだ「道央ドクターヘリ」事業、③広域な医療圏を支える取り組みとして「手稲溪仁会医療センター」の先進的な活動、④超高齢社会における「包括ケアシステム構築への対応」など、溪仁会グループのCSRに関わる過去一現在一未来を知ることができます。

しかも、単に活動の先進性を伝えるのみならず、これらの活動を支える人に焦点をあて、彼ら・彼女たちの想いを伝えています。同グループの根幹をなす「人間主義経営(自己実現の経営)」を実践する組織として、「人財」を重視する姿勢も知ることができます。

2.ISO26000に準拠するとともにステークホルダー・ダイアログを実践し、医療分野におけるCSR経営の先進モデルといえます。

今年のレポートは、7つの中核主題をもとに同グループのわかりやすいメッセージを添えて報告しています。例えば「消費者課題—みんなの笑顔のために」などで、このメッセージはイラストと共になって、とすると冷たさを与えがちな報告書の印象を変え、読者に親しみと温かさを感じ

じさせる構成となっています。同グループのコポーレート・スローガンである「ずーっと。」のイメージがここにも活かされています。

また、昨年、筆者が提案申し上げたステークホルダー・ダイアログを、2015年版では誌上対談で実現させました。このダイアログでの意見は今後の同グループのCSR経営に大きなヒントを提供しています。

今後に期待する点

今後の課題と重点活動を「見える化」することで、より一層のCSR経営の進化を期待します。

CSR経営の重要な目的の一つに組織のイノベーションに貢献することがあり、CSRレポートはそのための大切な役割を担っています。2015年版からは新たに各項目でChallenge—Actionという今年の目標と行動結果が示され、方向性が最初に理解される仕組みになっており、同グループが進めるマネジメントシステム(KMS)の一端を見ることができます。それらの結果は、巻末(右ページ)のISO26000対比表にもまとめられ進化するCSR経営の状況を一覧で知ることも可能になりました。

今後はさらに一歩進めて、同グループに残された課題と今後の重点活動を明示することで、全職員が一体となって取り組むべき方向性を「見える化」することが期待されます。

例えば、①今年掲げている取り組み内容に今後の重点活動を加えて「Challenge—Action—Follow」と明示する、②巻末のISO26000対比表に「残された課題と今後の重点活動」の項目を追加する、ことで全職員の意識統一を図ることができます。

イノベーションは全職員が共通の目標に向かって邁進することで一体感の醸成につながり、目標の実現にドライブをかけることも可能となります。

常に先進的なCSR経営を進めながら、社会とともに歩み続ける溪仁会グループが、「ずーっと。」榮え続けることを心から祈念申し上げます。

ISO26000 対比表

溪仁会グループでは、社会的責任の国際規格であるISO26000を手引きとして、より確実にCSR経営を実行することをめざしています。CSRレポート2015に掲載した取り組みを、7つの中核主題に分類すると以下の通りになります。

中核主題	課題	溪仁会グループ 行動基準項目	取り組み内容
組織統治 	組織統治	すべて	溪仁会グループの社会的使命(P6) 溪仁会グループの事業理念(P7) ヒューマン・リソース・マネジメントへの取り組み(P50) CSR経営を強化する溪仁会マネジメントシステムの運用(P51) Human Story③KMSの活用を現場で進める品質管理責任者(P51)
人権 	課題1: デューディリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	③人権尊重	誰もが働ける社会をめざす障がい者雇用の取り組み(P40) 困難を抱える人々と共により良き社会をめざして(P41) 患者さまの尊厳を大切にする抑制廃止の取り組み(P41)
労働慣行 	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	⑥教育研修 ⑪職場環境	グループ職員とご家族の健康を守るために(P42) 職員と家族の相談窓口「まめやか相談室」開設(P44) 「溪仁会グループ職員・ご家族35周年ありがとうフェスタ」開催(P44) 学びの文化を育てる「溪仁会グループ研究発表会」(P45) Human Story②研究発表会の発展に尽くした立場から(P45)
環境 	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生態地の回復	⑩環境保護	数字で読み解く溪仁会グループの歩み(P28) 一人ひとりが環境意識を高めるために 「Fun to ECO project～エコびとエコもの表彰～」(P48)
公正な事業慣行 	課題1: 汚職防止 課題2: 責任ある政治的関与 課題3: 公正な競争 課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5: 財産権の尊重	④順法精神	公正な事業活動に向けた外部パートナーとの取り組み(P46) 公正な事業取引に向けた管理・評価システム(P47)
消費者課題 	課題1: 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2: 消費者の安全衛生の保護 課題3: 持続可能な消費 課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5: 消費者データ保護及びプライバシー 課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7: 教育及び意識向上	①顧客満足 ②品質管理 ⑤技術変革 ⑦チームワーク ⑧情報公開 ⑫個人情報保護	「Nプロジェクト」によるアメニティ向上(P20) 一人ひとりに合った検査を実施するために(P21) 在宅医療の質向上に挑む手稲家庭医療クリニックの取り組み(P21) 溪仁会グループ広報誌「サラネット」がBHIデザイン最優秀賞を受賞(P22) 福祉用具を知っていただく取り組み(P22) 岩内町に「介護予防サロン」はる「オープン」(P23) Human Story①経験を積み重ねたホームヘルパー(P23) Progress 手稲溪仁会病院がめざす質の高い医療への取り組み(P24) 数字で読み解く溪仁会グループの歩み(P28)
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 	課題1: コミュニティへの参画 課題2: 教育及び文化 課題3: 雇用創出及び技能開発 課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス 課題5: 富及び所得の創出 課題6: 健康 課題7: 社会的投資	⑨地域重視	親しみやすい活動で地域の介護予防をサポート(P30) 町と連携して地域医療のモデルづくりを担う(P31) 高齢者医療の知識を還元する「医療公開講座」を開催(P32) 認知症患者さまとご家族の交流を図る「スマイルカフェ」(P32) 子どもたちが夢に近づく「ブラックジャック セミナー」(P33) コミュニティラジオで健康と医療・福祉の情報を発信(P33) 働く人たちと二人三脚で進める「健康増進プログラム」(P34) 地域と連携を深めるコミュニティ活動(P34) 共に学び、よりよき社会をつくる「みらいつくり学校」(P35) 町の交流の拠点「六中二はつらつサロン」(P35)

医療・保健・福祉サービスの用語集



【1次・2次・3次救急】

日本の救急医療体制は、都道府県が策定する医療計画に基づき、患者の重症度に応じて3段階の体制をとっています。

1次救急(初期救急)は入院や手術を伴わない軽症の患者さまへの診療を受け持ち、休日夜間急病センターや在宅当番医が行います。2次救急は、一般病棟への入院を必要とするような患者さまへの診療を担当します。いくつかの病院が当番日を決めて受け持つ病院群輪番制や、中核施設に当番医が集まる共同利用型病院方式があります。3次救急は2次救急では対応できない高度な診療を受け持ち、救命救急センターや高度救命救急センターが担当します。

【医療連携】

地域にあるさまざまな医療機関が自分たちの機能や特色を明確にし、役割分担をしながら、互いに協力・連携して治療に取り組む医療体制のこと。医療機関は得意分野に専念することができ、患者さまはスムーズに質の高い医療サービスを受けることができます。

【インフォームドコンセント】

医師が治療方法などの説明を行い、患者さまに正しく理解してもらったうえで、納得と同意を得ること。患者さまの意思を尊重するための概念です。

【ADL(エー・ディー・エル)】

「Activities of Daily Living(日常生活動作)」の略。食事や移動、排泄、入浴など日常生活に必要な最低限の基本動作です。高齢者や障がいのある方の動作能力を判定する指標になります。

【エビデンス】

医学的根拠のこと。治療法、薬剤、検査方法など、「それが良い」「勧められる」という根拠を、臨床データなどを基にして示すことをいいます。

【介護老人福祉施設】

心身の重い障がいにより常時介護が必要で、自宅での生活が困難な65歳以上の方に、看護や介護、リハビリテーションなどを提供する施設。要介護度1～5と認定された方が対象になります。一般には「特別養護老人ホーム」と呼ばれています。

【介護老人保健施設】

介護が必要な方が自宅に復帰できるよう、看護や介護、リハビリテーションなどで支援する施設。介

護保険の被保険者で、入院治療の必要がない要介護度1～5と認定された方が対象になります。

【回復期病院】

生命の危機から脱して症状が安定し、自宅復帰をめざす段階の患者さまを対象にした病院のこと。「回復期リハビリテーション病院(病棟)」は、主に脳卒中や脊椎・骨盤骨折などの急性期治療を終えた患者さまに、専門的なリハビリテーションを提供します。

【かかりつけ医】

風邪や発熱など、さまざまな病気の初期症状に対応し、日常から健康状態の把握やアドバイスをを行う身近な存在の医師のこと。必要があれば、適切な治療が受けられるように専門的な医療機関を紹介し、患者さまの情報提供などを行います。



【カテーテル】

血管や尿管などに挿入して、治療や検査、体液の排出などを行うための細く柔らかい管。大きな傷をつくらず治療などができるため身体への負担がかりにくく、幅広い分野で普及が進んでいます。

【カンファレンス】

病院内で開かれる症例検討会のこと。担当する症例を持ち寄り、診断や治療方法について幅広い視点から話し合います。スタッフ間の情報共有の場としても活用されています。

【緩和ケア】

心身の苦痛を取り除き、できるだけ安楽に過ごしていただくことを目的にした医療的な処置のこと。多くは末期がんなどで余命が短い方に対して行われます。ご本人やご家族の要望を重視しながら、入院に限らず、ご自宅や通院でも対応します。

【QOL(キュー・オー・エル)】

「Quality Of Life(生活の質)」の略。精神面や身体面なども含めたその人らしい豊かな生活(人生)という概念。

【急性期病院】

病気の発症から急激に症状が進み、重症な状態にある患者さまに対して、入院や手術などの専門的で高度な医療を行う病院のこと。中でも、特に専門性や密度の高い医療を提供する病院を「高

度急性期病院」といいます。

【クリニカル・パス】

患者さまの入院から退院までの検査や手術、リハビリテーションなどのスケジュールをまとめた診療計画表のこと。クリティカル・パスともいいます。患者さまと医療者側の双方が、意識や情報を共有し、スムーズな治療をめざすためのものです。

【グループホーム】

病気や障がいを抱える人たちが、福祉サービスの支援などを受けながら、地域において、少人数単位の集団で生活するケアの形態。日本では認知症の高齢者を対象にした居住型施設という限定的な意味でも使われています。

【ケアマネジャー】

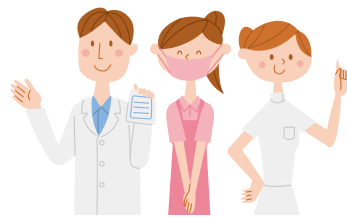
介護支援専門員ともいい、介護が必要と認定された方が適切なサービスを受けられるように、介護サービス計画(ケアプラン)を作成します。在宅介護サービス事業者や福祉施設、行政機関などとの連絡役を果たします。

【誤嚥】

食べ物や飲み物などを飲み込む際に、食道ではなく誤って気管に入ってしまうこと。飲み込む力が弱くなった場合などに起きやすく、肺炎や窒息の原因になることもあります。

【コメディカル】

医師と歯科医師以外の、医療に携わる専門職種の総称。看護師、薬剤師のほか、リハビリテーションを行うセラピスト、歯科診療に関わる歯科衛生士、検査業務を担当する臨床検査技師など、数多くの職種が含まれます。



【災害拠点病院】

災害時の初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関。24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、消防機関と連携し、傷病者の受け入れ・搬送をヘリコプターなどで実施できるなど、必要な機能が定められています。

【在宅ケア(医療)】

患者さまのご自宅で提供する医療のこと。特に、症状の重い患者さまがご自宅での生活を続けられることを目的に行う、訪問診療や訪問看護などを意味する場合もあります。

【産業医】

事業所で労働者が健康・快適な状態で業務ができるよう、専門的な指導と助言を行う医師です。

【シームレスなサービス】

「シームレス」とは継ぎ目がない、という意味。漢仁会グループでは、グループ内外の連携で医療、保健、福祉サービスを途切れることなくつなぎ、スムーズに提供しています。

【自由診療】

健康保険が適用されない診療のこと。認可前の新薬の使用や、最先端の診療を受けることが可能ですが、全額が自己負担になります。

【終末期】

治療での回復の見込みがなく、数週間から数カ月以内に死亡が予測される状態になった時期。ターミナル期ともいいます。

【紹介状】

正式には診療情報提供書といいます。かかりつけ医などから、より高度な医療を提供する医療機関に患者さまを紹介する際、症状や診断、治療経過などを明記し、スムーズに治療が引き継がれるようにするためのものです。

【小規模多機能型居宅介護】

通い(デイサービス)を中心に、必要に応じて訪問介護やショートステイを組み合わせ利用できる地域密着型の介護保険サービスです。

【褥瘡】

病気などで長期間、寝たきりになっていたために、腰やお尻、手足などの皮膚が圧迫されて壊死を起こした状態。床ずれともいいます。

【侵襲】

病気やけが、検査・手術といった医療行為など外部からの刺激によって、痛みや発熱、出血など体への負担がもたらされること。

【ステント】

金属製の網状のチューブです。血管などの中に置き、管の狭まりや詰まりを解消します。

【摂食・嚥下】

摂食は食べ物を摂ること。嚥下は食べ物を口から飲み込んで胃まで運ぶまでの機能のこと。高齢者などに多い摂食・嚥下障害は、この機能が正常に働かない状態をいいます。

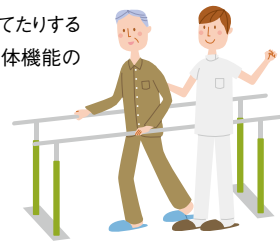
【セラピスト】

リハビリテーションを担当する専門職のこと。さまざまなセラピストがいますが、以下の3職種が中心となります。

【理学療法士(PT)】

歩行訓練や体操などの運動療法、患部を温めた

り電気刺激を当てたりする物理療法など身体機能の回復や維持を目的としたリハビリテーションを提供します。



【作業療法士(OT)】

趣味的な活動や日常生活動作(前ページ「ADL」の項参照)の訓練などを通して、身体や精神に障がいがある方や高齢者などにリハビリテーションを行います。

【言語聴覚士(ST)】

話す・聞く、言葉を理解するなど言葉のコミュニケーションや発声、摂食・嚥下の障がいのリハビリテーションに携わります。

【専門看護師】

特定の医療分野で、熟練した技術で看護を実践する看護師の資格です。がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、家族支援など11の分野が特定されています。

【ソーシャルワーカー】

生活上や身体上などの問題を抱えている人を、相談やアドバイスによって支え、社会復帰や自立生活に向けて援助する役割の総称。医療機関ではメディカルソーシャルワーカーとも呼ばれます。



【ターミナルケア】

終末期の患者さまに対する医療や看護、介護などのこと。患者さまがその方らしさを保ちながら人生を終えられるよう、延命的な医療処置よりも、苦痛や恐怖を取り除くケアを重視します。

【地域医療支援病院】

かかりつけ医・かかりつけ歯科医を支援し、地域医療を確保する能力・設備を備える役割を担い、高度医療・専門医療を提供する中核病院として都道府県知事により承認された病院です。紹介された患者さまに対する医療提供、医療機器の共同利用の実施などを行います。

【地域包括ケアシステム】

団塊の世代が後期高齢者となる2025年をめどに、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けられるように構築された、地域の包括的な支援・サービス提供体制。高齢者の尊厳を重視し、できるだけ自立生活を送れるように支援します。

【地域包括支援センター】

地域の高齢者が安心して暮らせるように、総合的な支援を行う窓口。市町村、あるいは市町村から委託を受けた医療・福祉法人などによって運営されます。介護予防の観点から、自宅で生活される高齢者またはその家族の相談に応じ、医療・福祉サービスなどが適切に提供されるようにします。

【特定健診／特定保健指導】

特定健診は生活習慣病予防のために2008年度から始められた健康診査。危険度が高いと判定されると、食生活や運動など生活習慣の改善をめざす特定保健指導を受けることになります。

【認定看護師】

救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、手術看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護など21の分野で、専門性の高い看護を実施する看護師の資格です。

【プライマリ・ケア】

身近にいて、さまざまな病気の診療や相談に対応してくれる医師(かかりつけ医)による総合医療のこと。プライマリ・ケアを行う医師は、専門のトレーニングを受け、あらゆる初期診療に対応できる能力を身につけています。

【慢性期病院(療養病床)】

急性期を過ぎ症状は安定したものの、経過の見守りが必要で自宅復帰が難しい患者さまに、長期間にわたって入院・治療を提供する病院のこと。

【看取り】

病気になった人の世話をすること。または亡くなるまでそばで看病し、見守ること。最近は後者の意味で使われることが多く、医療機関や介護施設による対応を指す場合もあります。

【メンタルヘルス】

精神(心)の健康、精神保健。生活や仕事の中で抱えるストレスが心の健康に影響し、40人に1人は心の病気を抱えるといわれます。特に職場でのメンタルヘルス対策が推進されています。

【ユニットケア】

少人数の入居者を1ユニット(生活単位)とし、介護スタッフと共同生活をしながら、一人ひとりの個性や生活のリズムに合わせた暮らしをサポートするケア。

【予後】

治療後などの症状についての医学的な見通し。病後の経過を指して使われる場合もあります。

【レスパイト】

介護が必要な障がいを持った方を一時的に預かり、日常的に介護している家族が休息できるよう支援すること。家族の介護疲れを防ぎます。

溪 仁 会 グ ル ー プ 一 覧

治療とケア

最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、365日・24時間体制であらゆる疾患・外傷の患者さまを受け入れています。

総合医療 手稲溪仁会病院
 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
 ☎011-681-8111

手稲溪仁会クリニック
 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15
 ☎011-685-3888

手稲家庭医療クリニック
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-685-3920

療養とケア

長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

療養病床 札幌西円山病院
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-4121

療養病床 定山溪病院
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3323

保 健

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック
 札幌市中央区大通西26丁目3-16
 ☎011-611-7766

介 護

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。

西円山敬樹園
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021

岩内ふれ愛の郷
 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎0135-62-3131

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らし、顔なじみのスタッフが日常生活のお手伝いをします。

月寒あさがおの郷
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333

さもべつ喜らめきの郷
 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎0136-33-2711

手稲つむぎの杜
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726

●地域密着型介護老人福祉施設

定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。

菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

るすつ銀河の杜
 虻田郡留寿都村字留寿都186-95
 ☎0136-46-2811

社会復帰生活支援

●介護老人保健施設

病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に保健・医療・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。

コミュニティホーム白石
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

コミュニティホーム八雲
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2000

コミュニティホーム美唄
 美唄市東5条南7丁目5-1
 ☎0126-66-2001

コミュニティホーム岩内
 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎0135-62-3800

●軽費老人ホーム(ケアハウス)

食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして、自立の維持ができる施設です。

カームビル西円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-5500

●認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。

グループホーム 白石の郷
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
 ☎011-864-5861

グループホーム 西円山の丘
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-2200

●短期入所生活介護(ショートステイ)

事情により介護ができないときに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。

西円山敬樹園ショートステイセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021

おおしまショートステイセンター
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

月寒あさがおの郷ショートステイセンター
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333

岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター
 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎0135-62-3131

ショートステイセンターつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726

●小規模生活単位型指定短期入所生活介護(ショートステイ)
コミュニティホーム白石ショートステイセンター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

●地域包括支援センター

高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。

札幌市白石区 第1地域包括支援センター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-4614

岩内町地域包括支援センター
 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎0135-61-4567

札幌市白石区 第3地域包括支援センター
 札幌市白石区本郷通9丁目南3-6
 ☎011-860-1611

●在宅介護支援センター

家庭で介護を必要とされるお年寄りなどやそのご家族の方に対し、在宅介護に関する総合的なご相談に応じます。

宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

●介護予防センター・介護予防サロン

高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。

札幌市中央区 介護予防センター円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6056

札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6055

札幌市白石区 介護予防センター白石中央
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5535

札幌市南区 介護予防センター定山溪
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3311

札幌市手稲区 介護予防センターまえた
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3141

介護予防サロンりはる
 岩内郡岩内町字万代19-7
 ☎080-2870-3186

●通所介護(デイサービス)

要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。

あおばデイサービスセンター
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-5000

豊平溪仁会デイサービス
 札幌市豊平区美園9条5丁目4-21
 ☎011-831-5000

円山溪仁会デイサービス
 札幌市中央区北1条西19丁目1-2
 ☎011-632-5500

手稲溪仁会デイサービスつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-2568

西円山敬樹園デイサービスセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-640-5522

デイサービスセンター白石の郷
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
 ☎011-864-3100

新琴似溪仁会デイサービス
 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45
 ☎011-763-5500

デイサービスセンターすまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525

デイサービスセンターおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

月寒あさがおの郷デイサービスセンター
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333

デイサービスセンターま〜れ
 岩内郡岩内町字万代45-10
 ☎0135-67-7511

るすつ銀河の杜デイサービスセンター
 虻田郡留寿都村留寿都186-18
 ☎0136-46-2811

●小規模多機能型居宅介護
 小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

●認知症対応型通所介護(デイサービス)
 手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい)
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3328

共用型デイサービス菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

●指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。

溪仁会在宅ケアセンターつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-2322

札幌西円山病院在宅ケアセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-5000

定山溪病院在宅ケアセンター
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-5500

居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-2252

居宅介護支援事業所 西円山敬樹園
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-644-7650

指定居宅介護支援事業所あおば
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-8761

居宅介護支援事業所すまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525

居宅介護支援事業所やくも
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2121

おおしまハーティケアセンター
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ
 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
 ☎011-632-0605

ケアプランセンターさつき
 岩内郡岩内町字万代45-10
 ☎0135-67-7801

ケアプランセンターこころ まるやま
 札幌市中央区北1条西19丁目1-2
 ☎011-640-6622

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所

障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。

相談室こころ ていね
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-2861

●訪問看護ステーション

看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。

はまなす訪問看護ステーション
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-684-0118

訪問看護ステーションあおば
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-5500

訪問看護ステーションおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

訪問看護ステーション岩内
 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎0135-62-5030

●訪問介護(ホームヘルパーステーション)

ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-644-6110

コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-2008

ホームヘルパーステーションすまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525

ホームヘルパーステーションおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

ケアセンターこころ
 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
 ☎011-632-0605

コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2122

ケアセンターこころ ようてい
 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎0136-33-2112

ソーシャルヘルパーサービス白石
 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6
 ☎011-817-7270

ソーシャルヘルパーサービス中央
 札幌市中央区北7条西17丁目11
 ☎011-633-1771

ソーシャルヘルパーサービス西
 札幌市西区発寒8条10丁目4-20
 ☎011-669-3530

福祉用具

福祉用具のレンタル・販売から、車いすのオーダーメイド製作・出張修理、住宅改修事業まで自宅での生活の安心を支えます。

株式会社 ハーティワークス
 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F
 ☎011-863-8010

地域医療支援

公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。

泊村立茅沼診療所
 古宇郡泊村大字茅沼村711-3
 ☎0135-75-3651

喜茂別町立クリニック
 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3
 ☎0136-33-2225

身体障がい者支援

身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。

医療法人稲生会
生涯医療クリニックさっぽろ
 ☎011-685-2799

訪問看護ステーションくまさんの手
 ☎011-685-2791

居宅介護事業所くまさんの手
 ☎011-685-2791

短期入所事業所どんぐりの森
 ☎011-685-2791

溪仁会グループ

●医療法人溪仁会 法人本部

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F／☎ 011-699-7500(代表)

●社会福祉法人溪仁会 法人本部

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F／☎ 011-640-6767

82 溪仁会グループCSRレポート2015

溪仁会グループCSRレポート2015 | 83

「ずーっと。」

人と社会を支える



私たち溪仁会グループは、
 社会的責任（CSR）経営を推進します。
 高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
 「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
 「地域社会の継続的な安心」を支えます。

ik 溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
 TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>